

1 研究活動の概要

県では、「岩手県農業・農村基本計画」を踏まえ、地域の立地特性を生かしながら、持続的な展開が可能となる農業を構築するための試験研究の指針として「岩手県農業試験研究推進構想」(平成12年3月策定。以下「推進構想」という。)を策定している。

本センターでは、この構想に基づき、

バイオテクノロジー等を利用した商品性の高い独自品種の開発や胚移植技術等を利用した家畜改良

国際化に対応できる超省力、低コスト生産技術の開発

自動化、システム化等先端技術を利用した革新的生産技術の開発

環境保全に配慮し、生態系を活用した持続型生産管理技術体系の確立

地域特性を生かしたオリジナルな農畜産物の加工・流通技術の開発と販売手法の確立

中山間地域の資源を生かした地域活性化手法の開発

農村地域の多面的機能に配慮した農業農村基盤の整備、管理技術の開発

栽培・飼養、経営、販売等各種管理システムを取り入れた新しい「総合農業情報システム」の確立

という8つの基本方向に即して、時代を先取りした試験研究を着実に進めてきている。

構想の中間年にあたる平成17年度は、現場ニーズに基づく課題等を選定し、内部・外部の評価を加えて、新規117課題、継続267課題、合計374課題に取り組み、130の成果をとりまとめた。

これらの試験研究の推進にあたっては、「試験研究評価制度」の円滑な運用や産学官との連携に取り組むとともに、研究成果については、迅速な普及・定着化に務めた。

また、「岩手県行財政構造改革プログラム」(平成15年10月策定)において、試験研究機関への地方独立行政法人制度の導入を検討するとされていることから、平成16年度に引き続き、農業研究センターの将来方向について検討し、主務課や農林水産部長との協議するとともに、農林水産部長と職員との意見交換を行った。なお、18年度においても引き続き検討することとされた。

2 トピックス

(1) ピーマン PMMoV 抵抗性 (L^3) 打破ウイルスの監視体制と蔓延防止対策について

ア 取り組みの背景とねらい

本県におけるピーマンは野菜振興の主力品目として推進されており、ウイルスの被害により減収が大きい産地や安定的な生産を目指す産地では、「京鈴」等の PMMoV 抵抗性 (L^3) 品種を中心に作付が拡大している。

農業改良普及センターを通じて行った調査によると、PMMoV 抵抗性 (L^3) 品種の作付割合は平成 17 年度には 30% 近くまで拡大している。しかし、PMMoV 抵抗性 (L^3) 品種を導入した県外産地においては、 L^3 打破ウイルスの発生によって甚大な被害を被っていること等から、本県においても安定的な生産を実現するため、 L^3 打破ウイルスの発生を未然に防ぐ体制づくりの確立が望まれていた。

そこで、農業研究センター（野菜畑作研究室・応用生物工学研究室・病理昆虫研究室・専門技術員室）、病害虫防除所、(財)岩手県生物工学研究センター（以下、「生工研」と略）と普及組織との連携による「ピーマン PMMoV 抵抗性 (L^3) 打破ウイルス監視体制」を構築し、打破系統出現の監視と蔓延防止対策に取り組んだ。

イ ウイルスの監視体制及び診断体制

監視体制は、農業改良普及センターが中心となって実施する診断第 1 ステップと、研究センター関係研究室、生工研等が中心となって実施する診断第 2 ステップで構成した。診断第 1 ステップは当初、外部病徴観察と植物ウイルス診断キットを活用した診断法としたが、診断キットが年度途中で販売停止となったため、ウイルス診断キットに変わる診断方法として TPI 法（ティッシュプリンティング免疫検定）を導入することとした。

実際には、現地農業改良普及センターが疑わしい個体の外部病徴の観察と共に汁液をメンブレンにスタンプして研究センターへ送付し、研究センターが TPI 法による診断を実施した。また、生工研は遺伝子診断による打破系統の確認を行った。

なお、平成 17 年 6 月初めに県内 1 農家において L^3 打破ウイルスの発生が確認されたため、病害虫防除所が「病害虫防除速報ピーマン編 NO.1」を発行し防除意識を高めるとともに、監視体制強化の一環として平成 17 年 8 月に生工研研究員を講師に、農業改良普及員を対象にした TPI 診断研修を実施した。

ウ 活動の成果

打破ウイルスの発生が確認された後、生工研の指導、協力を得ながら発生圃場全株の TPI 診断を実施して圃場内におけるウイルス発生・拡大の推移の把握を行うと共に、園主に対しては 発病株や隣接株の抜き取り、管理作業全般をハウス毎に完結させること等、蔓延防止策を指導した。

以上の取り組みにより発生農家においては発生圃場以外の圃場での発生は確認されなかった。また、TPI 診断での迅速な対応により全県においても前述の農家以外での発生は確認されなかった。

(2) JM7 利用樹の樹勢衰弱発生への対応について

ア 主な経過

りんごわい化栽培の新台幣として本県が奨励している JM7 について、平成 16 年頃から当センター圃場において樹勢の衰弱が顕在化した。調査の結果、根部に異常は認められず、接ぎ木部直下の台木部が異常に肥大し、木部から皮部にかけて褐変した組織が認められた。このことから、樹勢衰弱は接ぎ木部組織（台木部）の障害に起因するものと考えられた。

同様の症状が現地でも発生、拡大することが予想されたことから、JM7 の取り扱いについて農産園芸課をはじめ関係機関と協議を進めるとともに、専技室、各普及センターを通じて現地の実態調査を実施し、また、その原因解明と対策について平成 17 年度より新規課題「JM7 利用樹における樹勢衰弱の原因解明と対策技術の確立」を立ち上げた。さらに、JM7 の育生元である(独)生物系特定産業技術研究機構果樹研究所と協定研究「リンゴ JM 系わい性台木における生育不良の原因解明に関する研究」を平成 17 年 9 月に締結し、分担関係を明らかにしながら原因解明に当たることとした。

以上の結果、JM7 利用樹の樹勢衰弱は現地圃場ではまだほとんど発生しておらず、センター内圃場に特化していることが明らかとなった。なお、県外の研究機関では一部類似症状が見られている。また、原因については今だ特定するに至っていないが、発症樹への盛り土により接ぎ木部付近からの発根が確認されたことから、樹勢回復への手がかりが得られた。

イ 協定研究の主な内容及び分担関係

(ア) (独) 生物系特定産業技術研究機構果樹研究所

- a 担当部署 上席研究官、栽培生理研究室、病害研究室
- b 研究内容

挿し木繁殖性を有する JM 系わい性台木を用いたリンゴわい化栽培の早期普及をはかるため、JM 系台木において認められたリンゴ樹の生育不良・衰弱の原因について、接ぎ木親和性および接ぎ木伝染性ウイルスに関する試験等を実施し、その原因を解明する。

(イ) 岩手家農業研究センター

- a 担当部署 園芸畑作部果樹研究室、農産部応用生物工学研究室、病害虫病理昆虫研究室
- b 研究内容

JM7 を用いたリンゴ樹における樹勢衰弱について、樹勢衰弱の県内における発生状況の調査を行うとともに、接ぎ木部障害の原因を解明するため、接ぎ木部の内部構造解析並びに若木時における地上部や根部の生育状況、凍寒害や除草剤による障害などとの関係について解析を進める。また、発生樹における CLSV 等既知ウイルスの検定、培養系での接ぎ木コブ発生状況等について解析する。

(3) りんどうこぶ症研究プロジェクトチーム等の活動内容について

ア りんどうこぶ症については、共同研究を更に効率的に進めるため、平成 16 年度からプロジェクトチーム体制で取り組んできたところであり、東北農業研究センター、県生物工学研究センター、現地普及センター等と連携を図り、次のような活動を行った。

(ア) 試験研究の実施と工程管理

- a プロジェクトチーム会議(4/18、6/9、7/26~27、8/22、10/18、11/16、12/28)
試験実施に関わる設計、成績の検討、進捗状況の管理、現地検討等。

B 検討委員会(4/22、H18, 3/22)

研究全体の進捗状況の検討、研究組み立てに関する指導、助言等。

(イ) 現地検討

- a 関係機関合同現地検討会(6/9、7/26~27)
東北農研センター、花き研究所、安代リンドウ開発、生工研、農産園芸課、福島農試、現地普及センター等と、こぶ症発生の状況、試験圃の状況等について検討。
- b 福島県内こぶ症現地調査(9/6~7)

東北農研センター、生工研、福島農試と合同で発症状況等を調査。

c 中国地方りんどう生産県調査（9/28～30）

岡山県、鳥取県、山口県の状況を調査。山口県以外は、こぶ症の発生を確認。

(ウ) 現地試験、調査

安代町、石鳥谷町に設置した試験圃を、4月の萌芽以降、定期的に巡回して調査するとともに、各産地で普及センターが設置した試験圃の調査を行った。

また、細菌やウイルスの確認を依頼している中央農業総合研究センターや農業生物資源研究所に、随時現地から材料を採取し送付している。

(工) 「りんどうこぶ症の原因解明と発生防止技術の確立」に係るミニテーブルリサーチ（11/18）

りんどうこぶ症に取り組んでいる関係者が一堂に会し、現在までに解明されたこと、今後の方向性について協議した。

イ 今までの試験研究の取り組みによって、徐々にではあるが成果も上がってきている。その中で、平成17年度の研究成果として取りまとめた2題について紹介する。

(ア) 挿し木繁殖による「りんどうこぶ症」の伝達性について

平成16年度に、こぶ症発症株の越冬芽や茎頂、葉片を用いた組織培養により、試験管内において、地上部の典型的な症状である節こぶや茎の突起状細胞増生、根のこぶが再現されたため、発症株のこれらの組織には原因が存在し、栄養繁殖により伝達する、ということが成果として報告された（応用生物学研究室）。

平成17年度は、これを圃場栽培レベルにおいて確認した結果、前年にこぶ症を発症していた株から採穂、挿し木すると、発根率はやや劣るものの発根、活着し、節こぶ、節間短縮等のこぶ症に特異的な症状並びに節部増生が認められた。これにより、こぶ症が挿し木繁殖により伝達することが実証され、発生圃場からの採穂、挿し木繁殖は避けるよう、成果として取りまとめた（花き研究室）。

(イ) りんどうこぶ症の発症に病原体が関与する可能性について

平成16年度までに、りんどうこぶ症の発症株の組織中には原因が存在し、栄養繁殖により伝達することが明らかとなっていたので、更に一歩進め、こぶ症発症原因としての病原体の関与について確認した。

その結果、試験管内においてこぶ症発症株から採った穂木を、健全株を台木として接ぎ木したところ、台木に症状が伝染し、更に台木から発生した分枝を切り取って新たに培養した個体にも症状が再現された。

また、こぶ症発症個体の茎頂培養において、茎頂を大きく摘出して培養した個体ほど発症しやすいが、茎頂を0.4mm以下に摘出した個体では症状が発現していない。

このことから、りんどうこぶ症発症個体には病原体が存在し、茎頂培養によりフリー化できる可能性を示唆している、との研究成果をまとめた（応用生物学研究室）。

3 研究室の動き

(1) 企画経営情報部

企画情報室

今年度の重要課題は、岩手県行財政構造改革プログラム（平成 15 年 10 月策定）の取組事項とされている試験研究機関への地方独立行政法人制度の導入の可否判断についての検討であった。このため、平成 16 年度に引き続き、農林水産部の指示に基づき、職員との意見交換会（7 月）等を経て、本県の農業試験研究のあり方について検討し、農林水産部長と協議を行った。また、地方独立行政法人制度について、農林水産部長と職員との意見交換（4 月、11 月）を行ったが、結論を得るに至らなかった。

試験研究の業務については、要望課題の把握と課題の評価・選定、成果の評価・とりまとめ、成果の公表などを円滑に推進するとともに、試験研究情報システムの効果的な運営に努めた。

広報関係の取り組みでは、「研究レポート」（279 号～）の記載内容を見直し、顧客にわかりやすいものとして発行するほか、広報誌「トライアングル」の発刊（4 回）や報道機関等を通じて試験研究成果等の情報を提供した。

また、開かれた試験研究機関として「参観デー」（本部では「いわて花メッセ」と併催、畜産研究所は「全国農業機械展示会」と併催）や現地ふれあい農業研究センター（一関、遠野地方振興局管内で開催）、一日子供研究員の開催（8 月、1 月）及び科学技術週間行事としての春季一般公開を行ったほか、小中学校等の体験学習の機会を積極的に提供し、その指導を行った。

企画調整関係の取り組みとして、センター内諸会議（企画運営会議、全体会議等）や委員会（研究報告等企画編集委員会等）等の運営、関係機関（国、県及び関係団体）との連絡調整（推進会議等）を行った。

研修関係では、研究員の資質向上を図るため、（独）農業・生物系特定産業技術研究機構等の依頼研究員（4 名）や、農林水産省が主催する中核農業研究員（1 名）などに派遣するとともに、センター独自に研究員等を対象とした自主研修（数理統計等）を実施した。

海外技術協力の取り組みについては、中国新疆ウルムチ自治区への農業技術援助（研修受入と当センター研究員の派遣）を行うこととして 17 年度に採択された「JICA 草の根技術協力事業」は、中国において牛の口蹄疫が発生したため、中止（延期）とされた。

研究備品の更新については、研究備品が老朽化してきていることから、その配置・利用、老朽化の状況の点検（6 月）を踏まえ、備品導入検討委員会を開催して、研究備品更新計画を協議・作成（7 月）し、予算担当課と調整のうえ計画的な更新・整備を進めた。

農業経営研究室

生産性の高い経営管理方式の確立、担い手の育成支援方策、地域活性化方策、県産農畜産物の販売戦略及び開発技術の経営評価等に関する研究を実施している。

生産性の高い経営管理方式の確立では、本県の主要品目 52 品目 125 体系について、作業工程、労働時間、農薬、肥料、農業機械等のデータを統合的にデジタル化した「生産技術体系」を策定するとともに、策定した生産技術体系を内蔵して、作目を選択し、作付面積、機械データの設定を行うだけで、複数作物を組み合わせた経営収支や労働時間を試算する「営農計画作成支援シート」を作成した。

担い手の育成支援方策では、キュウリ作経営において家族労働者や雇用者同士の役割分担を明確にした作業管理を実践することで、労働生産性の向上が図られること、また雇用を活用してハウス早出し、ハウス遅出し栽培を拡大することにより、他産業並の所得水準まで農家所得の向上が可能であることを提示した。

また、和牛繁殖経営では規模拡大を図る場合、子牛の販売まで 2 年の長期間を要することから、規模拡大に要する自己資本の蓄積を行うほか、販売までの資金繰りに留意する必要があること、安定的に規模拡大を図るために規模拡大に伴い 稲作副産物活用（稲ワラ、畦畔草）、水田転作活用（牧草、デントコーン）、地域の低未利用地放牧活用（遊休地、林間、水田）、公共牧場活用と段階的な粗飼料の確保が行われていることを明らかにした。

地域活性化方策では、地域の土地資源を有効に活用し粗飼料生産を拡大するための細断型ロールペーラを活用したデントコーンサイレージ作製体系の評価を行った。具体的には、従来のタワーサイロを活用したサイレージ作製体系に比較し資材費は増加するが、変敗や給与時のロスが少ないため、ロス分を除いた実給与量当たりの生産費では安くなることと県平均生産費 12.7 円/kg でデントコーンサイレージを作製するためには、12.6ha 以上の作業面積が必要であることを提示した。

開発技術の経営評価では、水稻直播栽培技術に関し、導入農家は直播の省力性に着目して複合部門や受託作業の拡大により所得拡大を目指す「潜在利益追求型」と稲作の経営規模拡大により所得拡大を目指す「限界利益追求型」があること、変動費を移植体系より 10,000 円/10a 程度削減し、移植栽培と限界利益が同一となるためには 500kg/10a 程度の収量を確保する必要があることを提示した。

(2) 農産部

水田作研究室

水稻の奨励品種決定調査、直播栽培・ロングマット水耕育苗技術を中心とした省力・低コスト栽培技術確立、水田機能を活かした飼料生産（ホールクロップサイレージ用稲の栽培技術）、作況調査・作柄解析、高品質・良食味米の安定生産技術確立研究及び水稻原種・原々種の生産業務に取り組んでいる。

平成 17 年は、活着期の低温により穂数・粒数はやや少なかったものの夏季の高温の影響により登熟歩合は高く、作況指数 101(10a 当たり収量 538 kg)と平年並みの作柄となった。しかし、斑点米カメムシの多発による吸汁加害により着色粒が多発し、89.3%(H18.2 未現在)と例年より若干低くなった。

奨励品種決定本調査調査では、「岩手 74 号」(中生、耐冷性強)、「岩手 75 号」(晩生、耐冷性やや強、いもち耐病性やや強)、「岩手紫 76 号」(晩生、耐冷性やや強)の 3 系統をやや有望と認め継続検討とした。予備調査では晩生の低アミロース系統「岩手 80 号」及び飼料用稲 2 系統を含む 5 系統を有望と認め新たに本調査に供することとした。

高品質・良食味米の安定生産については、穂揃い期及び穂揃い 15 日頃の葉色(N-1 葉位)と玄米タンパク含有率に高い相関が認められ成果として取りまとめた。また、特別栽培米生産で要望されている有機質 100%肥料を用いた育苗培土 3 資材について検討し実用性を認めた。

雑草防除関係では、移植栽培における効果の高い水稻除草剤 7 剤(初・中期一発剤 5 剤、中期剤 1 剤及び直播栽培用一発処理剤 1 剤)を県防除基準に採用した。また、新除草剤の効果試験(適 2 試験)では 22 剤を供試し 14 剤について実用性が高いと判断した(一部実用性あり、県北研も含む)。SU 系除草剤抵抗性雑草の防除対策については、県内の発生実態について調査した。

直播栽培では、苗立ち立数が 100 本/m²より少ない場合分け時期追肥により穂数が増加し、増収効果が期待できることを明らかにした。ロングマット水耕育苗技術に関しては、播種後直後の保温効果と巻き取り前の追肥時期の効果について実用レベルでの検証を行った。ホールクロップサイレージ用イネの栽培では、堆肥の連年多施用圃場で直播栽培では、酸化還元電位が低く出芽・苗立ちが低くなることを明らかにした。

水稻原々種は 7 品種(70 系統)466kg、原種はうち 7 品種 25,413kg、もち 2 品種 2,384kg の種子を生産した。

水稻育種研究室

生産力検定予備試験は 3 6 組合せ 1 6 9 系統、生産力本試験では 5 2 組合せ 8 2 系統を供試し、各々 1 9 組合せ 3 4 系統、1 5 組合せ 2 0 系統を選抜した。また、生産力検定と各種特性検定試験の結果から、岩手 8 2 号(早生の中、葉・穂いもち強、良質・良食味)、岩手 8 3 号(晩生の中、穂いもち極強、良質・良食味)、岩手香 8 4 号(早生の中、混合型香り米、葉いもち強)、以上主食用 2 系統、新規需要 1 系統、計 3 系統を有望と認め、地方番号を付し、平成 1 8 年度奨励品種決定調査のための新配布系統とした。

直播生産力検定試験では 4 系統が有望と認められた。また、新規需要及び新形質米の育成試験では、低アミロース 3 系統、酒米 4 系統、糯 4 系統が有望と認められたことから、以上を次年度の生産力検定試験で新規・継続検討する。

育種技術の効率化のための課題「分子マーカーを用いた水稻品種選抜技術の検討」では、穂いもち圃場抵抗性「極強」の遺伝子 *Pb1* を識別する DNA マーカーを用い、「岩南 23 号」を用いた雑種 F 3 世代での圃場抵抗性個体の効率的選抜の可能性を明らかにし、試験研究成果とした(研究)。

生物工学研究所との共同研究により、耐冷性、いもち耐病性、低温発芽性などの水稻重要形質と連鎖したマーカー探索のための RILs(雑種後代自殖系統群)の育成のための交配、連鎖解析に関する水稻の形質調査(出穂期、一部葉いもち発生程度)、世代促進を実施した。

「高度耐冷性水稻品種・系統の育成」の課題では、耐冷性極強を超える新たなランクを策定するため、東北地域の各育成地間と共同で特性比較連絡試験を実施した(2 年目)。

東北農業研究センター等の独立行政法人、宮城県古川農試等の国指定試験地、また、それ以外の東北地域の各県で育成された系統の本県への適応性について系統適応性検定試験を実施した。

巨大胚米の脂質含量と脂肪酸組成の解析を行い、通常胚米に比べて含量が高く、育成系統などでは優れた脂肪酸組成であることを明らかにし、試験研究成果とした(研究)。また、雑穀の新品種開発を促進するため、ヒエの冬期世代促進技術の検討を行い、「達磨」等の出穂特性や適正播種密度の品種間差異を明らかにし、試験研究成果とした(研究)。

応用生物工学研究室

組織培養法を利用したオリジナル品目・品種育成手法の開発や、増殖技術の開発、DNA マーカー等の遺伝子情報を利用した育種を加速・支援する手法や病原診断手法の開発を中心に研究している。

リンドウ F₁ 品種の採種用親株の増殖に関しては、主要系統の増殖法を順次明らかにしてきているが、F₁ 品種の採種用親である 14 系統のエゾリンドウにおいて、現在までに 13 系統の増殖技術に目処を付け、「りんどう生産拡大緊

急対策事業」において、花き研究室が選抜した有望な親株について開発技術を利用した増殖を順次行っている。また、主要な増殖法である葉片培養法を用いて育成した個体を両親とした交雑後代は、均一性が高く、変異などの発生が無いことを明らかにし、成果として取りまとめた。

リンドウ「こぶ症」については、16年度から所内のプロジェクトチームに参加して研究を開始しているが、本年度は「こぶ症」が培養容器内の接ぎ木により伝染することや、茎頂培養により無症状化できたことから、「こぶ症」の原因として病原体が関与する可能性が高いことを成果として取りまとめた。

リンドウの新品種育成手法の開発に関しては、重イオンビームやEMS等、各種の変異源を用いた突然変異体作出手法や、胚珠培養法によるエゾリンドウと外国種との種間雑種の作出法について検討している。

遺伝子情報を利用した研究では、育種を加速・支援する技術としてリンゴの黒星抵抗性遺伝子のマーカーを利用した個体選抜手法を成果としてまとめ、新年度から実用化する予定である。また水稻では、新規の穂いもち抵抗性遺伝子探索のためRILsの育成をF4まで進めた。新しい遺伝子増幅法であるLAMP法を用いた研究では、2種類のウイルスについて検出プライマーを作出して成果としてまとめ、今後はさらに対象病原を検討してプライマーを作出し、現場で簡易に検出できる手法の開発を目指す。

生産工学研究室

水稻育苗・移植作業の軽労化を目的として「ロングマット水耕苗移植栽培技術」の実用化研究を進めており、前年度に引き続き農家2戸による現地導入実証を行った。本年はこれまでに開発・改良した技術を組み立て、4.8ha規模の技術体系を策定し技術の評価するとともに研究成果（指導）として取りまとめた。

水稻湛水直播については、代かき同時点播機および他目的田植機用直播機の代かきの条件を明らかにするとともに、直播機の導入条件やコーティング種子の風乾程度などについて、研究成果（指導）として取りまとめた。

グラウンドカバープランツ（GCP）の動力吹付緑化工法については、平成14年度に施工した農業研究センターほ場法面のGCPの被覆状況調査し、イブキジャコウソウの法面被覆効果を明らかにし、研究成果（指導）として取りまとめた。

さらに、花巻市の野菜生産キーテクノロジー事業支援で実施した調査をもとに「えだまめハーベスタ特性と導入基準」（指導）や、要望課題への対応として「水田転換畑の排水対策フロー」（指導）、新規課題で取り組んだ「畑作に措ける転動タイン型株間除草機の特性と除草効果」（指導）などを研究成果として取りまとめた。

新規課題では、ほ場整備が計画されている川崎村において、岩手大学の協力によりメダカの生息状況を調査し、整備前の水路はメダカが水田に入りやすい構造であることなどを明らかにし、水路の工法等を提案した。また、遠野市宮守では、平成14年に放流したホタルのエサであるカワニナが、2年以上生息していることや本水路で繁殖していることなどを明らかにした。また、マグホワイトについては、土壌硬化や抑草効果等の特性等が明らかになった。

(3) 園芸畑作部 果樹研究室

果樹研究室では、リンゴの栽培試験および品種開発を主体に、ブドウ、西洋ナシ、オウトウ、ブルーベリーなどの樹種に係る試験を実施している。

リンゴでは、農薬のドリフト防止や省力化を目指して農林水産高度化事業「クラブアップル等リンゴ受粉専用品種の選抜と利用法の確立」に関する研究を実施し、受粉専用品種の選抜や花芽着生大苗育成技術の開発、既存樹への高接ぎ法の検討などに取り組んでいる。

17年度新規課題としては、地域農業確立総合研究「東北地域における農薬50%削減リンゴ栽培技術体系の確立」に関する研究を開始し、樹形改善による効率的防除と散布量削減技術の検討や、長岡中央果樹生産組合において農薬50%削減リンゴ栽培技術体系の現地実証試験に取り組んだ。また、「JM7台木による樹勢衰弱問題に関連し「JM7利用樹における樹勢衰弱の原因解明と対策技術の確立」を立ち上げ、さらに、(独)生物系特定産業技術研究機構果樹研究所と協定研究「リンゴJM系わい性台木における生育不良の原因解明に関する研究」を締結し、分担関係を明らかにしながら原因解明にあたることとした。

リンゴの品種開発では、「黄香」の収穫適期判定に関する研究を進めるとともに、本品種に特異的に見られる縦割れ状の裂果が本年は収穫後にも生じたことから、その原因解明と対策について検討した。

ブドウでは、短梢棚を活用した大粒種の栽培技術開発を進めるとともに、品種開発において5系統を二次選抜に編入し調査を継続している。

西洋ナシでは、「ラ・フランス」を補完する食味良好な早生の品種として「オーロラ」の追熟や果実品質に関する特性解明を進め、県の奨励品種とした。また、オウトウについても山形県育成の「紅秀峰」が食味や生産性について有利性が確認されたことから、県の奨励品種とした。

野菜畑作研究室

畑作物では、生産、実需、流通の各側面から、実需者ニーズに対応した安定品質・安定生産技術の確立が強く求められており、緊急に解決をはかるため、現地実証と場内試験を併行して品種選定と栽培法の確立に取り組んだ。

大豆は、優良品種選定・栽培法試験において、有望系統の現地での実証ほを3カ所設置し、県内の豆腐、納豆、味噌業界や工業技術センターと連携して実規模での加工検討を行った。この中で、豆腐加工適性の安定性に優れる中生大豆「リュウホウ」の品種特性を明らかにし、あわせて栽培技術を取りまとめた。また、納豆用有望系統「東北146号」及び「すずかおり」の品種特性を取りまとめた。奨励品種極早生大豆「ユキホマレ」を麦収穫後に輪作する際の栽培法を現地において検討した。

小麦は、高製パン性小麦品種「ゆきちから」の高タンパク含量で安定多収をはかるための栽培法及び赤かび病や収穫時期の品質低下を防ぐ技術を取りまとめ、「ゆきちから栽培マニュアル」を作成し配布した。

「冬期播種栽培による小麦の高品質・持続的安定生産技術の確立」は重点的に研究を推進し、学会報に成果を掲載するとともに、新聞報道での発信や普及センターを通じた技術の普及につとめた。

さらに、大豆、小麦等は水田転作などで栽培が増加しているが、不順天候や排水不備などにより収量、品質が不安定であることから、既存の農機具を簡単に改良して実施できる「小畦立て播種技術」について、研究開発と現地実証試験を現地生産者や専門技術員、改良普及員等と協力して同時並行で行うことにより大豆については1年でほぼ完成し普及指導に移した。

これら麦大豆の新技术は「岩手県畑作物指導指針」において、わかりやすくまとめて掲載した。

原種生産では、需要が増加している小麦、大豆原種の増産と品位の向上につとめた。

野菜では、労働力の脆弱化が進行する中で、消費地や地場のニーズに合った生産や、輸入の増加や量販の拡大に対応する低コスト化、高品質化が緊急の課題となっており、生産現地の課題解決の取り組みと密接に連携しながら、きゅうり、トマト、ピーマン、イチゴの栽培技術確立と適品種選定に取り組んだ。

きゅうりはハウス作型での施肥基準がなかったことから、点滴かん水施肥における好適な窒素施肥基準を示した。

近年問題となっているキュウリホモブシス根腐病を主要因とする急性萎凋症について、マルチ裾埋め込み畦立て栽培により露地での土壌消毒効果を安定される手法を考案し、研究高度化事業（東北農業研センター主査委託）により病理昆虫研究室と共同で栽培技術や防除効果を検討中である。

また、環境に配慮した栽培技術として化石プラスチックに代替できる生分解性プラスチックを用いた誘引資材の検討を行い実用性を認めた。ピーマンは、PMMoV 抵抗性 (L^3) 有望品種の特性を取りまとめ、ハウス栽培、露地栽培それぞれに適品種を示した。

独法委託研究として取り組んでいる「東北北部内陸地域におけるイチゴ夏秋どり新作型の開発」については、現地実証の推進により夏秋期と春期の二期どり作型における技術目標に沿った栽培技術がほぼ明らかになり、さらに商品果収穫量の向上に向けて課題解決をはかるとともに現地実証試験を継続中である。

冬春期の野菜生産が課題であるが、研究高度化事業（地域領域、東北農業研センター主査）において東北各県及び産地育成研究室と共同で「寒冷地・積雪下における冬春野菜の安定栽培技術の開発」に着手し、県北部において指導推進がはかられている促成アスパラガスの安定生産技術と作型を検討中である。

花き研究室

花き研究室では、国際化や消費動向の変化に対応できる寒冷地型花きの生産技術を確立するため、重点品目を中心としたオリジナル品種の開発を行うとともに、気象条件を活用した新新材の開発や長期継続出荷できる生産技術の確立に取り組んでいる。

品種開発では、¹りんどうの極々早生品種や新しい花色・花姿の品種を育成すること、²スプレータイプの小ぎく「アイマム」シリーズの花色・開花期の幅を広げること、を主眼に選抜を行った。本年度は、小ぎくの10月上旬咲き品種「アイマム オータムイエロー」及び10月中旬咲き品種「アイマム オータムレッド」の2品種を育成し、県の奨励品種とした。また、昨年度育成したりんどうの新品種「キュースト（極々早生1）」及び「マジエル（早生3S）」の親株供給と採種量の確保に努めたほか、A4菌によりわい化させた「ポラーノホワイト」の特性を成果に取りまとめた。

なお、りんどう種子の安定供給による生産振興を図るため、引き続き政策形成プロジェクトの「りんどう生産拡大緊急対策事業」により、原々種の安定採種、親株の大量増殖、新規親系統の育成等に取り組んだ。

新新材と新生産技術の開発では、枝物花木の整枝・仕立て法や開花調節技術の確立に取り組むとともに、「いわて乙女」の品質に及ぼす培土組成の影響やスターチス「アイスター」シリーズにおける肥効調節型肥料の効果について成果を取りまとめた。

安定生産技術については、小ぎくの作期拡大やりんどうのコンテナ促成栽培等に取り組む、本年度は、小ぎくアイマムシリーズに対する電照処理による開花調節効果について成果に取りまとめた。

また、りんどうこぶ症に係る研究課題については、所内に設置したプロジェクトチームの主査となり、応用生物工学研究室、土壌作物栄養研究室及び病理昆虫研究室と共同で、現地試験圃の設置や発生実態調査等に取り組んだほか、東北農研センター等の関係機関・団体と緊密な連携のもとに研究を行った。本年度は、りんどうこぶ症が栄養繁殖により伝達することを圃場栽培レベルで実証し、発生圃場からの採穂、挿し木繁殖を避けることを成果として公表した。

南部園芸研究室

南部園芸研究室では、県東南部および中南部沿岸地域の夏期冷涼・冬期温暖な気象条件を活かした施設野菜、花きの高度生産技術の開発に取り組んでいる。また、特色ある園芸産地を形成するため、高規格施設における養液栽培システムの活用技術についてその開発・実証に取り組んでいる。

野菜に関する試験では、いちご促成及び促成前進作型に適應する品種として、「とちおとめ」「章姫」の特性を、推奨品種「さちのか」と比較して成果をとりまとめ、産地等での品種選定に活用されることが期待される。また、促成いちご高設栽培の普及を図るため、肥効調節型肥料を利用した低コスト栽培技術を確立した。いちご高設栽培については、さらなる低コスト化や閉鎖給液技術の確立が望まれているが、それらを解決する新技術開発にも取り組み、解決すべき課題が絞られてきている。

高規格ガラス温室（以下、ガラス温室という）における養液トマト周年栽培の確立試験については、寒冷地に適應した低コスト技術や有機質培地を用いた栽培方法について有望な知見が得られており、現地実証データも検証してデータをまとめる段階に達している。本年度より「高品質・高付加価値トマトの生産供給技術確立」の課題について、5研究室が連携して取り組んでいるが、当研究室では雨よけ栽培における高硬度・高糖度トマトの適應品種についてその知見を明らかにするとともに、ガラス温室での簡易な細霧冷房技術についても検討している。

花きに関する試験では、アネモネ「F₁モナリザ」の作期等が年内採花本数に及ぼす効果と南部沿岸地帯における太陽光発電システムの発電特性の2課題についてこれまでの研究成果をまとめた。アネモネについては、ハウスの高度利用と連作障害回避の観点から、平成16年度よりコンテナ栽培技術の確立に取り組んでいるが、本年度、コンテナ栽培での有望培地が選定されており、概ね技術の仕上げ段階に達している。

(4) 生産環境部

環境保全研究室

重点目標の持続的生産管理技術体系の確立に向け以下の課題に取り組んだ。

農業農村の環境保全機能維持と環境負荷軽減技術に関して、農業農村整備事業における環境配慮工法の水生生物保全効果検証のための事前調査を行った。また、水田用農薬の平常水位時及び増水時の河川への流出特性を明らかにするとともに（研究成果・研究）環境影響が懸念される硝酸性窒素の動態解明と減肥等の負荷軽減技術を検討した。

食の安全・安心対策支援技術に関して、野菜類のカドミウム吸収特性（研究成果・研究）と県内水田における湛水管理によるカドミウム濃度低減効果を実証した（研究成果・指導）。また、簡易農薬残留分析法であるイムノアッセイの適用性を新たに4件確認するとともに、キャベツで出荷前自主検査の導入事例を示した（研究成果・指導）。さらに、産地PRのための里地里山の生き物活用手法を開発するため、岩手県立大学と共同で「生き物データベース」システムを作成した。水稻の減農薬・減化学肥料栽培技術体系の管理システム化に向け、現地3か所での実証試験や温度勾配チャンバーを用いた堆肥の化学肥料代替施用時におけるいもち病感受性の変動を継続検討するとともに、栽培体系管理システムモデルを作成した。野菜の特別栽培農産物生産支援技術の確立に向け、ホウレンソウケナガコナダニと有機物・土壌水分との関係を検討するとともに、現地2カ所で既存技術の実証試験に取り組んだ。

本年度は一部地域で水稻の割れ初めの発生が多かったことから、割れ初率の高い水稻種子の温湯浸漬処理による発芽率への影響を明らかにした（研究成果・指導）。

土壌作物栄養研究室

食の安全・安心対策支援技術の開発と土壌の養分供給特性及び作物の養分吸収特性の把握による環境と調和した農産物生産技術の開発を中心に課題に取り組んだ。

食の安全・安心対策支援技術の開発では、フラットベッドスキャナを中心とした中核的な農家でも実施可能な土の簡易評価法開発に取り組み、稲体の窒素栄養状態の簡易推定法と重量測定による家畜ふん堆肥の窒素肥効の簡易推定法を開発した。（以上研究成果・指導）また、減化学肥料栽培技術の確立に関連して、豚ふん連用による水稻の無化学肥料栽培への影響について明らかにした。（研究成果・指導）

土壌の養分供給特性の把握による環境と調和した農産物生産技術の開発では、新たな分析法による土壌中の可給態ケイ酸量に基づくケイ酸資材の用法を明らかにした。（研究成果・指導）作物の養分吸収特性の把握による環境と調和した農産物生産技術の開発では、りんどうの養分吸収特性を場内及び現地の試験で明らかにするとともに、窒素施肥法を明らかにした。（研究成果・指導）

その他、水稻の低コスト生産技術の確立に関連してロングマット水耕苗の簡易貯蔵法を開発した。(研究成果・指導) また、果菜類の有機質肥料を利用した減化学肥料栽培法の確立を目指して、トマトについての検討を開始した。

保鮮流通技術研究室

保鮮流通技術研究室では、県産農産物の多面的品質評価技術の開発、青果物の高鮮度貯蔵・輸送技術の確立、地域特産品の加工技術の開発に取り組んでいる。

県産農産物の多面的品質評価については、「県内産小麦(ナンブコムギ)の子実中タンパク質含有率の実態と土壌・栽培条件との関係」(指導)、「在来ヒエ系統「達磨」及び「もじゃっぺ」の炊飯米への混合割合」(指導)、「小型反射式光度計及び示差屈折計を用いたキャベツ体内成分の簡易測定法」(指導)、「県産野菜の特徴と評価」(指導)の4課題を試験研究成果とした。また、ハウレンソウ(寒締めを含む)の産地や年次における内部成分の変動の実態の把握やキャベツと同様に糖やビタミンCなどの成分の簡易分析技術の検討を行うとともに、野菜のおいしさとそれを評価する項目を検索した。さらに、葉菜類のGAP(適正農業規範)に関わる項目の重点管理ポイントについて検討を行った。

青果物の高鮮度貯蔵・輸送技術については、「りんどうの花持ち性向上のための各資材の効果」(研究)の1課題を試験研究成果とした。また、トマトの軟化症についてその栽培環境の要因として土壌水分や温・湿度面から検討を行った。今後、増加すると予想される輸出に対応するため、本県の主力品目であるりんごやりんどうについて、それぞれに実際の輸送を行い鮮度保持技術の確立のための検討を行った。

地域特産品の加工技術については、「青丸くんの緑色を残した豆乳の製造条件」(普及)、「農業ふれあい公園加工工房を利用して開発された県産農産物加工品の評価」(指導)の2課題を試験研究成果とした。この他に機能性成分を含み、カロリーを低減したミルクジャムの製造技術の確立のため、プレーンジャム製造法の検討や副原料とする野菜や果実の一次加工技術の検討を行った。また、品質の劣る冷害米の有効利用のための製粉化技術の検討を行い、芳香のあるパン製造や粘弾性の強い麺類加工に利用可能であることを確認した。

「農業ふれあい公園加工工房」における加工研修に対して32件(人数 252人)に対応し、地域特産加工品の開発を支援するとともに、これまでに開発された加工品の試食アンケート調査を東京や台北で行い、その評価を上記のとおり試験研究成果とし、今後の品質改善や販路拡大のための資として各団体と検討を行った。

(5) 病害虫部

病理昆虫研究室

8月に欠員が補充され、6名体制で持続性が高く安定性のある農業生産の展開を目指した病害虫制御技術の確立を進めるため、効率的病害虫防除技術の開発、環境にやさしい病害虫防除技術の開発、農薬使用量を削減した病害虫総合管理技術(IPM)の開発に取り組んだ。

水稻分野では、岩手オリジナル水稻品種どんぴしゃりは穂いもち防除を省略できる可能性が示唆された。また、アカスジカスミカメの発生生態から割れ粉、水田雑草など発生環境に応じた斑点米防止対策技術をとりまとめた(研究成果・指導)。

果樹分野では、リンゴの省農薬防除法として生育期前半の薬剤選択による褐斑病の新防除法(H15研究成果・普及)を現地実証し、本防除法の有効性を示した。また、カメムシ類については果樹園に飛来する前に発生量を予測できる指標餌植物をとりまとめた。

野菜分野では、難防除病害キュウリホモプシス根腐病に対しクロピクテブ、クロピクフロー、クロールピクリンの高い防除効果を確認し、適用拡大を申請した。また、ピーマンのペッパーマイルドモットルウイルス(PMMoV)を高感度で簡単にして迅速に診断するTPI法を岩手生工研と共同で実用化した。さらに、天敵昆虫の効率的な使用方法として、水わさびのモモアカアブラムシに対するナミテントウ、ピーマンのアザミウマ類に対するタイリクヒメハナカメムシの有効性を検証した。

花き分野では、リンドウ黒斑病の発生特徴と防除薬剤を明らかにした(研究成果・指導)。また、新奇発生したりンドウえそ斑紋病と炭疽病の発生生態を明らかにし、それに応じた耕種的対策を示した(研究成果・指導)。さらに、近年、花き類で問題となっているインパチエンスネクロティックスポットウイルス(INSV)の発生実態をとりまとめ、本ウイルスに対する注意を喚起した(研究成果・指導)。また、リンドウホソハマキの有力な土着天敵として卵寄生蜂1種とコマユバチ科の幼虫寄生蜂1種を見出した(研究成果・研究)。

各作物の病害虫防除試験の結果に基づき、より効果的な防除が行えるよう平成18年度病害虫防除基準を改訂した(研究成果・普及)。さらに、登録農薬が極めて少ない地域特産農作物のブルーベリー、なばな類、畑わさびについて、登録取得に向けて薬効、薬害等試験を実施した。

(6) 畜産研究所

家畜育種研究室

本県の気候・風土に適し、高品質・低コスト生産が可能となる優良種畜の作出（造成）や飼養管理向上のための技術確立に取り組んでいる。

日本短角種の優良種雄牛の作出について、直接検定 15 頭を実施し、1 日当たり平均増体量（DG）は 1.14kg であり、平成 18 年度現場後代検定交配開始予定牛 6 頭（選抜率 40%、平均 DG1.22kg）を選抜した。間接検定は「大野 00013」「宝富 35」の 2 種雄牛について終了するとともに、現場後代検定として「哲山」「辰郎」「人錦」「琴藤」「良波」「藤幸」の産子各 4 頭の肥育を開始した。県有優良短角種雄牛「勝富」の人工授精用凍結精液を生産した。

また、日本短角種全個体認証システムを確立するため、子牛全個体を主体に 1,474 頭（累計 6,857 頭）の血液採取を実施するとともに、血統（54,888 頭）、枝肉（6,870 頭）、DNA 情報の短角牛データベース構築に取り組み、血統、育種価等の情報（短角牛 2005 IN IWATE）を地域に提供した。

日本短角種の全期粗飼料多給型肥育技術の確立試験に取り組み、デントコーンサイレージ多給と豆腐粕サイレージ体系の肥育により良質短角牛肉生産ができることを明らかにするとともに、独自の流通評価基準設定のための消費者アンケート（大地を守る会）を実施し、また近赤外分析装置を用いて牛肉の脂肪酸組成簡易分析技術の検討を行った。

養豚では、そばくず給与により飼料費の低減が可能でその肉質も良好であることを明らかにするとともに、チーズホエイやバターミルクの保存性、嗜好性の調査、先進事例の調査、県内養豚農家、関係機関を対象とした技術検討会の開催等を行い、食品リサイクルの利用促進を図った。また、環境・安全に配慮した岩手型豚肉生産技術を確立するためリサイクル飼料を用いた肥育試験やプロバイオティクス添加飼料を用いた肥育試験を実施した。

養鶏では、「南部かしわ」及び岩手県在来の天然記念物「岩手地鶏」を活用した新特産肉用鶏の雛供給し、その普及推進を図った。リサイクル飼料（せんべい屑、パン屑、乾麺屑）の給与試験を実施した。また、ニワトリ始原生殖細胞の培養・凍結保存に関する研究では、PGC の培養、凍結試験を行うとともに、生殖系キメラ鶏 3 羽の作出を確認し、その発育等を調査した。

家畜飼養研究室

当研究室では、家畜生理と調和した高能力牛の飼養管理技術の確立と省力管理技術の向上を図ることにより生産性の高いゆとりのある酪農経営を構築するための技術開発に取り組んでいる。

乳用雌育成牛の煩雑な集約放牧管理計画を容易に実施するための「集約放牧シミュレーションソフト」を開発した。本ソフトは、牛群の平均体重、DG、季節、頭数、推定草量などを入力することにより、必要放牧地面積と併給飼料給与とのシミュレーションが可能であり、簡単に放牧計画が作成できるようにしたもので今後普及センターを通して現場での有効活用を図っていく。

細断型発酵 TMR の給与試験では、供試飼料は好氣的安定性に優れ嗜好性に富んでおり、産乳性（乳量、乳脂率）に問題はなかったが、乳蛋白質率と無脂乳固形分率は低く、乳中尿素窒素は有意に高かった。来年度は、発酵期間の違いによる成分変化や乳生産への与える影響について検討する。

搾乳牛の排せつ量低減を目的とした試験において、飼料中の CP 含量を低減させながらリジンとメチオニンを補強することにより乳生産を維持しつつ、尿量を 3 割、尿中の窒素排せつ量では 4 割程度軽減させ、敷料（オガクズ）を 3 割程度節約できることが明らかにできた。

自動哺乳装置によるホルスタイン種子牛の発育効果試験において、1 日当たりの代用乳 8 給 L 与区と 4 L の各給与区を比較では、前者が体重及び体高とも 4 週令以降に有意に上回ったが、1 2 L 給与区では 8 L 給与区と差がなかった。衛生管理面では、ドリンクステーション付近の敷料は 2 日以内に交換することが望ましく、また、冬期に施設内にカーフハッチとカーボンヒーターを設置すると最低気温を 6～7 度高く保てることができた。

搾乳牛における搾乳ストレス緩和技術と泌乳生理との関連試験では、人為的なストレス付加である搾乳前刺激不足の場合は過搾乳状態になること、エアの混入があった場合は即座に乳量の減少が見られ泌乳曲線に乱れが生じるとともに、搾乳時のストレス反応はその搾乳時点のみに起こり、次回搾乳には影響しないことが明らかとされた。

細断型発酵 TMR の給与試験では、乳酸含量が多く好氣的安定性に優れ嗜好性にも富んでおり産乳性（乳量、乳脂率）に問題はなかったが、乳蛋白質率と無脂乳固形分率は低く乳中尿素窒素は有意に高かったので、来年度は、発酵期間の違いによる成分変化や乳生産への与える影響について検討する。

大型酪農家における高度搾乳技術の一つとして、乳期ステージにおいて搾乳停止時期を強制的に早めた場合、泌乳速度には個体差があるが、一乳期における泌乳速度は最高泌乳期以降、泌乳末期までほとんど変化しないことが判明した。また、泌乳速度一定期間にミルクカーの離脱設定を早めると、乳量に影響を与えずに実搾乳時間を短縮することができた。

家畜工学研究室

牛の改良と増殖を促進するために胚移植技術、核移植技術および遺伝子解析技術等のバイオテクノロジーに関する課題について基礎研究と応用化研究に取り組み、成果の普及、啓発に努めている。胚移植技術では、正常胚の安定生産をはかるため血液成分と採卵成績について検討したところ正常卵生産には、発情日のストレスや過剰排卵処理日の血中尿素態窒素が影響し、未受精卵の出現は血中のアンモニア濃度が関連することを明らかにした。

胚の処理では、低ランク胚の有効活用をはかるためガラス化保存法の検討を受精卵移植普及定着化事業により新規課題として取り組みを開始した。また、県内の胚移植による受胎率向上は最重要課題となっているため県内の技術レベルアップをねらいとして、胚移植にかかわる技術者が研鑽する岩手県受精卵移植懇話会を設立した。

短期間に黒毛和種雄牛を低コストに造成する技術開発として、優良種畜胚の栄養膜細胞をドナー細胞とする基礎研究を実施したところ栄養膜細胞の効率の継続培養および細胞の単離法を明らかにした。

遺伝子解析では、黒毛和種の産子に発生する半致死性遺伝病の内水頭症と遺伝性疾患が疑われる乳頭異常について、原因遺伝子特定のため解析を実施している。内水頭症は、常染色体劣性遺伝病であり、原因領域は3番染色体のセントロメア近くに存在する。原因遺伝子特定のため過去に発生したパラフィン包埋材料からDNA抽出を試み、原因領域を10センチモルガンまで絞り込んだ。また特定黒毛和種雄牛産子に乳頭の数、形状等の異常を示す事例が散発し、原因の究明が求められているため、半きょうだい家系サンプルのDNA解析を累積したところ、牛17番染色体に連鎖する領域を見だし、6~9個程度のDNAマーカーによる診断法を明らかにした。さらに日本短角種の個体識別を科学的に実証するためマルチプレックスPCR法によるDNA断片の増幅は、省力、低コストに識別ができ、多頭数の処理が可能となった。

飼料生産研究室

本県の畜産を安定的に推進するため、良質粗飼料の効率的な生産と圃場還元を目的とした家畜ふん尿処理技術の開発のための試験に取り組んでいる。

優良草種・品種の選定課題のうち、飼料作物では、国・公立機関で育成された系統のうち北海道農業研究センター育成系統2系統、畜産草地研究所育成系統1系統、長野県中信農業試験場育成系統1系統、計4系統について検討した。

乾物収量では長野県の系統では標準品種よりやや多く、その他の系統では同程度かやや少ない結果であった。当試験圃で発生が多い(黒穂病)に対して比較品種と同程度かやや弱い傾向であった。また、市販トウモロコシ品種についても同様な調査を行い、耐病性、乾物収量、TDN収量とも標準品種に比較し有望と思われる品種は次の通りとなった。極早生KD417他2品種、早生TX201他3品種、晩生31N27。

H16年開始した高消化性ソルガム品種特性比較試験ではBMR遺伝子を有する8品種を対象に生育特性の把握を行った。今後18年まで継続調査し本県の地域特性に適合する高消化性ソルガム品種を明らかにしていくこととしている。

牧草部門では、中標高地の採草用牧草の草種組み合わせを検討し、基幹草種(OG、TY)に組み合わせる草種としてイネ科牧草ではペレニアルライグラスが優れていること、マメ科牧草ではシロクローバーの持続性が優れていたことから、基幹草種3草種の組み合わせについて成果とした。

イネホールクローップサイレージについては、牧草用機械体系での収穫ロス低減技術の検討を行い、ジャイロレーキがヘイメーカーよりロスが少ない傾向であった。また、転作田における牧草導入時期の検討を行った。

トウモロコシの細断型ロールベアラによる収穫作業については、試験最終年度として、密封作業能率の向上のための作業方法の検討、びろールベアラの夏期間給与方法並びに高標高地での実証試験を行い成果とした。

家畜ふん尿処理関係では、バイオガスプラント消化液の飼料作物への施用試験を実施し、概ね化成肥料と同等な収量を確保できることとした。その他廃サイレージなど未利用資源の堆肥化について、基礎試験を行った。

外山畜産研究室

中山間地域の草地資源を最大限に活用した肉用牛生産基盤の拡大を推進するため、黒毛和種集団繁殖・育成管理技術の開発に取り組んでいる。

定時人工授精技術では、hCGを用いたOvsynch変法での自然交配と人工授精の受胎性、定時胚移植技術ではCIDERとPRIDによる排卵同期化による胚移植について検討した。AI技術では、変法を使用した場合の授精時期は種雄牛の交配行動調査から従来のプログラムよりやや早めのhCG投与後12~15時間前後である可能性が示唆された。またET技術では、PG投与後の発情発現はPRID区60%、CIDR区81%で、受胎率はPRID区で42.9%、CIDR区で37.5%であった。

人工哺育子牛の損耗防止技術では、黒毛和種人工哺育子牛における群飼移行時の牛床面積が及ばずストレス反応について調査した結果、2m²/頭ではコルチゾール等のストレス反応が長期間にわたって認められること、また発育のバ

ラツキも大きいことから、少なくとも $3\text{m}^2/\text{頭}$ 以上必要であると考えられた。

発酵鶏糞ペレットの施肥基準策定に取り組んだ課題では、有効窒素換算（推定）で年間標準施用量と同程度の鶏糞ペレットを春に1回施用することで慣行と同等の年間収量が得られるが、2番草において硝酸態窒素の蓄積がみられること、硝酸態窒素の蓄積回避は鶏糞ペレットと化成肥料の組合せ施用などといった施用方法が有効と示唆された。

日本短角種DM牛の繁殖及び発育特性についての課題では、DM種雄牛の精液性状は通常牛とほぼ同等で受精能も正常であること、DM雌牛の春期発動は遅いが受胎性に問題がないことが判明した。また、DM牛の6ヶ月齢までの発育は、通常牛に比べ体高等がやや劣ったものの増体は同等であった。

耕作放棄地の有効利用の検討のため狭小草地に適した放牧手法を検討する課題では、フェストロリウム草地の2年度目の生産量は $620\text{kg}/10\text{a}$ で、放牧草地として標準的な収量であり、同草地における定置放牧条件下での適性放牧頭数は 300kg 体重換算で7頭/ha程度と試算された。また、放牧牛（育成牛5頭）の平均日増体量は 0.49kg で、繁殖性に問題はないとされる発育レベルであった。

種山畜産研究室

黒毛和種改良事業（いわて和牛改良増殖対策事業）の一環として、県内産黒毛和種種雄牛候補14頭を選定するとともに畜産研究所生産の受精卵雄産子3頭計17頭の直接検定を実施し年度内に5頭が終了、残り12頭については平成18年6月までに終了する予定である。全頭終了後検定成績、血統、体型、期待育種価等総合的に検討し後代検定用種雄牛として6頭を選抜する。また、平成13年度の直接検定により選抜された「孫気高」「平福国1」「第8福高森」「菊北福」「藤靖虎」「来待招福」の6種雄牛について間接検定を実施し下記の成績が得られた。

ア. 日当たり増体量(kg)

平福国1(1.00) = 第8福高森(1.00) > 孫気高(0.99) > 藤靖虎(0.93) > 菊北福(0.85) > 来待招福(0.85)

イ. ロ - ス芯面積(cm^2)

来待招福(49) > 平福国1(48) > 孫気高(47) = 藤靖虎(47) > 第8福高森(46) > 菊北福(43)

ウ. 脂肪交雑(BMS)

来待招福(4.4) > 平福国1(3.9) > 藤靖虎(3.5) > 孫気高(3.1) > 菊北福(2.9) > 第8福高森(2.5)

平成17年度間接検定が終了した種雄牛のうち、「平福国1」は肉量肉質に優れた成績であり、枝肉重量および脂肪交雑については全国平均を大きく上回り、「来待招福」は脂肪交雑において全国歴代1位の成績であり、両種雄牛ともに県の基幹種雄牛に選抜され凍結精液の供給を開始した。

平成17年度までに現場後代検定を終了した「城乃神」「安福菊」「徳美津」「菊高福」の中で「城乃神」は平成17年9月に評価された育種価において枝肉重量・バラの厚さ・脂肪交雑が優れており、県の基幹種雄牛として選抜され凍結精液の供給を開始した。

(7) 県北農業研究所

普農技術研究室

県北地域の特色を生かした環境保全型農業技術の開発、野菜等の省力機械化技術の確立及び地域資源高付加価値化のための生産技術の開発等に関する試験研究に取り組んだ。

環境保全型農業技術に関しては、畜産由来有機物活用分野では、県北地域の水稲栽培における有機質資材の化学肥料代替利用法と有機質資源連用調査の結果から「県北地域の水稲栽培における発酵豚ふん・鶏ふんの利用法」(試験研究成果指導)として取りまとめた。

野菜の省力機械化技術に関しては、キャベツ条施用「畦立て同時条攪拌施用機によりキャベツの化学肥料を低減できる」(試験研究成果指導)として取りまとめた。また、プロジェクト研究「新鮮でおいしいブランド・ニッポン農産物提供のための総合研究」において、ほうれんそう機械収穫実用化に向けて検討し「機械収穫に適したほうれんそうの形質」、「ほうれんそう種子特性と生育の関連」、「ほうれんそう収穫時の草丈分布の特徴と一斉収穫の可能性」(以上、試験研究成果研究)として取りまとめた。

地域資源高付加価値化のための生産技術に関しては、雑穀の高付加価値栽培技術分野では、2ヶ年の結果により「黄色ランプを利用したアワにおけるアワノメイガの防除」(試験研究成果研究)として取りまとめた。

産地育成研究室

県北地域における野菜、花きの地域適応性技術の確立及び開発技術の現地実証に関する研究を実施している。

野菜では、県北地域の主要品目であるほうれんそうについては、薬剤によらない土壌消毒法としてカラシナによる萎凋病軽減技術の開発や、近年消費者から高い評価を受けている寒締め栽培の技術確立に取り組んだ。特に後者については高度化事業による(独)東北農研等との共同研究として実施し、「寒締めほうれんそうの作期判定と生育調節技術」として研究成果(指導区分)にまとめた。なお、近年問題となってきたハウレンソウケナガコナダニや萎凋病などほうれんそう主要病害虫の耕種的防除対策について新規課題提案し、次年度より取り組むこととした。また、研究所重点課題である「高冷地レタスの高位安定生産技術の確立」については、優良品種の選定や腐敗性病害軽減のための耕種的防除対策に関して場内及び現地試験(一戸町奥中山)に重点的に取り組み、「高冷地レタス夏秋どり作型用主要品種の特性」として研究成果(指導区分)にまとめたほか、地元レタス腐敗防止対策委員会と連携し、レタスセミナーや腐敗防止技術対策検討会を開催し、研究成果や技術情報の早期伝達を図った。施肥委委託試験として、硫酸カルシウム資材の肥効確認やセル用土の実用性評価について取り組んだ。

花きでは、花壇苗の商品化率向上技術について、「黒ボク土、パーク堆肥、生もみ殻を用いた地域資源配合鉢上げ用土」及び「バンジーセル成型苗の鉢上げ時低温貯蔵技術」として研究成果(いずれも指導区分)にまとめた。また、中山間地域に適した有望宿根草の一つであるアルケミラ・モーリスの長期継続出荷技術について研究成果(研究区分)とした。小ぎく及びりんどうについては、オリジナル品種や有望系統の地域適応性評価や需要期出荷技術の確立について取り組んだ。なお、自生枝物花木類については、課題及び業務見直しに伴い本年度で終了とした。

やませ利用研究室

県北地域を対象とした水稲、普通畑作物(小麦、大豆)、雑穀の品種選定や栽培法に関する研究を実施している。

水稲では、早生地帯の作柄安定化、産米評価の向上をはかるため、耐冷性が強く、良質・良食味な品種の選定に引き続き取り組んでいる。また、作況調査を実施し、関係機関並びに生産現場に定期的に情報提供を行うとともに、調査データに基づき作柄成立要因の解析を行い、当年の作柄の特徴、技術的な問題点等を研究成果として取りまとめ、普及に移した。

畑作物では、県北地域に適した小麦、大豆の品種選定に引き続き取り組むとともに、作況調査を実施し関係機関並びに生産現場に定期的に情報提供を行っている。また、製パン特性に優れた小麦品種「ゆきちから」の高品質安定多収栽培法の確立試験に組み、「ゆきちから」の収穫適期、小麦穂水分による子実水分の簡易推定法を明らかにし、普及に移した。

雑穀では、平成16年から重点課題「いわてオリジナル雑穀品種の開発と生産技術の確立」により、岩手在来系統の特性評価と品質優良系統の選定、オリジナル雑穀品種の開発、雑穀の省力・安定多収栽培技術確立試験、高付加価値栽培技術の確立(無化学肥料栽培)に取り組んでいる。本年は水田栽培用ヒエ「達磨」の本田無化学肥料栽培が可能なことを明らかにし、普及に移した。

葉たばこでは本年度から試験を休止したが、生分解性マルチの分解特性に関する前年度までの試験データを取りまとめ、普及に移した。

4 平成17年度試験研究課題

(1) 細目課題分類

推進構想分野 担当部署	総課題数	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	S	V	W	X	Y
		水稲	畑作物	果樹	野菜	花き	酪農	肉畜	草地飼料	作物ハイテク	家畜ハイテク	環境保全	土壌作物	病害虫	農業農村	生産システム	農業農村	水田農業	やませ利用	保鮮流通	農産物加工	情報利用	食の安全安心
企画経営情報部	15	2			2											5		1		1		3	1
農業経営研究室	15	2			2											5		1		1		3	1
農産部	82	55	1			2				10			4			1	7					2	
水田作研究室	21	16											4									1	
水稲育種研究室	37	36	1																				
応用生物工学研究室	12					2				10													
生産工学研究室	12	3														1	7					1	
園芸畑作物部	110		15	31	17	23						2	12	3				2		1		4	
果樹研究室	35			31									2	1								1	
野菜畑作物研究室	37		15		10							2	5	2				2				1	
花き研究室	21					20																1	
南部園芸研究室	17				7	3							5							1		1	
生産環境部	60	4			5	2						8	13	1						5	5	2	15
環境保全研究室	17											6	2	1								1	7
土壌作物栄養研究室	27	4			3	2						2	11									1	4
保鮮流通技術研究室	16				2															5	5		4
病害虫部	23					1								20								1	1
病理昆虫研究室	23					1								20								1	1
畜産研究所	49	1					5	17	18		4	4											
家畜育種研究室	8							7			1												
家畜飼養研究室	8						5		3														
家畜工学研究室	5							2			3												
飼料生産研究室	14	1							10				3										
外山畜産研究室	8							4	3				1										
種山畜産研究室	4							4															
県北農業研究所	53	8	11		9	4						2	12	1		1			1			4	
営農技術研究室	18		2		3							2	7	1		1						2	
産地育成研究室	17				6	4							5						1			1	
やませ利用研究室	18	8	9																			1	
総計	392	70	27	31	33	32	5	17	18	10	4	16	41	25	5	2	7	3	1	7	5	16	17

(2) 試験研究課題一覧

凡例

主査研究室 : 小課題の主査研究室
 実施区分 : 継; 継続課題、終; 終了課題、新; 新規課題、繰上; 繰上終了、過; 過年度終了、未; 未着手
 推進構想 : 推進構想分野の中課題コード (小課題分のみ記載)
 連番 : 小課題の連番、課題毎の固有番号はそれぞれの課題名の先頭に () 表記
 課題名 : 小課題は太字表示、細目課題は1000番代表記、細目1~4まで各桁毎の表記
 開始・終了年 : 課題の開始年度、終了年度。(平成 H表記)
 担当研究室 : 小課題は主査研究室名、細目課題はそれぞれの担当研究室名
 (同一課題を複数研究室で実施している場合には、複数行による表記)
 予算 : 国庫研究; 国庫補助研究、国庫委託; 国庫(独法)委託事業、民間委託; 民間委託事業、
 令達; 令達予算研究、県単研究; 県単研究予算、県単採種; 主要農作物採種管理費
 実施No : 予算配分されている実施課題の連番。(細目課題をもつ上位課題は実施課題にはならない)

(主査研究室>実施区分>主となる推進構想 順)

主査研究室 (小課題)	実施区分 (小課題)	主となる 推進構想 (小課題)	小課題 (連番)	(課題番号)課題名 [研究期間/予算区分]	実施 年数	担当研究室	実施 連番	
農業経営	継	D-1-1-4	1	(H15-37) (夏秋期生産を目指したイチゴの) 超促成・越年株型経営モデル作成[H15~H19/国庫委託]	5	農業経営	1	
			X-3-1-2	2	(H16-02) 経営環境の変化に対応したネットワーク利用型農業経営設計システムの開発[H16~H18/県単研究]	3	農業経営	
					(H16-02-1000) (1) 生産技術体系データベースの構築[H16~H17/県単研究]	2	農業経営	2
					"	2	水田作	3
					"	2	生産工学	4
					"	2	果樹	5
					"	2	野菜畑作	6
					"	2	花き	7
					"	2	南部園芸	8
					"	2	環境保全	9
					"	2	土壌作物栄養	10
					"	2	病理昆虫	11
					"	2	家畜育種	
					"	2	家畜飼養	
					"	2	飼料生産	
					"	2	外山畜産	
					"	2	営農技術	12
					"	2	産地育成	13
					"	2	やませ利用	14
				(H16-02-2000) (2) ネットワーク利用型農業経営設計システムの開発[H16~H18/県単研究]	3	農業経営	15	
			"	3	農業経営	16		
農業経営	継	N-1-2-3	3	(H16-03) 大規模酪農経営体 (メガファーム) の成立条件の解明[H16~H18/県単研究]	3	農業経営		
				(H16-03-1000) (1) 大規模酪農経営体 (メガファーム) における経営管理方針の解明[H16~H18/県単研究]	3	農業経営	17	
				(H16-03-2000) (2) 大規模酪農経営体における高位乳生産に向けた飼養管理技術要因の解明[H16~H18/県単研究]	3	家畜飼養	18	
農業経営	終	D-1-1-2	4	(H15-01) 果菜作専作経営育成のための省力技術の経営実証[H15~H17/-]	3	農業経営		
				(H15-01-1000) 果菜作経営における専作化のための課題整理[H15~H15/-]	1	農業経営		
				(H15-01-2000) 果菜類栽培における省力技術の体系化[H15~H15/-]	1	野菜畑作		
				(H15-01-4000) 果菜類省力技術の体系化総合実証[H16~H17/県単研究]	2	農業経営	19	
				"	2	野菜畑作	20	
農業経営	継	Q-3-2-2	5	(H16-01) 水田農業改革における集团的営農システムの実践条件の解明[H16~H17/県単研究]	2	農業経営	21	
農業経営	終(繰上)	N-5-1-0	6	(428) 農産物の市場動向分析[H13~H22 H17/県単研究]	5	農業経営	22	
農業経営	終(繰上) ・新	N-4-2-2	7	(H17-43) {postH16-43-3000} 寒締め栽培を取り入れたハウレンソウ周年栽培経営成立条件の解明[H16/H17~H18 H17/県単研究]	1	農業経営	23	

主査 研究室 (小課題)	実施区分 (小課題)	主となる 推進構想 (小課題)	小課題 (連番)	(課題番号)課題名 [研究期間/予算区分]	実施 年数	担当研究室	実施 連番
農業経営	新	N-1-2-3	8	(H17-01)和牛繁殖を基幹とする経営体の成立条件の解明[H17~H19/県単研究]	3	農業経営	24
水田作	継	A-6-0-0	9	(61)水稲原々種生産[S29~H22/県単採種]	57	水田作	25
		A-6-0-0	10	(62)水稲原種生産[S29~H22/県単採種]	57	水田作	26
		A-4-1-2	11	(58)有望新系統の栽培特性と産米の高品質安定栽培技術の確立[H13~H18/-]	6	水田作	
				(58-1000)水稲粳有望新系統「岩南25号」の栽培特性[H14~H14/-]	1	水田作	
				(58-2000)水稲粳有望新系統「岩手60号」の栽培特性[H14~H15/-]	2	水田作	
				(58-3000)水稲糯新品種「もち美人」(岩南糯19号)の栽培法[H14~H15/-]	2	水田作	
				(58-4000)水稲粳有望新系統「岩手68号」の栽培特性[H16~H16/-]	1	水田作	
				(58-5000)水稲粳新品種「岩手68号」の栽培法[H17~H18/県単研究]	2	水田作	27
		A-2-6-1	12	(803)水稲奨励品種決定調査[H14~H22/県単採種]	9	水田作	
				(803-1000){post35}予備調査[H14~H22/県単採種]	9	水田作	
				(803-1100){post35-1000}中晩生系統[H14~H22/県単採種]	9	水田作	28
				(803-1200){post35-2000}早生系統[H14~H22/県単採種]	9	やませ利用	29
				(803-2000){post36}本調査[H14~H22/県単採種]	9	水田作	
				(803-2100){post36-1000}中晩生系統[H14~H22/県単採種]	9	水田作	30
				(803-2200){post36-2000}早生系統[H14~H22/県単採種]	9	やませ利用	31
		A-4-2-1	13	(805){post49}水稲作況調査と作柄成立要因の解析[H14~H22/県単研究]	9	水田作	
				(805-1000){post49}水稲作況調査[H14~H22/県単研究]	9	水田作	
				(805-1100)県央・県南地域[H14~H22/県単研究]	9	水田作	33
				(805-1200)県北地域[H14~H22/県単研究]	9	やませ利用	34
				(805-2000){post50}水稲優良品種の気象反応試験[H14~H22/県単研究]	9	水田作	
				(805-2100){post50-1000}県央・県南地域[H14~H22/県単研究]	9	水田作	35
				(805-2200){post50-2000}県北地域[H14~H22/県単研究]	9	やませ利用	36
		A-3-2-1	14	(807){post49}水稲作柄成立要因の解析[H14~H22/県単研究]	9	水田作	
(807-1000){post40-1000}水稲作用除草剤第2次適用性試験[H14~H22/民間委託]	9			水田作			
(807-1100){post40-1100}県央・県南地域[H14~H22/民間委託]	9			水田作	38		
(807-1200)県北地域[H14~H22/民間委託]	9			やませ利用	39		
(807-2000){post40-2000}RCヘリを利用した除草剤の散布技術[H14~H14/0]	1			水田作			
A-3-2-1	15	(807-2100)KUH-003K-0.25kg粒剤[H14~H14/0]	1	水田作			
		(H16-06)SU系除草剤抵抗性雑草の発生生態と防除技術[H16~H18 H20/県単研究]	5	水田作	40		
A-4-2-2	16	(H16-07)いわて純精米品質・食味向上栄養診断技術の確立[H16~H18/県単研究]	3	水田作			
		(H16-07-1000)(1)米のタンパク含有率予測技術の確立[H16~H18/県単研究]	3	水田作	41		
		(H16-07-2000)(2)米の品質向上に向けた栄養診断技術の確立[H16~H18/県単研究]	3	土壌作物栄養	42		
		(H16-07-3000)【タイトル変更】(2)米の品質向上に向けた栄養診断技術の確立[H16~H18 H17/県単研究]	2	やませ利用	43		
		(H16-07-4000)(3)米タンパク含有率をベースとした品質・食味改善手法の確立[H18~H18/-]	1	水田作			
A-3-2-0	17	(H16-59)直播栽培による収量・品質の安定化と冷害危険期分散の有効性[H16~H18/国庫委託]	3	水田作	44		
終	A-5-3-2	18	(740)寒冷地北部における飼料イネ生産給与体系の確立[H13~H17/国庫委託]	5	水田作		
			(740-1000)省力・低コスト生産技術体系の実証[H13~H17/国庫委託]	5	水田作	45	
			(740-2000)ミニマム防除体系の確立[H13~H14/-]	2	水田作		
			(740-3000)良質イネホールクロップサイレーシ調整技術の確立[H13~H17/国庫委託]	5	飼料生産	46	

主査 研究室 (小課題)	実施区分 (小課題)	主となる 推進構想 (小課題)	小課題 (連番)	(課題番号)課題名 [研究期間/予算区分]	実施 年数	担当研究室	実施 連番				
水田作	終	A-3-1-4	19	(H15-04)水稲湛水直播の安定栽培技術の確立と実証[H15～H17/県単研究]	3	水田作					
				(H15-04-1000)直播水稲の生育安定化及び収量向上技術[H15～H17/県単研究]	3	水田作	47				
				"	3	土壌作物栄養	48				
				(H15-04-2000)直播栽培の作業性向上技術[H15～H17/県単研究]	3	生産工学	49				
				(H15-04-3000)麦豆等復元田における直播栽培技術[H15～H15/-]	1	水田作					
				"	1	生産工学					
				"	1	土壌作物栄養					
				(H15-04-4000)直播導入農家の経営評価と経営発展モデルの策定[H15～H17/県単研究]	3	農業経営	50				
水稲育種	継	A-1-2-1	20	(5)水稲新規需要等対応品種の育成[H01～H22/令達]	22	水稲育種					
				(5-1000)水稲新規需要等対応品種組み合わせ親の特性調査[H01～H22/令達]	22	水稲育種	51				
				A-1-2-2	21	(6)水稲高度耐冷性集積系統の育成[H02～H22/令達]	21	水稲育種	52		
				A-1-2-2	22	(7)水稲高度耐病性集積系統の育成[H02～H22/令達]	21	水稲育種	53		
				A-2-1-5	23	(15)水稲生産力検定試験[S58～H22/令達]	28	水稲育種			
						(15-1000)生産力検定予備調査[S58～H22/令達]	28	水稲育種	54		
						(15-2000)生産力検定予備試験系統群[S58～H22/令達]	28	水稲育種	55		
						(15-3000)生産力検定本試験[S58～H22/令達]	28	水稲育種	56		
						(15-3100)早生品種[H09～H22/令達]	14	やませ利用	57		
								(15-4000)生産力検定本試験系統群[S58～H22/令達]	28	水稲育種	58
				A-2-1-5	24	(16)水稲系統適応性検定試験[S39～H22/国庫委託]	47	水稲育種			
						(16-1000)水稲系統適応性検定試験(国公立育成成分)[S39～H22/国庫委託]	47	水稲育種	59		
								(16-2000)稲民間育成品種評価試験【 年度により試験の有無変動】[H13～H22/-]	10	水稲育種	
				A-1-2-1	25	(18)水稲品種特性調査[S59～H22/令達]	27	水稲育種			
						(18-1000)東北地域の水稲奨励品種比較試験[H07～H22 H17/令達]	11	水稲育種	60		
						(18-2000)水稲品種保存用品種・系統の展示及び交配母本の養成[S59～H22/令達]	27	水稲育種	61		
								(18-3000)イネ・ゲノムシミュレータの開発[H13～H15/-]	3	水稲育種	
				A-2-1-0	26	(19)水稲品種育成交配試験[S59～H22/令達]	27	水稲育種			
						(19-1000)水稲交配試験[S59～H22/令達]	27	水稲育種	62		
						(19-2000)水稲初期世代養成試験[S59～H22/令達]	27	水稲育種	63		
						(19-3000)水稲世代促進試験[S59～H22/令達]	27	水稲育種	64		
						(19-4000)水稲個体選抜試験[S62～H22/令達]	24	水稲育種	65		
								(19-5000)水稲単独系統選抜試験[S58～H22/令達]	28	水稲育種	66
A-2-1-1	27	(20)稲いもち病抵抗性極強品種・系統の育成[S48～H22/令達]	38	水稲育種							
		(20-1000)いもち病真性抵抗性遺伝子型の推定[H01～H22/令達]	22	水稲育種	67						
		(20-2000)葉いもち圃場抵抗性検定調査[S48～H22/令達]	38	水稲育種	68						
				(20-3000)穂いもち圃場抵抗性検定調査[S62～H22/令達]	24	水稲育種	69				
A-2-1-5	28	(21)極良食味水稲品種・系統の育成[S60～H22/令達]	26	水稲育種							
		(21-1000)食味官能調査[S60～H22/令達]	26	水稲育種	70						
		(21-2000)食味成分調査[H02～H22/令達]	21	水稲育種	71						
				(21-3000)炊飯米外部構造調査[H13～H22 H17/令達]	5	水稲育種	72				
A-2-2-1	29	(22)高度耐冷性水稲品種・系統の育成[S59～H22/令達]	27	水稲育種							
		(22-1000)高度耐冷性を有する系統の探索[H02～H22/令達]	21	水稲育種	73						
				(22-2000)障害型耐冷性検定調査[S59～H22/令達]	27	水稲育種	74				
A-2-2-1	30	(23)不良環境地帯向け水稲品種の育成(現地試験)[S59～H22/令達]	27	水稲育種	75						
A-2-2-1	31	(24)育成地間相互交換水稲系統適応性検定試験[S52～H22/令達]	34	水稲育種							
		(24-1000)中・晩生水稲系統[S52～H22/令達]	34	水稲育種	76						
				(24-2000)早生水稲系統[H09～H22/令達]	14	やませ利用	77				
A-2-2-2	32	(25)低温登熟性に優れる水稲品種・系統の育成[H02～H22/令達]	21	水稲育種	78						
A-2-2-3	33	(26)難穂芽生性水稲品種・系統の育成[S62～H22/令達]	24	水稲育種							
		(26-1000)穂芽生性検定調査[S62～H22/令達]	24	水稲育種	79						
A-2-3-0	34	(27)直播適応性水稲品種・系統の育成[H03～H22/-]	20	水稲育種							

主査 研究室 (小課題)	実施区分 (小課題)	主となる 推進構想 (小課題)	小課題 (連番)	(課題番号)課題名 [研究期間/ 予算区分]	実施 年数	担当研究室	実施 連番
水稲育種				(27-1000)直播関連適性検定法の検討[H13~H15/-]	3	水稲育種	
				(27-2000)直播生産力検定試験[H03~H22/令達]	20	水稲育種	80
		A-2-4-2	35	(29)醸造用水稲品種・系統の育成[S63~H22/令達]	23	水稲育種	81
		A-2-4-2	36	(30)醸造用水稲品種・系統の加工適性試験[H08~H22/令達]	15	水稲育種	82
		A-2-4-3	37	(31)水稲糯品種・系統の育成[H02~H22/令達]	21	水稲育種	83
		A-2-4-4	38	(32)低アミロース水稲品種・系統の育成[H02~H22/令達]	21	水稲育種	84
		A-2-4-4	39	(860)採種[S58~H22/令達]	28	水稲育種	85
		A-1-1-2	40	(737)分子マーカーを用いた選抜技術の検討[H13~H17 H22/令達]	10	水稲育種	
				(737-1000)分子マーカーを用いた選抜技術の検討[H13~H17/令達]	5	水稲育種	86
				(737-2000)水稲重要形質と連鎖したDNAマーカーの探索[H16~H17 H22/令達]	7	水稲育種	87
	終(線上)	A-2-4-1	41	(28)超多収水稲品種・系統の育成[H02~H22 H17/令達]	16	水稲育種	
				(28-1000)育成系統の施肥反応試験[H02~H22 H17/令達]	16	水稲育種	88
応用生物 工学	継	I-2-1-2	42	(810)りんどうF1優良個体の大量増殖技術開発[H14~H18/県単研究]	5	応用生物学	89
		I-3-1-1	43	(811)りんどうの突然変異体の作出法[H14~H18/県単研究]	5	応用生物学	90
		I-2-1-1	44	(812)りんどうの組織培養による種間雑種等の作出法[H14~H18/県単研究]	5	応用生物学	91
		I-2-1-2	45	(814)えぞりんどうの組織培養における維持、増殖システムの確立[H14~H18/県単研究]	5	応用生物学	92
		I-3-1-1	46	(H16-04)いもち病真性抵抗性遺伝子に関連したDNAマーカーの探索とその実用化[H16~H18/県単研究]	3	応用生物学	93
	終(線上)	I-3-1-2	47	(H16-05)「二子いも」高付加価値生産に向けた培養苗生産技術開発[H16~H18 H17/県単研究]	2	応用生物学	94
	新	I-3-1-1	48	(H17-02)新規の穂いもち病圃場抵抗性遺伝子の探索[H17~H21/県単研究]	5	応用生物学	95
		I-3-2-3	49	(H17-03)DNAマーカーを利用したりんご黒星病抵抗性検定[H17~H18/県単研究]	2	応用生物学	96
		I-3-2-3	50	(H17-04)リンゴ根頭がんしゅ病菌の簡易検出技術の実用化[H17~H19/県単研究]	3	応用生物学	97
		I-3-1-3	51	(H17-05)革新技術による病原検出診断手法の開発と実用化[H17~H21/県単研究]	5	応用生物学	98
生産工学	継	P-1-1-1	52	(H15-07)農作業事故防止のための基盤整備手法[H15~H17 H18/国庫委託]	4	生産工学	99
		P-2-1-2	53	(H16-58)ほ場整備直後の明きょ掘削効果[H16~H18/令達]	3	生産工学	100
	終	P-3-1-1	54	(852)寒冷地におけるグラウンドカバープランツの動力吹付緑化工法の実証[H14~H17/令達]	4	生産工学	101
		A-3-1-1	55	(H15-05)ロングマット水耕苗移植栽培技術の確立と実証[H15~H17/県単研究]	3	生産工学	
				(H15-05-1000)ロングマット水耕苗の低コスト効率的育苗・移植技術の開発[H15~H17/県単研究]	3	水田作	102
				"	3	生産工学	103
				"	3	土壌作物栄養	104
				(H15-05-2000)ロングマット水耕苗移植栽培技術の導入実証[H15~H17/県単研究]	3	農業経営	105
				"	3	生産工学	106
		P-1-1-1	56	(H15-07)農作業事故防止のための基盤整備手法[H15~H17/県単研究]	3	生産工学	107
	新	O-2-1-3	57	(H17-06)畑作物における効果的機械的株間除草方式の開発改良[H17~H20/県単研究]	4	生産工学	108
	P-3-1-1	58	(H17-07)農業農村整備事業における水路に生息する生物の保全手法と評価[H17~H21/令達]	5	生産工学		
			(H17-07-1000)(1)水路と水田に生息するメダカの保全手法の確立[H17~H21/令達]	5	生産工学	109	
			(H17-07-2000)(2)ホタルが生息する水路への修復過程についての解析[H17~H19/県単研究]	3	生産工学	110	
			(H17-07-3000)(3)環境との調和に配慮した水路の水生生物保全効果の検証[H17~H21/県単研究]	5	環境保全	111	

主査 研究室 (小課題)	実施区分 (小課題)	主となる 推進構想 (小課題)	小課題 (連番)	(課題番号)課題名 [研究期間/ 予算区分]	実施 年数	担当研究室	実施 連番		
生産工学	新	P-2-3-1	59	(H17-08)土壌硬化剤「マグホワイト」の寒冷地における利用技術の開発[H17~H20/県単研究]	4	生産工学	112		
果樹	継	C-4-3-1	60	(837){post135}ラ・フランスに優る西洋なし品種の開発[H01/H14~H22/令達]	9	果樹			
				(837-1000){post135-1000}国内外導入品種の選抜[H01/H14~H22/令達]	9	果樹	113		
				C-4-4-1	61	(826){post136}おうとう、もも等の優良品種の選抜[H01/H14~H22/令達]	9	果樹	
						(826-1000){post136-1000}おうとう、もも等の優良品種の選抜[H14~H22/令達]	9	果樹	114
						(826-2000)ブルーベリーの優良品種の選抜[H14~H22/県単研究]	9	果樹	115
						(826-3000)多機能性新規ベリーの安定生産技術の確立[H16~H18/国庫委託]	3	果樹	116
				C-1-1-3	62	(709)ぶどう短梢栽培用平棚を利用した大粒種の栽培法の検討[H13~H17 H22/県単研究]	10	果樹	117
				C-1-2-1	63	(829)キャンベル・紅伊豆にかわる耐寒性大衆嗜好品種の育成及び選抜[H14~H22/-]	9	果樹	
						(829-1000)寒冷地向きぶどうの系統適応性試験[H14~H22/-]	9	果樹	
						(829-1100)第9回系統適応性検定試験[H14~H15/-]	2	果樹	
						(829-1200)第10回系統適応性検定試験[H14~H22/国庫委託]	9	果樹	118
						(829-1300)第11回系統適応性検定試験[H16~H22/国庫委託]	7	果樹	119
						(829-2000)国内外育成の寒冷地向き品種の選抜(生食用、醸造、兼用種等品種の選抜)[H14~H22/令達]	9	果樹	120
						(829-3000)耐寒性大衆嗜好品種の育成及び選抜[H14~H22/令達]	9	果樹	121
				C-4-1-1	64	(830)ジョナゴールド、ふじ等に優るりんご中・晩生種の開発[H14~H22/国庫委託]	9	果樹	
						(830-1000)国育成系統適応性(盛岡58~65号)[H14~H22/国庫委託]	9	果樹	122
						(830-2000)国内外導入品種の選抜[H14~H22/令達]	9	果樹	123
						(830-3000)いわて特産中晩生種の交配育成[H14~H22/令達]	9	果樹	124
				C-1-1-1	65	(839)りんご新わい性台木の特性解明(旧題:りんご新わい性台木「青台3」の特性解明)[H14~H22/県単研究]	9	果樹	
						(839-1000)「青台3」の特性解明[H14~H22/県単研究]	9	果樹	125
						(839-2000)JM7利用樹における樹勢衰弱の原因解明と対策技術の確立[H17~H22/県単研究]	6	果樹	126
				C-1-2-1	66	(850)畑作物に対する植調剤等の利用法[H14~H22/民間委託]	9	果樹	
						(850-1000)果樹園用除草剤の効果的使用法[H14~H22/民間委託]	9	果樹	127
						(850-2000)果樹の植調剤及び資材の効果的使用法[H14~H22/民間委託]	9	果樹	128
						(850-3000)野菜の除草剤実用化試験[H15~H22/民間委託]	8	野菜畑作	129
						(850-4000)花きの除草剤実用化試験[H16~H22/県単研究]	7	花き	
						(850-4100)りんどう除草剤実用化試験[H16~H22 H17/県単研究]	2	花き	130
(850-4200)小さく除草剤実用化試験[H16~H22/民間委託]	7	花き	131						
(850-5000)【畜産研究所担当分】[H16~H22/民間委託]	7	飼料生産							
(850-5100)【飼料生産研究室担当分】[H16~H22/民間委託]	7	飼料生産							
(850-5110)除草剤試験[H16~H22/民間委託]	7	飼料生産	132						
(850-6000)【県北農業研究所担当分】[H16~H22/民間委託]	7	産地育成							
(850-6100)【産地育成研究室担当分】[H16~H22/民間委託]	7	産地育成							
(850-6110)植調剤試験[H16~H22/民間委託]	7	産地育成	133						
C-2-1-1	67	(851)果樹の生育と果実品質変動要因の解明[H14~H22/県単研究]	9	果樹					
		(851-1000)りんごの生育・生態の把握[H14~H22/県単研究]	9	果樹	134				
		(851-2000)ぶどうの生育・生態の把握[H14~H22/県単研究]	9	果樹	135				
		(851-3000)西洋なし、その他の果樹の生育・生態の把握[H14~H22/県単研究]	9	果樹	136				
C-1-2-1	68	(894)良品質・高品質生産を目的としたウイルスフリー樹の作出[H14~H22/令達]	9	果樹	137				
C-2-1-1	69	(H15-38)新品種などの安定生産技術の確立[H15~H22/県単研究]	8	果樹					
		(H15-38-1000)「若手6号」の安定生産技術の確立[H15~H22/県単研究]	8	果樹	138				
				(H15-38-2000)「シナノゴールド」の安定生産技術の確立[H17~H22/県単研究]	6	果樹	139		

主査 研究室 (小課題)	実施区分 (小課題)	主となる 推進構想 (小課題)	小課題 (連番)	(課題番号)課題名 [研究期間/ 予算区分]	実施 年数	担当研究室	実施 連番	
果樹		C-1-1-3	70	(H16-09)クラブアップル等リンゴ受粉専用品種の選抜と利用法の確立[H16 ~H22/県単研究]	7	果樹		
				(H16-09-1000)(1)受粉専用品種の選抜[H16~H22/県単研究]	7	果樹	140	
				(H16-09-2000)(2)受粉専用品種の効率的な圃地導入技術の開発[H16~ H22/国庫委託]	7	果樹	141	
		C-2-1-2	71	71	(H16-10)果樹園におけるリンゴ剪定枝等利用技術の確立[H16~H22/県単研 究]	7	果樹	
					(H16-10-1000)(1)果樹園における剪定枝等チップのマルチ利用技術の確 立[H16~H22/県単研究]	7	果樹	142
					(H16-10-2000)(2)ブルーベリー植栽における剪定枝チップ利用土壌改良 技術の確立[H16~H22/県単研究]	7	果樹	143
	終(繰上) 新	C-1-1-3	72	(708)山ぶどう結実安定技術の確立[H13~H22 H17/県単研究]	5	果樹	145	
		C-1-1-1	73	(H17-09)りんごの樹形改善による薬剤散布低減技術の開発[H17~H21/県単 研究]	5	果樹		
	野菜畑作	継	B-1-1-1	74	(888){post80}麦類の奨励品種決定調査[S29/H14~H17 H18/県単採種]	5	野菜畑作	
					(888-1000){post80-1000}県南・県央地域[H14~H17 H18/県単採種]	5	野菜畑作	149
(888-2000){post80-2000}県北地域[H14~H17 H18/県単採種]					5	やませ利用	150	
B-1-1-1			75	(875){post81}大豆の奨励品種決定調査[S29/H14~H17 H18/県単採種]	5	野菜畑作		
					(875-1000){post81-1000}基本調査[S29/H14~H17 H18/県単採種]	5	野菜畑作	151
					(875-2000){post81-2000}現地調査[S29/H14~H17 H18/県単採種]	5	野菜畑作	152
B-1-2-1			76	(889){post85}麦類耐寒雪性特性検定試験[S29/H14~H22/国庫委託]	5	野菜畑作	153	
					(875-3000){post81-3000}県北地域[H14~H17 H18/県単採種]	5	やませ利用	153
					9	野菜畑作	154	
B-1-2-1			77	(835){post88}ばれいしょ系統適応性検定試験[S47/H14~H22/国庫委託]	9	野菜畑作	155	
B-1-2-1	78	(819){post89}あずき系統適応性検定試験[S40/H14~H22/国庫委託]	9	野菜畑作	156			
B-3-2-1	79	(890){post100}畑作物の生育相及び気象反応の解明[S49/H14~H22/県単研 究]	9	野菜畑作				
			(890-2000){post100-1000}大豆の生育相と気象反応の解明[S49/H14~ H22/県単研究]	9	野菜畑作			
			(890-2100){post100-1100}県央・県南地域[H14~H22/県単研究]	9	野菜畑作	157		
			(890-2200){post100-1200}県北地域[H14~H22/県単研究]	9	やませ利用	158		
			(890-1000){post100-2000}麦類の生育相と気象反応の解明[S49/H14~ H22/県単研究]	9	野菜畑作			
			(890-1100){post100-2100}県央・県南地域[H14~H22/県単研究]	9	野菜畑作	159		
B-5-0-0	80	(891){post105}畑作物原々種・原種生産[S29/H14~H22/県単採種]	9	野菜畑作	161			
D-4-0-0	81	(174)えだまめ等オリジナル品種優良種苗の維持・増殖[H08~H22/令達]	15	野菜畑作	162			
B-1-2-1	82	(877)大豆立枯性病害抵抗性検定試験[H14~H22/国庫委託]	9	野菜畑作	163			
D-2-1-1	83	(H15-40)東北北部内陸地域におけるイチゴ夏秋どり新作型の開発[H15~ H19/国庫委託]	5	野菜畑作				
			(H15-40-1000)短日処理による10~11月どり超促成栽培技術の開発 [H15~H19/国庫委託]	5	野菜畑作	164		
			(H15-40-2000)越年株利用による7~8月どり技術の開発[H15~H19 H17/国庫委託]	3	野菜畑作	165		
		(H15-40-3000)夏秋どり技術の体系化現地実証[H15~H19/国庫委託]	5	野菜畑作	166			
B-2-1-3	84	(H16-11)冬期播種による小麦の高品質・持続的安定生産技術の確立[H16~ H18/県単研究]	3	野菜畑作				

主査 研究室 (小課題)	実施区分 (小課題)	主となる 推進構想 (小課題)	小課題 (連番)	(課題番号)課題名 [研究期間/予算区分]	実施 年数	担当研究室	実施 連番
野菜畑作				(H16-11-1000) (1)子実蛋白質含量制御技術の確立[H16～H18/県単研究]	3	野菜畑作	167
				(H16-11-2000) (2)農薬使用量大幅削減技術の確立[H16～H18/県単研究]	3	野菜畑作	168
				(H16-11-3000) (3)土壌伝染性ウイルス病害の発生軽減効果[H16～H18/県単研究]	3	野菜畑作	169
	終	D-2-1-1	85	(848)果菜類における新形質品種の特性評価と利用技術の確立[H14～H17/-]	4	野菜畑作	
				(848-1000)キュウリ優良品種の選定と栽培法[H14～H16/-]	3	野菜畑作	
				(848-2000)トマト優良品種の選定と栽培法[H14～H15/-]	2	野菜畑作	
				(848-3000)ピーマン優良品種の選定と栽培法[H14～H17/県単研究]	4	野菜畑作	170
		B-1-1-2	86	(858)高製パン適性小麦品種「ゆきちから」(東北214号)の高品質・安定多収栽培技術[H14～H17/国庫委託]	4	野菜畑作	
				(858-1000)県央・県南地域[H14～H17/国庫委託]	4	野菜畑作	171
				(858-2000)県北地域[H14～H17/国庫委託]	4	やませ利用	172
		D-1-1-2	87	(H15-10)果菜類の低コスト灌水施肥栽培技術の確立[H15～H17/-]	3	野菜畑作	
				(H15-10-1000)トマトの低コスト灌水施肥栽培技術の確立[H15～H17/-]	3	野菜畑作	
				(H15-10-1100)栽培法の確立[H15～H15/-]	1	野菜畑作	
				(H15-10-1200)栄養診断による施肥指標の策定[H15～H15/-]	1	土壌作物栄養	
				(H15-10-2000)キュウリの点滴灌水施肥栽培技術の確立[H15～H17/県単研究]	3	野菜畑作	
				(H15-10-2100)栽培法の確立[H15～H17/県単研究]	3	野菜畑作	173
				(H15-10-2200)栄養診断による施肥指標の策定[H15～H17/県単研究]	3	土壌作物栄養	174
				(H15-10-3000)パッシブ水耕栽培の雨よけトマトへの適応性[H16～H16/-]	1	野菜畑作	
		B-4-2-1	88	(H15-39)麦後大豆の高品質栽培技術の確立[H15～H17/国庫委託]	3	野菜畑作	175
	新	Q-1-1-1	89	(H17-10)水田における小麦・大豆の湿害回避技術の確立実証[H17～H19/県単研究]	3	野菜畑作	
				(H17-10-1000) (1)水田小麦・大豆の小畦立栽培技術[H17～H19/県単研究]	3	野菜畑作	176
				(H17-10-2000) (2)小麦冬期播種栽培の適用条件別導入技術の実証[H17～H19/県単研究]	3	野菜畑作	177
		K-1-2-2	90	(H17-11)ポリ乳酸系生分解性プラスチックを利用した野菜生産技術の開発と利用技術[H17～H19/県単研究]	3	野菜畑作	
			(H17-11-1000) (1)生分解性資材の栽培適応性[H17～H19/県単研究]	3	野菜畑作	178	
			(H17-11-2000) (2)生分解性資材の効率的分解手法の解明[H17～H19/県単研究]	3	野菜畑作	179	
			〃	3	土壌作物栄養	180	
			(H17-11-3000) (3)生分解性資材を利用した現地栽培実証[H18～H19/-]	2	野菜畑作		
	D-1-0-0	91	(H17-39)高品質・高付加価値トマトの生産供給技術確立[H17～H19/令達]	3	野菜畑作		
			(H17-39-1000)高品質トマトの栽培技術の解明[H17～H19/令達]	3	野菜畑作	181	
			(H17-39-2000)有機物利用によるハウストマト減化学肥料栽培技術の開発[H17～H19/令達]	3	土壌作物栄養	182	
			(H17-39-3000)低コスト細霧冷房技術による高品質トマト生産技術の確立[H17～H19/令達]	3	南部園芸	183	
			(H17-39-4000)高品質トマトの供給技術確立[H17～H19/令達]	3	保鮮流通技術	184	
			(H17-39-5000)高付加価値トマトの生産供給体制確立条件の解明[H17～H19/令達]	3	農業経営	185	
	D-3-0-0	92	(H17-40)早期秋冷気象を活かしたアスパラガス促成栽培技術の確立[H17～H19/国庫委託]	3	野菜畑作		
			(H17-40-1000)休眠特性の解明と年内初冬どり作型の開発[H17～H19/国庫委託]	3	野菜畑作	186	
			(H17-40-2000)初冬どり作型のための根株養成技術の開発(旧題:株養成技術の開発)[H17～H19/国庫委託]	3	産地育成	187	
花き	継	E-1-2-2	93	(191)りんどうの品種育成[S49～H22/令達]	37	花き	188
		E-1-4-1	94	(832){post194}ニュータイプ小ぎくの品種育成[H01/H14～H22/令達]	9	花き	189
		E-6-0-0	95	(214)りんどう優良系統の維持増殖[S49～H17 H22/令達]	37	花き	190
		E-1-2-1	96	(840)りんどうF1品種の親株維持、増殖技術の確立[H14～H22/県単研究]	9	花き	

主査 研究室 (小課題)	実施区分 (小課題)	主となる 推進構想 (小課題)	小課題 (連番)	(課題番号)課題名 [研究期間/予算区分]	実施 年数	担当研究室	実施 連番	
花き				(840-1000)種子による親株維持技術の確立[H14~H22/県単研究]	9	花き	191	
				(840-2000)培養系親系統の特性検定及びF1品種の組合せ検定[H14~H22/県単研究]	9	花き	192	
			E-3-1-4	97	(841)りんどうこぶ症の発生実態と原因の解明[H14~H18/県単研究]	5	花き	
					(841-1000)こぶ症発生実態と栽培条件による原因解明[H14~H18/県単研究]	5	花き	193
					(841-2000)こぶ症発生圃場の土壌及びりんどう養分吸収特性の解明[H14~H16/-]	3	土壌作物栄養	
					(841-3000)こぶ症発現に関連する微生物・線虫及び土壌昆虫の検索[H14~H18/県単研究]	5	病理昆虫	194
					(841-4000)生物工学的手法によるりんどうこぶ症の原因解明[H16~H17/H18/県単研究]	3	応用生物学	195
			E-3-2-1	98	(843)りんどうの生育・生態調査[H14~H18 H22/県単研究]	9	花き	196
			E-3-2-3	99	(865)小ぎくの作期拡大技術の確立[H14~H22/県単研究]	9	花き	197
			E-1-1-2	100	(884)突然変異等を利用した新形質りんどうの特性評価[H14~H21/県単研究]	8	花き	
					(884-1000)わい性「ポラーノホワイト」の生育特性の解明[H14~H17/県単研究]	4	花き	198
					(884-2000)A4菌を利用したわい化りんどうの生育特性の解明及び栽培方法の確立[H17~H21/県単研究]	5	花き	199
			E-3-2-3	101	(H15-11)りんどうの高品質促成栽培技術の確立りんどうコンテナ栽培技術の確立[H15~H19/県単研究]	5	花き	
					(H15-11-1000)コンテナ栽培における管理技術の確立[H15~H19/県単研究]	5	花き	200
					(H15-11-2000)コンテナ栽培の培地組成の解明[H15~H19/県単研究]	5	土壌作物栄養	201
			E-2-1-4	102	(H15-12)寒冷地型鉢花・花壇苗物生産技術の確立[H15~H19/県単研究]	5	花き	
					(H15-12-1000)鉢物りんどう「いわて乙女」の高品質安定生産技術の確立[H15~H17/県単研究]	3	花き	202
					(H15-12-2000)りんどう栄養系鉢物品種新規系統の高品質安定生産技術の確立[H17~H19/県単研究]	3	花き	203
			E-6-0-0	103	(H15-49)りんどう生産拡大緊急対策事業[H15~H19/令達]	5	花き	
					(H15-49-1000)(1)親株の安定生産技術[H15~H19/令達]	5	花き	204
					(H15-49-2000)(2)組織培養による親株の安定生産技術[H15~H19/令達]	5	応用生物学	205
E-2-1-3	104	(H16-12)寒冷地に適した土地利用型枝物花木類の生産技術の確立[H16~H22/県単研究]	7	花き				
		(H16-12-1000)(1)寒冷地向け枝物花木類の早期成圃化技術の確立[H16~H20 H17/県単研究]	2	花き	206			
		(H16-12-2000)(2)高品質切り枝生産のための整枝・仕立て法の確立[H16~H22/県単研究]	7	花き	207			
		(H16-12-3000)(3)寒冷地気象を生かした開花調節技術の確立[H16~H22/県単研究]	7	花き	208			
		(H16-12-4000)(4)中山間地域における自生枝物花木類の生産技術の確立[H16~H20 H17/県単研究]	2	産地育成	209			
終(繰上)	E-1-3-1	105	(831)スターチス有望育成系統の栽培管理技術の確立[H14~H18 H17/県単研究]	4	花き	210		
南部園芸	継	D-1-1-3	106	(H16-13)高規格施設におけるトマト養液周年栽培技術の確立・実証[H16~H18/県単研究]	3	南部園芸		
				(H16-13-1000)(ア)タッチライト型ガラス温室における寒冷地型周年栽培技術の確立[H16~H18/県単研究]	3	南部園芸	211	
				(H16-13-2000)(イ)県央部における寒冷地型周年栽培技術の技術確立現地試験[H16~H18/県単研究]	3	南部園芸	212	
	D-1-1-2	107	(H16-14)イチゴの低コスト、環境保全型高設栽培技術の確立[H16~H18/県単研究]	3	南部園芸			
		(H16-14-1000)(1)肥効調節型肥料を利用した低コスト技術の確立[H16~H18/県単研究]	3	南部園芸	213			
		(H16-14-2000)(2)毛管給液方式を用いた閉鎖型給液管理技術の確立[H16~H18/県単研究]	3	南部園芸	214			

主査 研究室 (小課題)	実施区分 (小課題)	主となる 推進構想 (小課題)	小課題 (連番)	(課題番号)課題名 [研究期間/予算区分]	実施 年数	担当研究室	実施 連番						
南部園芸	終	E-2-2-1	108	(H16-15) アネモネのコンテナ栽培技術の確立[H16～H18/単研究]	3	南部園芸	215						
		E-2-2-1	109	(710)太陽光発電を利用した栽培技術の確立[H13～H17/単研究] (710-1000)温度管理等による花きの周年栽培体系の確立[H13～H17/単研究]	5 5	南部園芸 南部園芸	216						
	新	D-1-1-1	110	(H17-12)イチゴ促成栽培における省力的短日処理技術の開発、実証[H17～H19/単研究] (H17-12-1000)(1)高設栽培による花房連続出蕾技術の開発[H17～H19/単研究] (H17-12-2000)(2)高設採苗方式による省力的花芽分化技術の開発[H17～H19 単研究] (H17-12-3000)(3)省力的短日処理技術の現地実証[H17～H19/単研究]	3 3 1 3	南部園芸 南部園芸 南部園芸 南部園芸	217 218 219						
				E-2-2-1	111	(H17-13)スターチス・シヌアータの直まき等による品質向上技術の確立[H17～H21/単研究]	5	南部園芸	220				
	環境保全	継	K-3-1-2	112	(522)家畜排泄物等の有機物資源を活用した特別栽培農産物生産技術体系の確立[H14～H18/-] (522-1000)農業分野における窒素収支の推定と解析[H14～H14/-] (522-2000)特別栽培農産物栽培管理方式の策定[H14～H16/-] (522-3000)有機農産物の生産条件の解明[H14～H16/-] (522-4000)岩手県内生産主要堆肥の成分特性にもとづく化学肥料代替技術の確立[H14～H16/-] (522-5000)マニュアルスプレッター利用による地域内有機物の急速堆肥化技術[H14～H15/-] (522-6000)東北地域の水稲栽培における有機質資材の化学肥料代替利用法の確立[H14～H18/国庫助成]	5 1 3 3 3 2 5	環境保全 環境保全 環境保全 環境保全 環境保全 環境保全 環境保全	221					
K-1-1-1					113	(H15-19)畑作地帯における硝酸性窒素等の環境動態解明と負荷軽減技術の評価[H15～H19/令達] (H15-19-1000)硝酸性窒素等の動態解明手法の確立[H15～H18 H19/令達] (H15-19-2000)硝酸性窒素等の負荷軽減技術の評価[H15～H19/令達]	5 5 5	環境保全 環境保全 環境保全	222 223				
						Y-2-0-0	114	(H16-16) 1. 産地評価向上手法の開発[H16～H20 H18/単研究] (H16-16-1000)(1)産地PRのための里地里山の生き物活用手法の開発[H16～H18/単研究] (H16-16-2000)(2)環境保全活動の評価手法の開発[H16～H18 H17/単研究] (H16-16-3000)(3)健康な土の簡易評価法の開発[H16～H18/単研究]	3 3 2 3	環境保全 環境保全 環境保全 環境保全	224 225 226		
								Y-2-0-0	115	(H16-18) 3. 安全安心な水稲栽培技術の総合実証[H16～H20/令達] (H16-18-1000)(1)たい肥による減化学肥料栽培技術の実証[H16～H18/令達] (H16-18-2000)(2)減農薬栽培地域における合理的いもち病防除体系の選択支援技術の開発[H16～H18/令達] (H16-18-3000)(3)発生予察に基づく水稲害虫の効率的防除体系の広域的実証[H16～H18/単研究] (H16-18-4000)(4)水稲減農薬・減化学肥料栽培地域における栽培技術体系の管理システム[H17～H20/国庫助成] " (H16-18-5000)(5)堆肥の化学肥料代替施用時におけるいもち病感受性の変動[H16～H18/国庫委託]	5 3 3 3 4 4 3	環境保全 環境保全 環境保全 環境保全 環境保全 環境保全 環境保全	227 228 229 230 231 232
終					K-1-2-1					116	(H15-20)減農薬栽培農産物における農薬残留評価手法の開発[H15～H17/民間委託] "	3 3	環境保全 環境保全
						L-2-1-3	117				(H15-21)県産農産物のカドミウム吸収抑制対策[H15～H17/国庫助成] (H15-21-1000)水稲におけるカドミウム吸収抑制栽培管理技術の確立[H15～H17/国庫助成] (H15-21-2000)野菜類のカドミウム吸収特性の解明[H15～H17/国庫委託]	3 3 3	環境保全 環境保全 環境保全
K-1-1-1					118					(H15-22)水稲減農薬栽培地域の水系における農薬動態の解明[H15～H17/国庫委託]	3	環境保全	237

主査 研究室 (小課題)	実施区分 (小課題)	主となる 推進構想 (小課題)	小課題 (連番)	(課題番号)課題名 [研究期間/ 予算区分]	実施 年数	担当研究室	実施 連番
環境保全	新	Y-2-0-0	119	(H16-19) 4 .安全安心な野菜の栽培技術の実証[H17~H20/-]	4	環境保全	
				(H16-19-1000)(1)健康な土の維持管理技術の開発[H18~H19/-]	2	土壌作物栄養	
				(H16-19-3000)(3)栄養価、鮮度の評価手法の開発[H17~H20/県単研究]	4	保鮮流通技術	238
				(H16-19-5000)(5)特別栽培農産物生産等支援技術の実証[H17~H20/県単研究]	4	環境保全	239
				(H16-19-6000)(5)特別栽培農産物生産等支援技術の実証[H17~H20/国庫助成]	4	環境保全	240
	Y-2-0-0	120	(H17-32)シイタケ菌床栽培廃棄物を利用した土壌中残留農薬分解法の開発[H17~H19/令達]	3	環境保全	241	
土壌作物 栄養	継	L-3-2-2	121	(H15-23)土壌機能実態モニタリング調査[H15~H22/国庫助成]	8	土壌作物栄養	242
		A-3-3-2	122	(H15-24)環境保全型有機質資源連用効果調査[H15~H22/国庫助成]	8	土壌作物栄養	
				(H15-24-1000)水田における有機質資源連用効果[H15~H22/国庫助成]	8	土壌作物栄養	243
				(H15-24-2000)畑地における有機質資源連用効果[H15~H22/国庫助成]	8	土壌作物栄養	244
				(H15-24-3000)県北地域における畜産由来有機質資源連用効果[H15~H19/国庫助成]	5	営農技術	245
		Y-1-0-0	123	(H16-17) 2 .産地の安全安心を支える基盤技術の開発[H16~H19/県単研究]	4	土壌作物栄養	
				(H16-17-1000)(1)畜種別混合たい肥の製造と利用法の開発[H16~H18/県単研究]	3	土壌作物栄養	246
				(H16-17-2000)(2)未利用資源を活用したたい肥作り[H17~H19/県単研究]	3	飼料生産	247
		L-1-2-0	124	(H16-22)新肥料の実用化[H16~H22/民間委託]	7	土壌作物栄養	
				(H16-22-1000)【農産部担当分】[H16~H22/民間委託]	7	水田作	
				(H16-22-1100)【水田作研究室担当分】[H16~H22/民間委託]	7	水田作	
				(H16-22-1110)有機質100%肥料を使用した水稻育苗培土実用性確認[H16~H17 H19/民間委託]	4	水田作	
				(H16-22-1111)くみあい粒状夢培土(有機質入り)[H16~H17 H18/民間委託]	3	水田作	248
				(H16-22-1112)クレハ有機水稻培土[H17~H19/民間委託]	3	水田作	249
				(H16-22-1120)県産米の品質・食味トップブランド現地栽培実証(展示圃収量調査)[H16~H16/-]	1	水田作	
				(H16-22-1130)無化学肥料水稻育苗培土の実用性確認[H17~H19/民間委託]	3	水田作	250
				(H16-22-1140)特別栽培米の施肥体系[H17~H19/民間委託]	3	水田作	251
				(H16-22-1200)【生産工学研究室担当分】[H16~H22/-]	7	生産工学	
				(H16-22-1210)側条施肥による全量基肥施肥の肥効確認[H16~H16/-]	1	生産工学	
				(H16-22-2000)【園芸畑作部担当分】[H16~H22/-]	7	果樹	
				(H16-22-2100)【果樹研究室担当分】[H16~H22/-]	7	果樹	
				(H16-22-2110)磷酸石膏入り肥料が樹体生育・果樹品質に及ぼす効果確認[H16~H16/-]	1	果樹	
				(H16-22-2120)カルシウム資材の施用によるりんごに対する効果の確認[H16~H16 H17/民間委託]	2	果樹	252
(H16-22-2130)果樹専用土づくり肥料の肥効確認[H17~H19/民間委託]	3			果樹	253		
(H16-22-2200)【野菜畑作研究室担当分】[H16~H22/-]	7			野菜畑作			
(H16-22-2210)大豆に対する新肥料の効率的施肥技術確立試験[H16~H16/-]	1			野菜畑作			
(H16-22-2220)根酸溶出タイプの緩行性肥料を使用した培土適用性確認[H16~H17 H18/民間委託]	3			野菜畑作	254		
(H16-22-2230)トマトの育苗用培養土としての適用性確認[H16~H17 H18/民間委託]	3	野菜畑作	255				
(H16-22-2240)きゅうりの育苗用培養土としての適用性確認[H16~H17 H18/民間委託]	3	野菜畑作	256				
(H16-22-2250)育苗ポット全量施肥法の確立[H16~H16/-]	1	野菜畑作					
(H16-22-2260)麦・大豆に対する新肥料の効率的施肥技術確立試験[H17~H19/民間委託]	3	野菜畑作	257				
(H16-22-2270)促成アスパラガス専用培土の適用性確認[H17~H19/民間委託]	3	野菜畑作	258				
(H16-22-2300)【花き研究室担当分】[H17~H22/-]	6	花き					

主査 研究室 (小課題)	実施区分 (小課題)	主となる 推進構想 (小課題)	小課題 (連番)	(課題番号)課題名 [研究期間/予算区分]	実施 年数	担当研究室	実施 連番
土壌作物 栄養				(H16-22-2310)【花き研仮置き(H16 課題なし)】[H17~H22/-]	6	花き	
				(H16-22-2400)【南部園芸研究室担当分】[H16~H22/民間委託]	7	南部園芸	
				(H16-22-2410)いちごの育苗用培養土としての適用性確認[H16~H17/ 民間委託]	2	南部園芸	
				(H16-22-2411)チッソ成分の異なる培土 1 [H16~H17/民間委託]	2	南部園芸	259
				(H16-22-2412)チッソ成分の異なる培土 2 [H16~H18/民間委託]	3	南部園芸	260
				(H16-22-2420)育苗ポット全量施肥法の確立[H16~H17/民間委託]	2	南部園芸	261
				(H16-22-2430)有機態窒素 50%、ロング態窒素 30%を配合した肥料の 効果確認[H16~H18/民間委託]	3	南部園芸	262
				(H16-22-2440)環境保全型農業のための施肥量減を目指した育苗ポッ ト内全量施肥法の確立[H17~H19/民間委託]	3	南部園芸	263
				(H16-22-3000)【生産環境部担当分】[H16~H22/-]	7	環境保全	
				(H16-22-3100)【環境保全研究室担当分】[H17~H22/-]	6	環境保全	
				(H16-22-3110)【環境保全研仮置き(H16 課題なし)】[H17~H22/-]	6	環境保全	
				(H16-22-3200)【土壌作物栄養研究室担当分】[H16~H22/0]	7	土壌作物栄養	
				(H16-22-3210)集落排水処理施設で発生する汚泥の適用性確認[H16~ H16/0]	1	土壌作物栄養	
				(H16-22-3220)県内産有機原料を配合した減化学対応肥料の効果確認 [H16~H17 H18/民間委託]	3	土壌作物栄養	264
				(H16-22-3230)石灰窒素の小麦に対する 1 回追肥による肥効と省力を 検討[H16~H18/民間委託]	3	土壌作物栄養	265
				(H16-22-3240)産業廃棄物(石膏)からのカルシウム・イオウの効果 と、酸性矯正確認[H16~H18/民間委託]	3	土壌作物栄養	266
				(H16-22-3250)側条施肥による全量基肥施肥の肥効確認[H16~H17/民 間委託]	2	土壌作物栄養	267
				(H16-22-3260)新珪酸資材[H17~H19/民間委託]	3	土壌作物栄養	268
				(H16-22-3270)水田におけるケイ酸供給力向上技術の確立試験[H17~ H19/民間委託]	3	土壌作物栄養	269
				(H16-22-3280)有機態窒素 50%の特殊対応肥料の肥効確認[H17~H19/ 民間委託]	3	土壌作物栄養	270
				(H16-22-3300)【保鮮流通技術研究室担当分】[H16~H22/0]	7	保鮮流通技術	
				(H16-22-3310)非硝酸系被覆肥料を配合した基肥一発肥料の硝酸濃度 の抑降効果[H16~H16/0]	1	保鮮流通技術	
				(H16-22-4000)【東北農業研究所担当分】[H16~H22/0]	7	営農技術	
				(H16-22-4100)【営農技術研究室担当分】[H16~H22/0]	7	営農技術	
				(H16-22-4110)非硝酸系被覆肥料を配合した基肥一発肥料の硝酸濃度 の抑降効果[H16~H16/0]	1	営農技術	
				(H16-22-4120)水田土壌における可給態珪酸評価技術確立試験[H16~ H16/0]	1	営農技術	
				(H16-22-4130)展示圃収量調査[H16~H19/民間委託]	4	営農技術	271
				(H16-22-4140)露地野菜に対する施肥効率向上技術[H16~H17 H18/ 民間委託]	3	営農技術	272
				(H16-22-4150)珪酸肥料の効果確認[H16~H17/-]	2	営農技術	
				(H16-22-4151)熔融丸 酸燐肥 1 号(とれ太郎)[H16~H16/-]	1	営農技術	
				(H16-22-4152)珪酸入水稻魚肥肥料(B 製)[H16~H17 H18/民間 委託]	3	営農技術	273
				(H16-22-4153)シリカル 4 0 [H16~H17 H18/民間委託]	3	営農技術	274
				(H16-22-4160)有機態窒素 50%の特裁対応肥料の肥効確認[H17~H19/ 民間委託]	3	営農技術	275
				(H16-22-4170)施肥量減と生育の斉一化を目指した育苗セル内全量施 肥法の確立[H17~H19/民間委託]	3	営農技術	276
				(H16-22-4200)【産地育成研究室担当分】[H16~H22/-]	7	産地育成	
				(H16-22-4210)県内産発酵鶏糞を配合した有機肥料の効果確認[H16~ H16/-]	1	産地育成	
				(H16-22-4211)キャベツ[H16~H16/-]	1	産地育成	
				(H16-22-4212)レタス[H16~H16/-]	1	産地育成	
				(H16-22-4220)根酸溶出タイプの緩行性肥料を使用した培土の適用性 確認[H16~H17 H18/民間委託]	3	産地育成	277

主査 研究室 (小課題)	実施区分 (小課題)	主となる 推進構想 (小課題)	小課題 (連番)	(課題番号)課題名 [研究期間/予算区分]	実施 年数	担当研究室	実施 連番		
土壌作物 栄養				(H16-22-4230)カルシウム資材の施用によるりんごに対する効果の確認[H16~H17/民間委託]	2	産地育成	278		
				(H16-22-4240)県内で生産されるバーク堆肥を配合した低コスト培土の適用性(キャベツ)[H17~H19/民間委託]	3	産地育成	279		
				(H16-22-4250)県内で生産されるバーク堆肥を配合した低コスト培土の適用性(レタス)[H17~H19/民間委託]	3	産地育成	280		
				(H16-22-4260)品質向上等肥料の新機能評価試験[H17~H19/民間委託]	3	産地育成	281		
				(H16-22-4300)【やませ利用研究室担当分】[H17~H22/-]	6	やませ利用			
				(H16-22-4310)【やませ利用研仮置き(H16 課題なし)】[H17~H22/-]	6	やませ利用			
	L-2-1-0	125		(H16-23)県内水田の養分供給特性評価法の開発[H16~H18/国庫助成]	3	土壌作物栄養	282		
				(H16-23-1000)(1)県内水田土壌のチッソ発現予測法の開発[H16~H18/国庫助成]	3	土壌作物栄養	282		
	終	L-1-1-3	126	(856)県内主要葉菜類の内部品質向上栽培技術の確立[H14~H17/-]	4	土壌作物栄養			
				(856-1000)葉菜類の内部品質実態調査[H14~H15/-]	2	土壌作物栄養			
				(856-2000)キャベツの栄養成分の簡易品質評価法の開発[H14~H16/-]	3	土壌作物栄養			
				(856-3000)キャベツの栄養成分変動要因の解明[H15~H17/県単研究]	3	保鮮流通技術	284		
				(856-4000)土壌管理(有機物・塩基バランス制御)によるハウレンソウ、キャベツの硝酸濃度低減化[H15~H16/-]	2	保鮮流通技術			
(856-5000)施設栽培における有機物施用基準の策定[H15~H16/-]				2	土壌作物栄養				
E-3-1-1	127	(H15-15)りんごの養分吸収特性の解明[H15~H17/国庫助成]	3	土壌作物栄養	285				
新	L-1-1-1	128	(H17-14)マイクロ波処理による土壌可給態窒素の簡易推定法の確立[H17~H18/国庫助成]	2	土壌作物栄養	286			
保鮮流通 技術	継	W-3-0-0	129	(548)加工工房指導業務[H09~H22/県単公園]	14	保鮮流通技術	287		
				W-1-1-1	130	(H16-57)冷害被害米の新用途開発[H16~H18/国庫委託]	3	保鮮流通技術	288
	終(繰上)	W-1-1-0	131	(H16-21)水田作物の産地消費型加工技術の開発[H16~H19 H17/県単研究]	2	保鮮流通技術			
				(H16-21-1000)(1)嗜好性と機能性を併せ持つ新たな大豆加工応用化技術の開発[H16~H18 H17/県単研究]	2	保鮮流通技術	289		
				(H16-21-2000)(2)ハトムギの一次加工品の応用化技術開発[H16~H19 H17/令達]	2	保鮮流通技術	290		
	終・新	V-1-1-1	132	(H17-15)消費地における県産野菜の内部品質評価[H17~H17/県単研究]	1	保鮮流通技術	291		
	新	Y-3-0-0	133	(H16-20)5.野菜の品質自主管理技術の開発[H17~H20/国庫助成]	4	保鮮流通技術			
				(H16-20-1000)(1)生産工程における自主管理手順の開発[H17~H20/国庫助成]	4	保鮮流通技術	292		
				(H16-20-2000)(2)収穫・出荷工程における自主管理手順の開発[H17~H20/国庫助成]	4	保鮮流通技術	293		
				(H16-20-3000)(3)流通段階における品質保持技術の開発[H17~H20/県単研究]	4	保鮮流通技術	294		
				D-2-1-3	134	(H17-44){postH16-43-1000}寒締めハウレンソウ栄養成分評価法の確立[H16/H17~H18/令達]	2	保鮮流通技術	295
				V-1-1-1	135	(H17-16)りんごの鮮度保持(花もち性向上)技術の確立[H17~H19/県単研究]	3	保鮮流通技術	296
				V-2-1-2	136	(H17-41)県産園芸品目の輸出対応鮮度保持技術の確立[H17~H18/令達]	2	保鮮流通技術	
(H17-41-1000)りんご輸出における鮮度保持技術の確立[H17~H18/令達]	2	保鮮流通技術	297						
		(H17-41-2000)りんご輸出における鮮度保持技術の確立[H17~H18/令達]	2	保鮮流通技術	298				
W-1-2-2	137	(H17-42)機能性成分を含むミルクジャム製造法の開発[H17~H18/令達]	2	保鮮流通技術	299				
病理昆虫	継	M-1-2-1	138	(H09-03)【植物防疫事業研究】[H09~H22/国庫助成]	14	病理昆虫	300		
				M-3-1-2	139	(402)新農薬の効果検定と防除基準作成[H09~H22/-]	14	病理昆虫	
			(402-1000)水稻種子消毒剤の大量種子消毒適用性試験[H13~H14/-]	2	病理昆虫				
			(402-1100)テクリード水和剤[H13~H14/-]	2	病理昆虫				
			(402-2000)県北地域[H09~H17/民間委託]	9	営農技術	301			
			(402-3000)葉いもち防除に必要な箱施用剤の根圏成分量[H15~H15/-]	1	病理昆虫				
			(402-4000)本部[H09~H17/民間委託]	9	病理昆虫	302			
			(402-5000)果樹[H16~H17/民間委託]	2	果樹	303			
M-3-1-2	140	(H15-28)地域特産物における新防除資材の実用化[H15~H18 H19/-]	5	病理昆虫					

主査 研究室 (小課題)	実施区分 (小課題)	主となる 推進構想 (小課題)	小課題 (連番)	(課題番号)課題名 [研究期間/予算区分]	実施 年数	担当研究室	実施 連番
病理昆虫				(H15-28-1000)ホップ灰色かび病新規防除薬剤の実用化試験[H15~H15/-]	1	病理昆虫	
				(H15-28-2000)根みつばの菌核病[H15~H15/-]	1	病理昆虫	
				(H15-28-3000)アワのアワノメイガ[H15~H15/-]	1	営農技術	
				(H15-28-4000)ブルーベリーのショウジョウバエ類[H15~H18/国庫助成]	4	病理昆虫	304
				(H15-28-5000)ヒエのアワノメイガ[H15~H15/-]	1	やませ利用	
				"	1	営農技術	
				(H15-28-6000)農薬残留分析(ホップ、ブルーベリー)[H15~H15 H18/国庫助成]	4	環境保全	305
				(H15-28-7000)モミジガサの菌核病[H16~H16/0]	1	病理昆虫	
				(H15-28-8000)水わさびのアブラムシ類[H16~H18/国庫助成]	3	病理昆虫	306
				(H15-28-9000)アワの畑地広葉雑草[H16~H16/-]	1	営農技術	
				(H15-28-A000)なばなのネキリムシ類[H16~H17/国庫助成]	2	病理昆虫	307
				(H15-28-B000)畑ワサビのミドリサルソウムシ[H16~H18/国庫助成]	3	病理昆虫	308
				(H15-28-C000)ブルーベリーの斑点病[H17~H19 H17/国庫助成]	1	病理昆虫	309
				(H15-28-D000)しそのネキリムシ類[H19~H19/-]	1	病理昆虫	
		M-2-1-1	141	(H16-24)岩手オリジナル品種のいもち病圃場抵抗性を利用した防除体系の確立[H16~H18/国庫助成]	3	病理昆虫	310
		M-3-2-1	142	(H16-25)りんごにおける病害虫総合防除技術の開発[H16~H18 H19/国庫助成]	4	病理昆虫	
				(H16-25-1000)(1)殺菌剤散布回数削減技術の確立[H16~H18/国庫助成]	3	病理昆虫	311
				(H16-25-2000)(2)カミキリムシ類の発生生態の解明と防除対策[H16~H18/国庫助成]	3	病理昆虫	312
				(H16-25-3000)(3)りんご生育期後半における病害防除回数の削減体系の開発[H17~H19/国庫委託]	3	病理昆虫	313
		M-3-2-1	143	(H16-26)施設ピーマンにおける病害虫総合防除技術の実証[H16~H18/国庫助成]	3	病理昆虫	314
	M-3-2-1	144	(H16-27)露地きゅうりににおける病害虫総合防除技術の現地実証[H16~H18/国庫助成]	3	病理昆虫	315	
終	M-1-1-1	145	(372)新奇侵入病害虫の診断法と発生生態の解明[H09~H17/国庫助成]	9	病理昆虫	316	
	M-1-1-2	146	(H15-26)りんごガムシ類の発生生態と効率的防除法の確立[H15~H17/国庫助成]	3	病理昆虫		
			(H15-26-1000)指標植物による被害発生予測法[H15~H17/国庫助成]	3	病理昆虫	317	
	M-1-1-1	147	(H15-27)りんどう葉枯れ症状の原因解明と防除法[H15~H17/国庫研究]	3	病理昆虫		
			(H15-27-1000)りんどう葉枯れ症状の原因解明と防除法[H15~H17/国庫研究]	3	病理昆虫	318	
	M-3-1-1	148	(H15-29)内分泌攪乱作用が懸念される農薬を使用しない病害虫防除技術の確立[H15~H17/-]	3	病理昆虫		
			(H15-29-1000)水稻における代替技術[H15~H15/-]	1	病理昆虫		
			(H15-29-2000)りんごにおける代替技術[H16~H16/-]	1	病理昆虫		
		(H15-29-3000)きゅうりににおける代替技術[H15~H16/-]	2	病理昆虫			
		(H15-29-5000)内分泌攪乱作用のある農薬を使用しない病害虫防除体系の実証[H16~H16/-]	1	病理昆虫			
		(H15-29-6000)ねぎにおける代替技術[H16~H16/-]	1	病理昆虫			
		(H15-29-7000)生物農薬等防除技術の確立[H17~H17/令達]	1	病理昆虫	319		
新	M-1-0-0	149	(H17-27)キュウリホモブシ根腐病解決による露地夏秋キュウリ安定生産技術の確立[H17~H19/国庫委託]	3	病理昆虫		
			(H17-27-1000)1 ホモブシ根腐病に対する薬剤による土壌消毒効果の安定化技術の開発[H17~H19 H18/国庫委託]	2	病理昆虫	320	
			(H17-27-2000)2 根域制御による汚染土壌からの隔離栽培技術の開発[H17~H19/国庫委託]	3	野菜畑作		
			(H17-27-2100)(1)根域制御手法の案出とそれに対応した栽培技術の開発[H17~H19/国庫委託]	3	野菜畑作	321	
			(H17-27-2200)(2)根域制御栽培における土壌消毒技術の開発[H17~H19/国庫委託]	3	病理昆虫	322	
			"	3	野菜畑作	323	
			(H17-27-2300)(3)発病助長要因の検討(新奇侵入病害虫の診断法と発生生態の解明)[H17~H17/国庫助成]	1	病理昆虫	324	

主査 研究室 (小課題)	実施区分 (小課題)	主となる 推進構想 (小課題)	小課題 (連番)	(課題番号)課題名 [研究期間/ 予算区分]	実施 年数	担当研究室	実施 連番	
家畜育種	継	G-1-1-2	150	(236) 日本短角種産肉能力検定 (直接法) [S45~H22/令達]	41	家畜育種	325	
			151	(237) 日本短角種産肉能力検定 (現場検定法) [S48~H22/令達]	38	家畜育種	326	
			152	(H16-29) 地域資源を活用した特産豚及び特産鶏の飼養技術の確立 [H16~H19/県単研究]	4	家畜育種	327	
	終	G-4-1-5	153	(854) 環境・安全に配慮した岩手型豚肉生産技術の確立 [H14~H17/県単研究]	4	家畜育種	328	
			154	(H16-30) ニワトリ始原生殖細胞の凍結保存に関する研究 [H16~H17/県単研究]	2	家畜育種	329	
終(繰上)	J-3-1-0	155	(H15-44) 日本短角種をモデルとした全個体認証システムの構築と利用技術の開発 [H15~H19 H17/国庫委託]	3	家畜育種	330		
家畜飼養	継	F-3-2-1	156	(H16-31) 乳牛の泌乳効率を向上させるためのストレス緩和 management 技術の確立 [H16~H18/県単研究]	3	家畜飼養	331	
	終	F-1-2-1	157	(721) 発育効果及び生涯生産性を高める乳用雌育成牛の飼養管理技術の確立 (旧題: 集約放牧を組み入れた高能力牛の育成期飼養管理技術の確立) [H13~H17/県単研究]	5	家畜飼養	332	
			158	(H15-30) 哺乳口ポットを応用した省力管理技術の確立 [H15~H17/県単研究]	3	家畜飼養	333	
	新	F-3-2-1	159	(H17-17) 栄養管理による泌乳牛の尿中窒素及びカリウム排泄量低減技術の確立 [H17~H20/県単研究]	4	家畜飼養	334	
			H-1-1-2	160	(H17-18) 発酵 TMR 飼料の調製並びに乳牛への給与技術の確立 [H17~H19/県単研究]	3	家畜飼養	
					(H17-18-1000) (1) 発酵 TMR 飼料の飼料特性の解明 [H17~H19/県単研究]	3	飼料生産	335
					"	3	家畜飼養	336
					(H17-18-2000) (2) 発酵 TMR 飼料の調製作業方式の開発 [H17~H19/県単研究]	3	飼料生産	337
					"	3	家畜飼養	338
		(H17-18-3000) (3) 発酵 TMR 飼料の乳牛への給餌技術の確立 [H17~H19/県単研究]		3	家畜飼養	339		
	"	3	飼料生産	340				
家畜工学	継	J-3-1-0	161	(304) 肉用牛における経済形質と DNA マーカーとの連鎖解析 [H07~H22/令達]	16	家畜工学	341	
			162	(H16-32) 核移植技術を応用した種雄牛短期造成技術の確立 [H16~H20/県単研究]	5	家畜工学		
	新	G-1-1-1		(H16-32-1000) (1) 再構築胚の安定生産技術の確立 [H16~H18/県単研究]	3	家畜工学	342	
				(H16-32-2000) (2) 種雄牛短期造成法の確立 [H17~H20/県単研究]	4	家畜工学	343	
			163	(H17-19) 正常胚安定生産技術の確立 [H17~H19/県単研究]	3	家畜工学	344	
	164	(H17-20) ガラス化保存受精卵の直接移植に向けた検討 (旧題: OPS を用いた牛胚の超急速ガラス化保存技術の確立) [H17~H19/令達]	3	家畜工学	345			
飼料生産	継	H-1-1-1	165	(253) とうもろこし市販品種の特性比較 [S54~H22/令達]	32	飼料生産	346	
			166	(254) とうもろこし系統適応性検定試験 [S55~H22/国庫委託]	31	飼料生産	347	
			167	(892) 牧草の気象感応試験 [H14~H22/県単研究]	9	飼料生産	348	
			168	(H16-33) 高消化性ソルガム品種特性比較試験 [H16~H18/令達]	3	飼料生産	349	
			169	(H16-34) 転作田における牧草導入時期の検討 [H16~H18/令達]	3	飼料生産	350	
			170	(H16-35) 不耕起栽培 トウモロコシを導入した寒冷地向け飼料作物周年作付体系の確立 (旧題: トウモロコシの不耕起、簡易耕起栽培法の確立) [H16~H22/県単研究]	7	飼料生産	351	
			171	(726) 採草用牧草の播種基準の策定 [H13~H17/県単研究]	5	飼料生産	352	
	終	K-2-1-4	172	(H15-31) 自給飼料をベースとした安全安心畜産物生産システムの確立 [H15~H17/県単研究]	3	飼料生産		
				(H15-31-1000) 有機飼料作物生産をめざした地力評価に基づく施肥法の確立 [H15~H17/県単研究]	3	飼料生産	353	
				(H15-31-2000) 長大型飼料作物ラップサイレージの調製・品質保持技術の確立 [H15~H17/県単研究]	3	飼料生産	354	
				(H15-31-3000) 長大型飼料作物ラップサイレージの生産・供給システムの構築 [H15~H17/県単研究]	3	農業経営	355	
				(H15-31-4000) 日本短角種の全期粗飼料多給型肥育技術の確立 [H15~H17/県単研究]	3	家畜育種	356	
				(H15-31-5000) 消費者に向けた安心安全な牛肉生産・流通評価基準の確立 [H15~H17/県単研究]	3	家畜育種	357	

主査 研究室 (小課題)	実施区分 (小課題)	主となる 推進構想 (小課題)	小課題 (連番)	(課題番号)課題名 [研究期間/ 予算区分]	実施 年数	担当研究室	実施 連番		
飼料生産	新	K-2-2-3	173	(H17-21) バイオガスプラント由来消化液の利用技術の確立 [H17~H19/令達]	3	飼料生産	358		
				(H17-21-1000) バイオガスプラント由来消化液の飼料作物における利用効果 [H17~H19/令達]	3	飼料生産			
				(H17-21-2000) バイオガスプラント由来消化液の耕種作物における利用効果 [H17~H19/令達]	3	土壌作物栄養			
				〃	3	営農技術			
外山畜産	継	G-2-1-3	174	(H15-45) 日本短角種DM牛の特性解明と系統造成 [H15~H19/国庫委託]	5	外山畜産	361		
				G-2-1-8	175	(H16-36) 中山間地域の草地資源の高度利用による黒毛和種集団繁殖・育成管理技術の確立 [H16~H18/県単研究]		3	外山畜産
		(H16-36-1000) (1) 公共牧野における定時人工授精技術及び簡易胚移植技術の確立 [H16~H18/県単研究]	3			外山畜産			
		(H16-36-2000) (2) 寒冷地における黒毛和種人工哺育子牛の損耗防止技術の確立 [H16~H18/県単研究]	3			外山畜産			
		(H16-36-3000) (3) 黒毛和種肥育素牛の集団飼養におけるTMRを活用した自給飼料多給型育成技術の確立 [H16~H18/県単研究]	3			外山畜産			
		H-3-1-1	176	(H16-37) 牧草地における粗砕力キ殻の土壌改良資材としての利用技術の確立 [H16~H18/県単研究]	3	外山畜産	365		
	H-3-1-1	177	(H16-38) 減化学肥料化を目指した牧草地における発酵鶏糞ペレットの施肥基準の策定 [H16~H18/県単研究]	3	外山畜産	366			
H-4-1-3	178	(H16-55) 狭小草地における子牛の放牧育成技術の開発 [H16~H18/国庫委託]	3	外山畜産	367				
終(繰上)	K-2-1-1	179	(H16-39) カキ殻充填水路と人工湿地を併用したパドック排水の簡易浄化処理技術の開発 [H16~H18 H17/県単研究]	2	外山畜産	368			
種山畜産	継	G-1-1-1	180	(234) 黒毛和種産肉能力検定 (直接法) [S62~H22/令達]	24	種山畜産	369		
				G-1-1-1	181	(235) 黒毛和種産肉能力検定 (間接法・現場後代検定) [H01~H22/令達]		22	種山畜産
						G-1-1-4		182	(857) 県有種雄牛の利用及び能力調査 [H14~H22/県単研究]
				G-1-2-3	183				(859) 黒毛和種における分割胚移植技術を活用した高能力種雄牛の作出 [H14~H22/県単研究]
営農技術	終	O-2-1-2	184	(836) ホウレンソウの機械収穫に適した品種の選定 [H14~H17/国庫委託]	4	営農技術	373		
				(836-1000) 機械収穫に適したほうれんそうの形態・形質の解明 [H14~H17/国庫委託]	4	営農技術			
	終(繰上)	D-2-1-3	185	185	(H16-41) 地域ブランド化のためのナガイモ栽培技術の確立 [H16~H18 H17/県単研究]	2	営農技術		
X-1-2-2					186	(H16-42) フィールドサーバーの実用化技術の開発 [H16~H18 H17/県単研究]	2	営農技術	375
産地育成	継	D-3-2-2	187	(H15-33) 高冷地レタスの高位安定生産技術の確立 [H15~H19/県単研究]	5	産地育成	376		
				(H15-33-1000) 腐敗性病害の発生実態の解析 [H15~H17/県単研究]	3	営農技術			
				(H15-33-2000) 優良品種の選定 [H15~H17/県単研究]	3	産地育成			
				(H15-33-3000) 総合防除技術の確立 [H15~H19/県単研究]	5	産地育成			
	〃	E-2-1-1	188	188	(H16-44) 県北地域における小ぎく「アイマムシリーズ」の安定生産技術の確立 [H16~H18/県単研究]	3	産地育成	380	
					〃	3	営農技術		
	終	D-2-2-1	189	189	(828) カラシナによるほうれんそう萎凋病軽減技術の開発 [H14~H17/県単研究]	4	産地育成	381	
					E-2-1-4	190	190		(H15-34) 花壇苗及び鉢花の高収益栽培技術の確立 [H15~H17/県単研究]
		(H15-34-1000) 秋出しパンジーの商品化率向上技術の確立 [H15~H17/県単研究]	3	産地育成					
		(H15-34-2000) 県北地域に適する花壇苗・鉢花品目の選定と商品化技術の確立 [H15~H16/-]	2	産地育成					
D-2-1-3	191	191	191	(H15-46) 寒締め野菜の高品質化シナリオの策定と生産支援システムの開発 [H15~H17/国庫委託]	3	産地育成			
				(H15-46-1000) 生長調節シナリオの策定 [H15~H17/国庫委託]	3	産地育成			
				(H15-46-2000) 寒締めデグリーアワーの策定 [H15~H17/国庫委託]	3	産地育成			
				〃	3	産地育成			
新	E-2-1-1	192	192	(H17-22) 県北地域におけるりんどうの安定生産技術の確立 [H17~H21/県単研究]	5	産地育成	385		
				(H17-22-1000) (1) りんどうの有望育成系統の現地適応性試験 [H17~H21/県単研究]	5	産地育成			

主査 研究室 (小課題)	実施区分 (小課題)	主となる 推進構想 (小課題)	小課題 (連番)	(課題番号)課題名 [研究期間/予算区分]	実施 年数	担当研究室	実施 連番
産地育成		E-2-1-1		(H17-22-2000)(2)りんどうの需要期出荷のための早出し栽培技術の開発 [H18~H21/-]	4	産地育成	
やませ利 用	継	B-1-1-2	193	(H16-40)いわてオリジナル雑穀品種の開発と生産技術の確立[H16~H21/令 達]	6	やませ利用	
				(H16-40-1000)(1)岩手由来系統の特性評価と品質優良系統の選定[H16~ H21/令達]	6	やませ利用	386
				(H16-40-2000)(2)オリジナル雑穀品種の開発[H16~H21/令達]	6	やませ利用	387
				〃	6	水稻育種	388
				(H16-40-3000)(3)雑穀の省力・安定栽培技術確立[H16~H21/県単研究]	6	やませ利用	389
				〃	6	営農技術	390
				(H16-40-4000)(4)雑穀の高付加価値栽培技術確立[H16~H21/県単研究]	6	営農技術	391
〃	5	やませ利用	392				
				(H16-40-5000)(5)系統判別技術の確立[H19~H21/-]	3	応用生物工学	

(3) 要望課題の措置

平成18年度に実施を要望する試験研究課題の検討結果

措置区分 A=平成18年度実施
B=現在実施中
C=既知見あり
D=次年度実施できない

No	要望機関名	要望課題名	要望課題の内容	措置区分	担当研究室 (主査)	検討部会
1	盛岡地方振興局農政部 盛岡農業改良普及センター	本県のそば奨励品種に勝る特性を有する品種(国内で育成された品種・系統)の探索と選定	近年、国や道県等で育成された品種、系統の岩手県内で栽培した場合の特性を明らかにすることにより、導入が可能な品種の選定が可能であるとともに、本県のそばの単収向上と消費拡大が期待できる。	B	やませ利用研究室	農産部会
2	盛岡農業改良普及センター	岩手県の雨よけほうれんそうの低収要因と改善方向の解明	・岩手県の雨よけほうれんそうの低収要因を産地の販売戦略や経営、技術面などから解明し、改善方向を整理して欲しい。	C	専門技術員室	園芸部会 (野菜)
3	盛岡農業改良普及センター	玉山村在来にんにく優良種球の確保と栽培法の確立	・在来系統の種苗ウイルスフリー化 ・在来品種に適した栽培法の確立	D	野菜畑作研究室 応用生物工学研究室	園芸部会 (野菜)
4	盛岡農業改良普及センター	りんどう晩生・極晩生品種の育成	・「アルビレオ」に代わる品種、及び「ジョバンニ」に続いて開花する実生系品種の育成。	B	花き研究室	園芸部会 (花き)
5	盛岡農業改良普及センター	りんご開花予測の精度向上	・万全な凍霜害の事前対策を講じ、また煩雑となる開花期前後の作業を効率的にこなすため、より精度の高い発芽・開花予測が必要である。	B	果樹研究室	園芸部会 (果樹)
6	盛岡農業改良普及センター	ツマグロアオカスミカメの発生生態の解明と防除対策の確立	近年、ツマグロアオカスミカメが局所的に甚大な被害を及ぼしており、特にぶどうでは本種により収獲皆無になった事例もある。しかし、本種の生態解明が十分ではなく、登録剤も1剤の現状では、ローテーション散布による防除に支障がある。また、JA いわて中央では、りんごの特別栽培を実施しており、生態や加害時期が判然としないため対応に苦慮している。 そこで、ぶどうをはじめりんごにおける被害軽減と安定生産のために、本種の発生生態の解明と防除対策の確立が必要である。	D	病理昆虫研究室	園芸部会 (果樹)
7	盛岡農業改良普及センター	自給飼料を主体とした発酵 TMR の製品としての安定性の確立	・TMR 調整後のリスク軽減のための、トランスバックへの充填方法などの製品保管方法の確立	B	飼料生産研究室 家畜飼養研究室	畜産部会
8	花巻農業改良普及センター	集落型経営体を対象とした土地利用野菜の導入方策	(1) 水稲、麦、大豆などの水田利用に加えることを前提に、えだまめと同様に転作田の活用ができる土地利用型野菜を選択することが求められている。	C	農業経営研究室 野菜畑作研究室 生産工学研究室	総合部会
			(2) その場合、機器の汎用的利用を図り、機械の償却費を軽減することが求められる。	C	農業経営研究室 野菜畑作研究室 生産工学研究室	
			(3) その場合、より省力的な作業方法を採用し、人件費を削減することが求められる。	A	農業経営研究室 野菜畑作研究室	
			(4) 構成人員の属性に応じた役割分担、生産規模に応じた作業の最適人員数を明確にする必要がある。	A	農業経営研究室 野菜畑作研究室 生産工学研究室	

No	要望機関名	要望課題名	要望課題の内容	措置区分	担当研究室 (主査)	検討部会
9	花巻農業改良普及センター	集落型経営体によるえだまめ機械化一貫体系技術の早期確立	<p>1 収穫機や各種調整機械を利用した栽培方法は、県が推奨する技術として確立していない。</p> <p>2 ハーベスタタイプの収穫機を使用するには最下着爽位置を高める技術を要する。品種、移植の効果、被覆資材の効果など、多様な視点で管理技術を検討し、対策を明らかにする必要がある。</p> <p>3 大面積の作付けなのでビニールマルチ無活用を前提とした除草体系の確立を要する。なおその場合、実用機械の利用など省力的な方法を採用することが求められる。</p> <p>4 副産物の商品化に向けて、規格外果を利用した加工方法の開発が必要である。調整作業は女性及び高齢者による作業となっており、その延長でできる作業方法の採用が求められる。</p> <p>5 えだまめの連作障害回避に向け、輪作体系を組む上での作目構成を明確にし、汎用的で負担の少ない機械装備と、それに伴う作業体系を確立する必要がある。</p>	B	生産工学研究室 野菜畑作研究	園芸部会 (野菜)
10	花巻農業改良普及センター	転作田での雑穀の機械化一貫体系技術の確立	<p>(1)あわ・いなぎび等の機械化一貫体系栽培技術の確立</p> <p>各種作業による増収効果等を具体的に明らかにし、現場での指導に活かそうとするものである。特にあわ・いなぎびでは排水・雑草対策が不可欠であり、比較的水田で作りやすいヒエ・ハトムギ等の雑穀に比べ安定生産が難しく、生産コスト上厳密な試算が求められる。</p> <p>また真空播種機による施肥同時播種の実用性と効果、畦立栽培の有効性、各種株間除草機の実用性等についても検討いただきたい。</p>	B	生産工学研究室 営農技術研究室	農産部会
			<p>(2)雑穀を取り入れた土地利用モデルの構築</p> <p>雑草発生状況、地力消耗、連作障害等から見た畑作雑穀(あわ・きび)と水田雑穀(ヒエ・ハトムギ)等の連作可能年数を明らかにした上で、輪作体系あるいはモデル等の構築が望まれる。また畑地固定連作団地においても、麦・大豆の連作障害等の対策として、雑穀を取り入れた畑地輪作モデルが提示可能となる。</p>	D	生産工学研究室 営農技術研究室	
11	花巻農業改良普及センター	リンドウホソハマキの性フェロモン剤を利用した防除技術の確立	<p>リンドウホソハマキの生態を調査し、リンゴの性フェロモン剤のような防除体系を確立し、花きにおいても環境に優しい技術に取り組む。リンドウホソハマキは年3回の世代交代を繰り返す。幼虫が茎随部を食害し、芯枯れ症状を起こす。芯枯れ症状は品質低下を招き、商品価値が著しく低下する。越冬した幼虫は4月中旬から蛹化が始まるが個体差が大きく、防除時期が長くなる。また、薬剤散布のタイミングを逃すと防除効果が低下するので、潜入前の対策が重要である。性フェロモン剤等を利用し、交尾を攪乱できれば、越冬世代数、産卵数が減らせるので、防除に費やす時間を縮小することができる。りんどうの全国シェアを岩手県が最も多く占めているので、環境に優しい技術が開発されれば、県のイメージアップに貢献できると思われる。</p>	D	病理昆虫研究室	園芸部会 (花き)

No	要望機関名	要望課題名	要望課題の内容	措置区分	担当研究室 (主査)	検討部会
12	北上農業改良普及センター	小粒大豆黒千石の栽培法	当該品種について、試験データ等に基づき好適な栽培法を提示する。	B	野菜畑作研究室	農産部会
13	北上農業改良普及センター	グリーンアスパラガス栽培における施肥体系の確立	取り組みが増加している立茎栽培や伏せ込み促成栽培について、本県向けの施肥体系・栽培体系を整理して示す。	B D	野菜畑作研究室 産地育成研究室 土壌作物栄養研究室	園芸部会 (野菜)
14	水沢農業改良普及センター	水田転換畑における圃場条件に応じた湿害対策の標準化	「岩手県畑作物指導指針」では水田転換畑の排水目標及び排水対策は示されているが、圃場排水性の程度別での対策技術の基準は示されていない。 そこで、水田転換畑の排水性のランク化についての方法を確立し、それに応じた排水対策の基準を示して欲しい。	D	生産工学研究室 野菜畑作研究室	農産部会
15	水沢農業改良普及センター	りんどうの養分吸収特性の解明	効率的な施肥管理を行うため、りんどうの主な品種・作型毎に時期別養分吸収量を把握する。	B	土壌作物栄養研究室	園芸部会 (花き)
16	一関農業改良普及センター	トマトのつる下げ作業省力化技術の検討	トマト栽培において、規模拡大や長期継続出荷の実現のためには、つる下げ作業の省力化が最も効果が上がる方法と考えられる。青森県で検討されている簡易器具を使ったつる下げ方法や、整枝方法の改良によるつる下げの省力化を検討し、岩手県で最も導入が多いパイプハウスでのつる下げ作業の省力化を実現して欲しい。	C	専門技術員室	園芸部会 (野菜)
17	千厩地方振興局農林部	家畜ふんたい肥の肥料成分の迅速判定技術の開発	1 たい肥の簡易成分測定法の開発 (H18~19) (平成 13 年度研究成果で簡易評価法が公表されているが、成分推定法についてはカリのみであり、窒素、りん酸、その他の成分推定は未対応である)	B	土壌作物栄養研究室 営農技術研究室	総合部会
			2 近赤外分光光度測定法等による非破壊迅速成分分析法の確立 (H18~20)	B	土壌作物栄養研究室 営農技術研究室	
18	大船渡農業改良普及センター	石灰質資材の連用による水田土壌への影響	1 石灰質資材を水田に連用した場合の、水田の pH の変化、収量、品質への影響。 2 石灰質資材の有効活用法。 (石灰資材名：生石灰に豚糞尿を化合させた物で、商品名はグリーンパワー)	C	専門技術員室	総合部会
19	大船渡農業改良普及センター	立毛状態での自給飼料の硝酸態窒素の分析法	家畜排泄物法施行により、たい肥等を多量に施用する農家が増えているが、このことにより硝酸態窒素過剰障害が懸念される。サイレージや乾草の硝酸態窒素は測定できるが、圃場こある立毛状態での測定法は未だ確立されていない。農家が望むのは、サイレージや乾草の原料時点での硝酸態窒素含量であるため、普及センターに配備されている RQ フレックスを使用して簡易かつ速やかに分析できる手法を確立してほしい。	C	専門技術員室	畜産部会
20	遠野農業改良普及センター	水わさびに対する使用農薬について	水わさびで使用できる野菜類登録農薬の効果的な使用方法、及び耕種的防除を含めたアブラムシ防除体系の確立	B	病理昆虫研究室	園芸部会 (野菜)

No	要望機関名	要望課題名	要望課題の内容	措置区分	担当研究室 (主査)	検討部会
21	釜石農業改良普及センター	ピーマンのリアルタイム栄養診断技術の開発	(1) 栄養診断部位の検討 汁液による栄養診断時のピーマン採取部位の検討 平成 18～19 年 (2) 栄養診断成分の検討 単収向上を狙う場合と果実の内部品質(高糖度・高ビタミン)の向上を狙う場合の、各成分(N、P、K等)基準値の検討 平成 19～21 年 (3) 収量向上を図るための栄養診断基準の設定 ハウス、トンネル、露地作型における各生育ステージの栄養診断基準の設定 平成 19 - 20 年 (4) 内部品質の向上を図るための栄養診断基準の設定 ハウス、トンネル、露地作型における各生育ステージの栄養診断基準の設定 平成 19 - 21 年	C D	土壌作物栄養研究室 保鮮流通技術研究室	園芸部会 (野菜)
22	宮古地方振興局農政部	三陸海洋深層水の農作物利用	(1) 三陸沖海洋深層水の特長 (2) 作物に対する施用効果 ・ほうれんそう、こまつな(生育促進、糖度向上、 収量向上、硝酸含量の低下等) ・トマト(生育促進、糖度向上など) ・キャベツ育苗(根張り向上、生育促進等) (3) 効果的な施用方法 ・処理濃度 ・処理方法(かん水、葉面散布)	B	環境保全研究室 保鮮流通技術研究室 土壌作物栄養研究室	総合部会
23	宮古農業改良普及センター	北部・沿岸地域に適応したいちごの品種選定と栽培技術の確立	夏穫り及び促成栽培を導入したいちご経営モデルの確立 中山間地の小規模農家でも導入可能な通年栽培型の観光農園を併設できる形の経営および夏穫りに限った経営	B	野菜畑作研究室 農業経営研究室	園芸部会 (野菜)
			夏穫り及び促成栽培いちご品種の選定 貯蔵性の良い品種で、現在主に市場流通している「とちおとめ」並以上の食味を有する品種	D	野菜畑作研究室 南部園芸研究室	
24	宮古農業改良普及センター	研究成果及び要望課題回答結果のデータベース化	1 過去の試験研究成果に係るデータベース化	B	企画情報室 専門技術員室	総合部会
			2 過去の要望課題回答内容に係るデータベース化	B	企画情報室 専門技術員室	
25	久慈農業改良普及センター	雨よけほうれんそうの硝酸イオン濃度低減のための土壌診断技術の確立	ほうれんそう収穫後土壌の分析により、春 1 作目以降の適正施肥量を類推する目安を提示してほしい。	B	土壌作物栄養研究室	園芸部会 (野菜)
26	二戸農業改良普及センター	醗酵鶏糞や醗酵豚糞を利用した高品質小麦・大豆栽培法の開発	1 醗酵鶏糞や醗酵豚糞を利用した無化学肥料または減化学肥料栽培技術の開発 2 同栽培法が子実の蛋白含量に及ぼす影響 3 基肥を無化学肥料栽培とし、追肥に化学肥料を利用することも視野に入れた子実蛋白を高める栽培技術の開発(=化学肥料の使用量を 50% を削減する範囲内での追肥技術)	A	営農技術研究室 土壌作物栄養研究室 野菜畑作研究室 やませ利用研究室	農産部会
27	二戸農業改良普及センター 軽米地域普及所	栄養系ピンクりんどうへのホルモン剤試験	・栄養系ピンクりんどうに対するピーエー液剤の側枝発生効果の検証 ・効果があった場合、ピーエー液剤のりんどうへの適用拡大	D	花き研究室	園芸部会 (花き)
28	流通課	外食等新需要対応物流システム確立実証試験	中食、外食等の業務需要対応の物流システムが求められていることから、様々な流通条件下における流通コスト、リードタイム、鮮度状況等の調査を行う必要がある。	A	保鮮流通技術研究室	総合部会

No	要望機関名	要望課題名	要望課題の内容	措置区分	担当研究室 (主査)	検討部会
29	農業普及技術課	県育成水稲品種の岩手県リアルタイムメッシュ気象情報システム(水稲生育予測システム)における生育パラメータの策定	岩手県リアルタイムメッシュ気象情報システムの水稲生育予測システムにおける県オリジナル品種の各種係数を策定。 (1) 品種・系統：いわてっこ、もち美人、岩手68号 (2) 策定を希望する係数：生育予測式係数	B	水田作研究室 やませ利用研究室	農産部会

5 共同研究等の推進

(1) 国庫委託研究事業 (国庫 10 / 10 委託)

事業名・課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
特性検定試験事業 ・ 麦類 (耐寒雪性) ・ 大豆 (立枯性病害抵抗性)	国	継続	国及び育種指定試験地で育成中の系統について、育成地では実施しがたい特性の検定を行い、選抜効率の向上のための資料を得る	野菜畑作 野菜畑作
系統適応性検定試験事業 ・ 水陸稲 ・ 馬鈴薯 ・ 小豆 ・ 飼料用トウモロコシ ・ 果樹	国	継続	国及び育種指定試験試験地で育成中の系統について、育成地と異なった風土での確認を行い、新品種決定のための資料を提供する。	水稲育種 野菜畑作 飼料生産 果樹

(2) 交付金プロジェクト委託研究 (10 / 10 委託)

事業名・課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
寒冷地におけるイチゴの周年供給システムの確立	(独)東北農業研究センター	15～19	東北北部内陸地域における夏秋どり新作型の開発	野菜畑作
			超促成・越年(株)型経営モデル作成	農業経営
東北地域における農薬 50%削減リンゴ栽培技術体系の確立	(独)東北農業研究センター	17～21	リンゴ生育期後半における病害防除回数削減体系の開発	病理昆虫
			リンゴの樹形改善による効率的防除と散布量削減技術の開発	果樹
			農薬 50%削減リンゴ栽培技術体系の現地実証マニュアル策定	病理昆虫

(3) 委託プロジェクト研究 (10 / 10 委託)

事業名・課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
新鮮でおいしい「ブランドニッポン」農産物提供のための総合研究	(独)野菜茶業研究所	14～17	ハウレンソウの機械収穫に適した品種の選定	営農技術 産地育成
	(独)東北農業研究センター	15～17	有望小麦系統の高品質・安定多収栽培技術の開発	野菜畑作 やませ利用
			麦後大豆の高品質栽培技術の確立	野菜畑作
			寒冷地北部における飼料イネ生産給与体系化技術の確立	水田作 飼料生産
農林水産生態系における有害化学物質の総合管理技術の開発	(独)農業環境技術研究所	15～17	東北地域における野菜の低吸収・低蓄積機構の解明	環境保全
			動態モデル開発のための水田用農薬の動態解明	環境保全
食品の安全性及び機能性に関する総合研究	(独)農業生物資源研究所	15～19	日本短角種の全個体認証システムの構築	家畜育種
せん定枝粉碎搬出機の開発・利用に関する調査	(独)生物系特定産業技術研究支援センター	16～19	りんごせん定枝の粉碎搬出機の開発・利用に関する調査の実施	果樹
農作業安全のための圃場条件に関する委託調査	(独)生物系特定産業技術研究支援センター	17～18	農業機械軒状状況警報システム開発のための、圃場・農道条件調査の実施	生産工学
データベース・モデル協調システムの開発	(独)中央農業総合研究センター	13～17	分散協調型農業技術体系データベースを用いた生産計画支援システムの開発	農業経営

(4) 先端技術を活用した農林水産研究高度化事業 (10/10 委託)

課題名	共同研究機関 (は中核機関)	研究期間	研究の内容	担当研究室
日本短角種 DM 牛の特性解明と系統造成	東北大学大学院農学研究科 (独)農業技術研究機構	15～19	DMヘテロ繁殖雌牛にDMヘテロ凍結精液を人工授精して DM ホモ牛群の造成を行うとともに、DM 牛の生殖特性と発育特性の解析を行う	外山畜産 家畜工学
寒締め野菜の高品質化シナリオの策定と生産支援システムの開発	(独)東北農業研究センター 福島県農業試験場 秋田県立大学 農業情報コンサルティング(株) JA 十和田市	15～17	寒締め野菜の環境調節シナリオの策定	産地育成
やませ気象下の水稻生育・被害予測モデルと冷害回避技術の開発	(独)東北農業研究センター 青森県農林総合研究センター 岩手県工業技術センター 宮城県古川農業試験場 福島県農業試験場 (助)日本気象協会 JA 新いわて	16～18	減化学肥料栽培条件下におけるいもち病発病変動予測	環境保全
			直播水稻の収量、品質安定化のための作期設定	水田作
			冷害被害米の品質特性を活かした加工技術の開発	保鮮流通技術
リンゴ品種の単植化に向けた新しい結実安定技術の開発	(独)果樹研究所 長野県果樹試験場 宮城県農業園芸総合研究所 岐阜大学 岩手大学 JAいわて中央	16～20	経済効果の高いリンゴ品種の単植化に向けた新しい結実安定技術の開発	果樹
多機能性新規ベリーの産地化技術の確立と新加工品の開発	東北大学 岩手県工業技術センター 陸前高田市総合営農指導センター (有)神田葡萄園	16～18	多機能性新規ベリーの生産安定化技術の確立	果樹
寒冷地における耕作放棄地の草地化とミニ放牧技術の開発	(独)東北農業研究センター 福島県畜産試験場 岩手大学農学部	16～18	狭小草地における子牛の放牧育成技術の開発	外山畜産
ホモプシス根腐病解決による露地夏秋キュウリ安定生産技術の確立	(独)東北農業研究センター 秋田県立大 福島県農業試験場	17～19	ホモプシス根腐病に対する薬剤による土壌消毒効果の安定化技術の開発	病理昆虫
			根域制御手法の案出とそれに対応した栽培技術の開発	野菜畑作
			根域制御手法における土壌消毒技術の開発	病理昆虫
寒冷地・積雪地下における冬春野菜の安定化生産技術の開発	(独)東北農業研究センター 東罐興産(株) 岩手大学 秋田県立大 秋田県農業試験場 宮城県農業園芸総合研究所 山形県立園芸試験場	17～19	早期秋冷気象を活かしたアスパラガスの促成栽培技術の確立	野菜畑作 産地育成

(5) 民間委託研究 (10 / 10 委託)

事業名・課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
農薬及び植物調節剤等の効果検 定試験	(社)日本植物防疫 協会	継続	新農薬効果試験 85 件	病理昆虫 果樹 営農技術
	(財)日本植物調節 剤研究協会	継続	除草剤実用化試験 41 件	水田作 果樹 野菜畑作 花き 飼料生産 産地育成 やませ利用
	(株)丸尾カルシウム	17	新資材実用化試験 1 件	果樹
	北興化学工業(株)	17	新資材実用化試験 1 件	花き
肥料の効果等に関する試験	岩手県施肥合理 化協議会	継続	水田作 4 件 果樹 2 件 野菜畑作 5 件 南部園芸 4 件 土壌作物栄養 6 件 営農技術 6 件 産地育成 7 件	主査： 土壌作物栄養

(6) 夢県土いわて戦略的研究推進事業 (科学技術課所管 公募競争型 県単)

課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
野菜類の残留農薬分析における簡 易分析法の開発	環境保健研究センター	15~17	イムノアッセイ法による野菜類の残 留農薬の簡易・迅速な分析手法の開発	環境保全

(7) (財) 岩手生物工学研究センターとの共同研究

農業研究センター課題名	生物工学研究センター課題名	研究の内容	担当研究室
りんどうのウイルスフリー化技 術の確立	りんどう病原ウイルスの検出・診 断技術の利用	生工研が開発した技術を応用した 実用化技術を開発し、りんどうの 優良種苗供給に利用する。	応用生物工学
小ぎくのウイルスフリー化技術 の確立	トマト黄化えそウイルス(TSWV) の検出・診断技術の確立及び利用	生工研が開発した技術を応用した 実用化技術を開発し、小ぎくの優 良種苗供給に利用する。	応用生物工学
各種病原の検出・診断技術	ピーマン病原ウイルス(PMMoV) の検出・診断技術及び系統解析技 術の利用	生工研が開発した病原の検出手法 を実用化技術に仕上げると共に、 現地において簡易に高感度で迅速 な診断法を開発する。	応用生物工学
水稻重要形質と連鎖した DNA マーカーの探索 いもち病真性抵抗性遺伝子に関連し た DNA マーカーの探索とその実用化	DNA マーカーを用いた水稻特性 検定法の確立	生工研と共同で遺伝子解析に基づ く DNA マーカーを開発し、岩手 オリジナル品種の育成を加速化す る。	水稻育種 応用生物工学
りんどうの F1 優良個体の大量 増殖 突然変異等を利用した新形質り んどうの特性評価	アグロバクテリウム・リゾジェネ ス A4 菌を用いた矮化りんどうの 特性評価	生工研が開発した A4 菌感染矮性 りんどうの増殖手法検討と特性調 査を行い、新品種を早期に育成す る。	応用生物工学 花き
シイタケ菌床栽培廃棄物を利用 した土壌中残留農薬分解法の開 発	シイタケ菌床栽培廃棄物を利用し た土壌中残留農薬分解法の開発	シイタケ菌床栽培廃棄物からリグニ ン分解酵素類を安定に回収し、農 薬などの環境汚染物質を分解する 方法を確立する。	環境保全

(8) 大学との共同研究

課題名等	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
日本短角種 DM 牛の高度活用による次世代型機能性健康ビールの開発	東北大学大学院	15～19	早期遺伝子診断を取り入れた優良種雄牛短期造成技術の開発	外山畜産
多機能性新規ベリーの産地化技術の確立と新加工品の開発	東北大学	16～18	ビタミンEなどの多機能性成分を多量に含むロシア原産のグミ科植物オビルピーハの産地化技術を開発・確立するとともに、果実成分を分析して、日本の消費者に適した新加工品を開発する。	果樹

(9) 他の公設試との共同研究

課題名等	相手方	研究期間	担当研究室
ワイン専用ぶどう新系統の醸造特性評価	工業技術センター	6～	果樹
新規育成小麦品種の加工特性評価	工業技術センター	7～	野菜畑作
大豆有望系統の加工適性・用途開発	工業技術センター	7～	野菜畑作
醸造用水稲品種の開発	工業技術センター	8～	水稻育種

(10) AFR（岩手農林研究協議会）研究会

ア 研究会

名称	構成	研究期間	担当研究室
1 花卉育種研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	10～	花き
2 昆虫機能利用研究会	岩手大学農学部、同教育学部、岩手医大、岩手県農業研究センター、岩手県立農業短期大学	10～	病害虫
3 植物育種研究会	岩手大学農学部、教育学部、生物工学研究所、東北農業研究センター、岩手県農業研究センター	10～	水稻育種 銘柄米開発
4 農作物ウイルス病診断防除研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	10～	病害虫
5 機能性食品研究会 A（雑穀）	岩手大学農学部、大学院連合農学研究科、工業技術センター、東北農業研究センター、岩手県農業研究センター、二戸農業、浄法寺農業、カナン牧場	10～	やませ利用
6 機能性食品研究会 B（豆腐）	岩手大学農学部、工業技術センター、岩手県農業研究センター、黒川食品(株)、花巻起業化支援センター	10～	野菜畑作
7 農作業システム自動化研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	10～	生産工学
8 乳牛の周産期疾患研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター-畜産研究所、小岩井農牧、日本金薬工業	10～	家畜飼養
9 水稻栽培研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	11～	水田作
10 果樹栽培研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	11～	果樹
11 リンドウ研究会	岩手大学農学部、東北農業研究センター、岩手県農業研究センター、安代町花き開発センター	11～	応用生物
12 植物耐冷性研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター、生物工学研究所	12～	水稻育種
13 雑穀の病害虫に関する研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	12～	病害虫
14 ホップの機能性研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	11～	-
15 有機質資源循環利用研究会	岩手大学農学部、工業技術センター、岩手県農業研究センター	12～	飼料生産、土壌作物 生産工学

名 称	構 成	研究期間	担当研究室
16 始原生殖細胞 (PGCs) 利用研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター、小岩井農牧	13～	家畜育種
17 里地・里山生物多様性研究会	岩手大学人文社会科学部、県立博物館、(社)岩手県植物防疫協会、環境保健研究センター、岩手県農業研究センター	14～	環境保全 病理昆虫
18 硝酸性窒素動態研究会	岩手大学農学部、岩手県立大学総合政策学部、環境保健研究センター、農業普及技術課、岩手県農業研究センター	14～	環境保全 土壌作物栄養 専門技術員
19 食品廃棄物の飼料化研究会	岩手大学農学部、東北農業研究センター、工業技術センター、岩手県農業研究センター	14～	家畜育種 飼料生産
20 農業IT活用研究会	岩手県立大学、八戸工業高等専門学校、農業普及技術課、岩手県農業研究センター	15～	農業経営、病害虫 土壌作物栄養 環境保全、営農技術

イ AFR 協議会等の開催

開催月日	場 所	内 容
17.8.5	岩手大学農学部大会議室	(1) AFR 拡大協議会 17年度の活動方針、AFRの活性化、その他 (2) 成果報告会 5成果を報告 農業研究センターからは2成果 ● 「基準品種の不稔歩合平均値を用いた水稻耐冷性「極強」以上の判定手法」 水稻育種研究室 主任専門研究員 田村 和彦 ● 「インパチエンスネクロティックスポットウイルス (INSV) によるリンドウえそ斑点病 (新病害) の発生」 病理昆虫研究室 専門研究員 猫塚 修一
17.12.19	岩手大学農学部12番講義室	シンポジウム 「熱 - 生命システム関連学拠点創成」 「熱 - 生命システム関連学拠点創成の全体と課題」 岩手大学農学部教授 上村 松生 「ザゼンソウの発熱メカニズム」 岩手大学農学部助教授 伊藤 菊一 「ザゼンソウの発熱システムの工学的利用」 岩手大学工学部助教授 長田 洋 「高等植物における受粉・受精のメカニズムと将来展望」 東北大学大学院教授・岩手大学客員教授 渡辺 正夫

(11) その他共同研究

課 題 名	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
黒毛和種及び日本短角種における経済形質に関わるゲノム解析研究	(社)畜産技術協会	13～	岩手県種雄牛の半兄弟家系を作成し、DNA マーカーによる連鎖解析を行い、経済形質遺伝子座を明らかにする。また、劣性遺伝病について、発病牛家系の DNA マーカーによる連鎖解析を行い、原因となる遺伝子座を明らかにする。	家畜工学
生物遺伝資源交換に関する研究協定	(独)農業生物資源研究所	14～24	(1) 植物、動物、微生物の生物遺伝資源及びDNAの相互交換	-

(12) その他産学官連携

名称	開催月日	場 所	内 容
岩手県産官学連携会議	年2回	盛岡市ほか	事務局：岩手大学地域共同研究センター
作物ゲノム育種ネットワークグループ	-	-	事務局：(独)作物ゲノム育種センター 参加職員：田村和彦、竹澤利和、安ヶ平紀子
寒冷圏未利用資源研究ネットワーク	-	-	事務局：岩手大学大学院連合農学研究科

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当
リンゴ育種系統の現地適応性試験	二戸市 宮古市 矢巾町 奥州市 一関市	金田一 内の沢 煙山 小倉沢 金沢	園芸畑作部 果樹
東北地域における農薬50%削減リンゴ栽培木樹体系の確立現地実証試験	紫波町	長岡	果樹
麦類奨励品種決定現地調査	紫波町 一関市	水分 長坂	野菜畑作
大豆奨励品種決定現地調査	奥州市 滝沢村	古城 鷓鴣	野菜畑作
麦類耐雪性特性検定試験	一戸町	奥中山	野菜畑作
納豆用有望品種現地試験	滝沢村	鷓鴣	野菜畑作
水田における大豆湿害回避技術現地実証	花巻市	石鳥谷町黒沼	野菜畑作 専門技術員室
水田における小麦湿害回避技術現地実証 冬期播種技術現地実証	矢巾町	北郡山	野菜畑作 専門技術員室
地域確立「寒冷地イチゴ」現地実証	盛岡市	飯岡	野菜畑作
りんどう品種育成に係る現地調査	花巻市 西和賀町 奥州市	北寺林 川舟 檜原	花き
小ぎく品種育成に係る現地調査	北上市	江釣子	花き
りんどうこぶ症の発生要因の解明現地試験	花巻市 八幡平市	戸塚 野駄	花き
りんどう除草剤試験	花巻市	十二丁目	花き
高規格施設におけるトマト周年養液栽培技術の確立実証 県央部における寒冷地型周年栽培技術の技術確立現地試験	紫波町		南部園芸
イチゴ促成栽培における省力的短日処理技術の開発、実証 省力的短日処理技術の現地実証	陸前高田市		南部園芸
水稻減農薬栽培地域の水系における農薬動態の解明	雫石町	西山	生産環境部 環境保全
水稻におけるカドミウム吸収抑制栽培管理技術の確立	西和賀町	槻沢 前郷	環境保全
野菜類のカドミウム吸収特性の解明	西和賀町	前郷 太田	環境保全
環境との調和に配慮した水路の水生生物保全効果の検証	一関市	門崎	環境保全
減農薬栽培農産物における農薬残留評価手法の開発	金ヶ崎町	西根	環境保全

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当
産地PRのための里地里山の生き物活用方法の開発 りんどうの養分吸収特性の解明 県内産有機原料を配合した減化学対応肥料の効果確認 新ケイ酸質資材の肥効確認 高品質トマトの供給技術確立 野菜の品質自主管理技術の開発 安全安心な水稲栽培技術の総合実証 安心安全な野菜の栽培技術の実証	花巻市 西和賀町 八幡平市 北上市 雫石町 奥州市 遠野市 洋野町 一戸町 盛岡市 雫石町 奥州市 洋野町 遠野市	矢沢 猿橋 松木田 飯豊 御明神 江刺区 小友 大野 奥中山 玉山区巻堀 御明神 江刺区稲瀬 大野	環境保全 土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養 保鮮流通技術 環境保全 保鮮流通技術 環境保全 土壌作物栄養 環境保全 土壌作物栄養 保鮮流通技術
アミスターエイト無人ヘリ散布のいもち病に対する効果検討試験 りんどう葉枯れ症状の原因解明と防除法 地域特産物における新防除資材の実用化 りんごにおける病害虫総合防除技術の開発 施設ピーマンの病害虫総合防除の実証	一関市 奥州市 一関市 花巻市 岩泉町 遠野市 遠野市 一関市 紫波町 奥州市	大原 本巻 本寺 新堀 安家 湧水 上郷 巖美 東長岡 舟久保 小山	病害虫部 病理昆虫 病理昆虫 病理昆虫 病理昆虫 病理昆虫
自給飼料をベースとした安全安心畜産物生産システムの確立 2)長大型飼料作物ラップサイレージ調製・品質保持技術の確立 転作田における牧草導入時期の検討	岩泉町 紫波町	早坂 南伝法寺	畜産研究所 飼料生産 飼料生産
県北地域の水稲栽培における有機質資材の化学肥料代替利用法の確立 新肥料の実用化	軽米町 九戸村 軽米町 八幡平市	山内 長興寺 上館 上坊	県北農業研究所 営農技術 営農技術

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当
高冷地レタスの高位安定生産技術の確立 (1)腐敗性病害の発生実態解析	一戸町	奥中山	営農技術
地域ブランド化のためのナガイモ栽培技術の確立	岩手町 軽米町	一方井 野場	営農技術
雑穀の省力・安定栽培技術確立	軽米町	長倉	営農技術
雑穀の高付加価値栽培技術確立	花巻市	円万寺	営農技術
高冷地レタスの高位安定生産技術の確立 (2)優良品種の選定 (3)総合防除技術の確立	一戸町 "	奥中山 "	産地育成 "
カラシナによるハウレンソウ萎凋病軽減技術の開発	洋野町(大野)	苗代沢	産地育成
りんどう除草剤試験	軽米町	山内	産地育成
奨励品種決定現地調査(小麦)	盛岡市	玉山区下田	やませ利用
奨励品種決定現地調査(大豆)	二戸市	米沢	やませ利用

7 「岩手県農業試験研究推進構想」の課題と成果の対応一覧

平成12年3月に策定した「岩手県農業試験研究推進構想」は、平成22年を見据えた研究目標のもとに、平成17年までの試験研究課題や試験研究推進の方策等を取りまとめたものである。

中間目標年度である、平成17年を経過したことから、推進構想と7カ年分(H11～H17)の研究課題及び研究成果の実績を集約した。

【注意事項】

- (1) 実施課題は小課題と細目課題で構成されるが、ページ制約により本資料では小課題のみを整理している。
- (2) 1つの小課題は、複数の推進構想(中課題)と関連付けがあり得る。本資料では「主たる関連」のみで整理し、課題名を再掲していない。
- (3) 上記(2)の理由により、「主たる関連」課題のない重点目標は記載が無かったり、課題数が少ないものもある。
- (4) 1つの研究成果は、複数の研究課題との関連付けがあり得る。本資料では成果名は再掲している。
- (5) 成果名が空欄の研究課題においても、それぞれ「試験研究成績書」において成績を取りまとめている。

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11～H17)	小課題主査研究室	成果名(H11～H17)	成果主査研究室
(A)水稲	(A-1)オリジナル水稲品種の効率的開発のための新育種法の確立と新育種素材の開発	A-1-1-2	1	(736)分子マーカーを用いた岩手県水稲奨励品種の識別技術の確立[H13～H14/令達]	水稲育種	<H14-研-06>マイクロサテライトマーカーを利用した水稲奨励品種識別	水稲育種
			2	(737)分子マーカーを用いた選抜技術の検討[H13～H17 H22/令達]	水稲育種	<H15-研-04>DNAマーカーを用いた水稲「岩南23号」の穂いもち圃場抵抗性に関する解析 <H17-研-04>DNAマーカーによる水稲穂いもち圃場抵抗性の早期選抜の可能性	水稲育種 水稲育種
		A-1-2-1	3	(2)登熟性に優れる品種・系統の探索[H02～H12/令達]	銘柄米開発		
			4	(4)いもち病抵抗性極強系統の育成[H02～H12/令達]	銘柄米開発	<H12-研-02>岩南23号、岩南25号の穂いもち耐病性	銘柄米開発
			5	(5)水稲新規需要等対応品種の育成[H01～H22/令達]	水稲育種	<H12-研-03>低アミロース系統の混米による食味特性の変化 <H17-研-05>巨大胚米における脂質含量および脂肪酸組成の解析	銘柄米開発 水稲育種
			6	(18)水稲品種特性調査[S59～H22/令達]	水稲育種	<H11-研-01>平成12年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種
					水稲育種	<H12-行-04>平成13年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種
			7	(3)低温登熟性に優れる品種・系統の探索[H09～H22/令達]	水稲育種	<H15-指-08>平成15年における穂いもち被害と玄米収量の関係	病理昆虫
		A-1-2-2	8	(6)水稲高度耐冷性集積系統の育成[H02～H22/令達]	水稲育種	<H16-研-02>耐冷性「極強」を超える水稲品種選抜の可能性とその簡易選抜法	水稲育種
		(A-2)多様な消費者ニーズ・生産基盤に対応した商品性の高いいわてオリジナル品種の開発	A-2-1-0	9	(8)品種特性調査[H02～H12/令達]	銘柄米開発	<H11-研-02>平成12年度水稲新配布系統(候補系統)
	<H12-行-05>平成13年度水稲新配布系統(候補系統)						銘柄米開発
	10			(9)交配[H02～H12/令達]	銘柄米開発		
	11			(10)初期世代養成[H02～H12/令達]	銘柄米開発		
	12			(11)世代促進[H02～H12/令達]	銘柄米開発		
	13			(12)個体選抜[H02～H12/令達]	銘柄米開発		
	14			(13)系統選抜[H02～H12/令達]	銘柄米開発		
	15			(14)特性検定調査[H02～H12/令達]	銘柄米開発	<H12-研-02>岩南23号、岩南25号の穂いもち耐病性	銘柄米開発
					銘柄米開発	<H12-研-03>低アミロース系統の混米による食味特性の変化	銘柄米開発
	16	(17)少照条件下でも登熟性に優れる新系統・品種の育成[H02～H12/令達]	銘柄米開発				
17	(19)水稲品種育成交配試験[S59～H22/令達]	水稲育種					
A-2-1-1	18	(20)穂いもち病抵抗性極強品種・系統の育成[S48～H22/令達]	水稲育種				
A-2-1-5	19	(15)水稲生産力検定試験[S58～H22/令達]	水稲育種	<H13-行-04>平成14年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種		

研究分野	重点目標	中課題 コード	小課題 (連番)	課題名(小課題のみ) (H11~H17)	小課題 主査研究室	成果名 (H11~H17)	成果 主査研究室
						<H14-行-02>平成15年度水稲奨励品種決定本調査・現地調査新規供試系統	水田作
						<H15-行-03>平成16年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種
						<H17-行-03>平成18年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種
			20	(21)極良食味水稲品種・系統の育成[S60~H22/令達]	水稲育種	<H13-行-04>平成14年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種
						<H14-行-02>平成15年度水稲奨励品種決定本調査・現地調査新規供試系統	水田作
						<H15-行-03>平成16年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種
						<H16-行-03>平成17年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種
						<H17-行-03>平成18年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種
		A-2-2-0	21	(25)低温登熟性に優れる水稲品種・系統の育成[H02~H22/令達]	水稲育種		
		A-2-2-1	22	(22)高度耐冷性水稲品種・系統の育成[S59~H22/令達]	水稲育種	<H15-指-04>平成15年における水稲品種「いわてっこ」の耐冷性評価	水稲育種
						<H16-研-02>耐冷性「極強」を超える水稲品種選抜の可能性とその簡易選抜法	水稲育種
			23	(23)不良環境地帯向け水稲品種の育成(現地試験)[S59~H22/令達]	水稲育種		
			24	(24)育成地間相互交換水稲系統適応性検定試験[S52~H22/令達]	水稲育種	<H12-行-06>水稲玄米の貯蔵条件と食味の経時変化	水稲育種
						<H12-行-18>「かけはし」のブレンド適性	水稲育種
		A-2-2-2	25	(25)低温登熟性に優れる水稲品種・系統の育成[H02~H22/令達]	水稲育種		
		A-2-2-3	26	(26)難穂発芽性水稲品種・系統の育成[S62~H22/令達]	水稲育種		
		A-2-3-0	27	(27)直播適応性水稲品種・系統の育成[H03~H22/-]	水稲育種	<H15-研-03>直播水稲選抜のための耐ころび型倒伏性基準品種の選定	水稲育種
			28	(29)醸造用水稲品種・系統の育成[S63~H22/令達]	水稲育種	<H11-研-01>平成12年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種
						<H11-研-02>平成12年度水稲新配布系統(候補系統)	銘柄米開発
						<H12-行-04>平成13年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種
						<H12-行-05>平成13年度水稲新配布系統(候補系統)	銘柄米開発
						<H16-行-03>平成17年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種
						<H16-行-04>低グルテリン醸造好適米「岩手酒79号」の育成	水稲育種
						<H17-行-03>平成18年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種
		A-2-4-0	29	(30)醸造用水稲品種・系統の加工適性試験[H08~H22/令達]	水稲育種	<H16-行-04>低グルテリン醸造好適米「岩手酒79号」の育成	水稲育種
		A-2-4-1	30	(28)超多収水稲品種・系統の育成[H02~H22 H17/令達]	水稲育種		
			31	(32)低アミロース水稲品種・系統の育成[H02~H22/令達]	水稲育種	<H16-行-03>平成17年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種
						<H17-行-03>平成18年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種
		A-2-4-2	32	(29)醸造用水稲品種・系統の育成[S63~H22/令達]	水稲育種	<H11-研-01>平成12年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種
						<H11-研-02>平成12年度水稲新配布系統(候補系統)	銘柄米開発
						<H12-行-04>平成13年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種
						<H12-行-05>平成13年度水稲新配布系統(候補系統)	銘柄米開発
						<H16-行-03>平成17年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種
						<H16-行-04>低グルテリン醸造好適米「岩手酒79号」の育成	水稲育種
						<H17-行-03>平成18年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種
			33	(30)醸造用水稲品種・系統の加工適性試験[H08~H22/令達]	水稲育種	<H16-行-04>低グルテリン醸造好適米「岩手酒79号」の育成	水稲育種
		A-2-4-3	34	(31)水稲糯品種・系統の育成[H02~H22/令達]	水稲育種	<H16-行-03>平成17年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種
		A-2-4-4	35	(32)低アミロース水稲品種・系統の育成[H02~H22/令達]	水稲育種	<H16-行-03>平成17年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種

研究分野	重点目標	中課題 コード	小課題 (連番)	課題名(小課題のみ) (H11～H17)	小課題 主査研究室	成果名 (H11～H17)	成果 主査研究室
						<H17-行-03>平成 18 年度水稲新配布系統 (候補系統)	水稲育種
			36	(860)採種[S58～H22/令達]	水稲育種		
			37	(823)いわてっこの種苗登録(圃場審査用 栽培)[H14～H14/令達]	水稲育種		
		A-2-6-1	38	(35)奨励品種決定予備調査(粳・糯)[S29 ～H13/(県単採種)]	水田作	<H11-普-01>品種酒米「岩手酒 52 号」	やませ利用
						<H11-研-03>平成 12 年度水稲奨励品種決定 本調査・現地調査新規供試系統候補	水田作
						<H12-普-01>品種早生水稲良質良食味と耐 冷性を兼ね備えた「岩南 16 号」	やませ利用
						<H12-普-03>酒造好適米品種「ぎんおとめ」 の生育・栄養診断基準と栽培法	営農技術
						<H13-行-03>平成 14 年度水稲奨励品種決定 本調査・現地調査新規供試系統候補	水田作
			39	(36)奨励品種決定本調査(粳・糯)[S29～ H13/(県単採種)]	水田作	<H11-普-01>品種酒米「岩手酒 52 号」	やませ利用
						<H11-行-01>平成 11 年度水稲奨励品種決定 本調査・現地調査結果	水田作
						<H12-普-01>品種早生水稲良質良食味と耐 冷性を兼ね備えた「岩南 16 号」	やませ利用
						<H12-普-03>酒造好適米品種「ぎんおとめ」 の生育・栄養診断基準と栽培法	営農技術
						<H12-行-02>平成 13 年度水稲奨励品種決定 本調査・現地調査新規供試系統候補	水田作
						<H13-普-01>品種刈り 刈中生もち水稲餅加 工適性に優れた「岩南糯 19 号」	水田作
						<H13-普-02>水稲刈り 刈品種「いわてっこ」 の栽培法	やませ利用
						<H13-行-02>平成 13 年度水稲奨励品種決定 本調査・現地調査結果	水田作
			40	(37)奨励品種決定現地調査[S29～H13/(県 単採種)]	水田作	<H11-普-01>品種酒米「岩手酒 52 号」	やませ利用
						<H11-行-01>平成 11 年度水稲奨励品種決定 本調査・現地調査結果	水田作
						<H12-普-01>品種早生水稲良質良食味と耐 冷性を兼ね備えた「岩南 16 号」	やませ利用
						<H12-普-03>酒造好適米品種「ぎんおとめ」 の生育・栄養診断基準と栽培法	営農技術
						<H12-行-02>平成 13 年度水稲奨励品種決定 本調査・現地調査新規供試系統候補	水田作
						<H13-普-01>品種刈り 刈中生もち水稲餅加 工適性に優れた「岩南糯 19 号」	水田作
						<H13-行-02>平成 13 年度水稲奨励品種決定 本調査・現地調査結果	水田作
			41	(803)水稲奨励品種決定調査[H14～H22/県 単採種]	水田作	<H14-普-01>水稲刈り 刈品種「もち美人」の 栽培法	水田作
						<H14-行-03>平成 14 年度水稲奨励品種決定 本調査・現地調査結果	水田作
						<H14-行-04>平成 15 年度水稲新配布系統 (候補系統)	水稲育種
						<H15-行-01>平成 15 年度水稲奨励品種決定 本調査・現地調査結果	水田作
						<H15-行-02>平成 16 年度水稲奨励品種決定 本調査・現地調査新規供試系統	水田作
						<H16-普-01>品種耐冷性・耐病性に優れる 良質・良食味中生水稲「岩手 68 号」	水田作
						<H16-行-01>平成 16 年度水稲奨励品種決定 本調査・現地調査結果	水田作
						<H16-行-02>平成 17 年度水稲奨励品種決定 本調査・現地調査新規供試系統	水田作
						<H17-普-01>水稲品種「どんびしゃり」の期 待生育量と栽培法	水田作
						<H17-行-01>平成 18 年度水稲奨励品種決定 本調査・現地調査新規供試系統	水田作
						<H17-行-02>平成 17 年度水稲奨励品種決定 本調査・現地調査結果	水田作

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11~H17)	小課題主査研究室	成果名(H11~H17)	成果主査研究室
(A-3)省力・低コスト・環境に配慮した生産技術の確立	A-3-1-1	42	(444)寒冷地・大区画ほ場でのロングマット水耕育苗技術と移植栽培技術の確立[H12~H14/国庫助成]	生産工学	<H12-行-07>水稲ロングマット水耕育苗法	生産工学	
					<H13-指-03>もみから成型マットでの育苗方法と成型機の導入条件	生産工学	
		43	(H15-05)ロングマット水耕育苗移植栽培技術の確立と実証[H15~H17/県単研究]	生産工学	<H16-指-04>水稲ロングマット水耕苗における巻き取り前追肥の効果	水田作	
					<H16-指-05>水稲ロングマット水耕苗の育苗初期保温効果	水田作	
					<H17-指-04>ロングマット水耕苗を用いた水稲生産技術体系	生産工学	
					<H17-指-05>ロングマット水耕苗の簡易貯蔵法	土壌作物栄養	
		A-3-1-2	44	(728)大区画水田圃場における圃場畦畔の雑草制御と景観研成技術の確立[H13~H15/県単研究]	水田作	<H15-行-04>農業者が望む水田畦畔管理技術	水田作
		A-3-1-3	45	(464)超低圧パイプラインシステムの実証[H10~H12/令達]	生産工学	<H12-行-08>自然圧パイプラインの実用性	生産工学
		A-3-1-4	46	(38)北上川流域地帯における水稲湛水点播直播栽培技術の確立[H11~H14/国庫助成]	水田作	<H13-普-04>湛水直播におけるルイの発生消長と雑草防除	水田作
						<H13-指-08>「ひとめぼれ」の湛水直播導入可能域	水田作
						<H14-普-02>代かき同時丁ち込み点播機を用いた水稲湛水直播栽培法	水田作
						<H14-普-03>平成15年度雑草防除基準に採用した水稲除草剤	水田作
						<H14-普-04>代かき同時丁ち込み点播機の播種ロール改良による作業性向上効果	生産工学
						<H14-指-01>「代かき同時丁ち込み点播機を用いた水稲湛水直播栽培法」の経営的評価	農業経営
		47	(H15-04)水稲湛水直播の安定栽培技術の確立と実証[H15~H17/県単研究]	水田作	<H16-指-03>水稲湛水直播栽培における過酸化石灰被覆種子の貯蔵性と加温処理の効果	水田作	
					<H17-普-03>水稲湛水直播機の作業条件と導入基準	生産工学	
					<H17-指-01>水稲湛水直播栽培で苗立ち本数が少ない場合の分けつ期追肥の効果	水田作	
					<H17-研-01>水稲湛水直播の導入実態と収量目標	農業経営	
		A-3-2-0	48	(H16-59)直播栽培による収量・品質の安定化と冷害危険期分散の有効性[H16~H18/国庫委託]	水田作		
		A-3-2-1	49	(40)水稲作用新除草剤の効果の解明[S34~H13/(民間委託)]	水田作	<H11-普-03>平成12年度雑草防除基準に採用した水稲除草剤	水田作
						<H11-普-04>水田除草剤「ヤブ剤(パッ)」による水田雑草の防除法	水田作
						<H12-普-04>平成13年度雑草防除基準に採用した水稲除草剤	水田作
<H12-行-03>平成12年度水稲奨励品種決定本調査・現地調査結果	水田作						
<H13-普-04>湛水直播におけるルイの発生消長と雑草防除	水田作						
<H13-普-05>平成14年度雑草防除基準に採用した水稲除草剤	水田作						
50	(42)省力的畦畔雑草管理技術の確立[S34~H13/国庫助成]	水田作					
51	(807){post40}水田雑草の効果的防除技術の開発[H14~H22/民間委託]	水田作	<H14-普-03>平成15年度雑草防除基準に採用した水稲除草剤	水田作			
			<H15-普-07>平成16年度雑草防除基準に採用した水稲除草剤	水田作			
			<H16-普-02>平成17年度雑草防除基準に採用した水稲除草剤	水田作			
			<H17-普-02>平成18年度雑草防除基準に採用した水稲除草剤	水田作			
52	(H16-06)SU系除草剤抵抗性雑草の発生生態と防除技術[H16~H18 H20/県単研究]	水田作	<H16-指-06>「ササガ」水田への侵入と雑草化の確認	水田作			
			<H16-研-01>「ササガ」のSU系除草剤抵抗性雑草迅速検定法(ALS活性)における安定した検定部位と時期	水田作			
A-3-2-3	53	(376)水稲着色米関与菌の解明と防除対策[H09~H11/県単研究]	営農技術				
A-3-2-4	54	(44)水稲作用新資材の効果の解明[H01~H13/(民間委託)]	水田作	<H11-指-06>新しい水稲育種培土(中成苗用)の実用性	水田作		

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11~H17)	小課題主査研究室	成果名(H11~H17)	成果主査研究室	
(A-4)高品質・良食味米の安定生産技術の確立		A-3-3-1	55	(45)水稲栽培における水田雑草の最小限防除技術の開発[H12~H15/令達]	水田作	<H12-普-04>平成13年度雑草防除基準に採用した水稲除草剤 <H12-指-04>水稲除草剤「バース」 <H14-研-03>湛水深の違いによる水田雑草の発生様相 <H14-研-04>代かき時期の違いによる水田雑草発生の差異 <H15-指-13>耕種的管理と機械除草を組み合わせた水田雑草の防除法	水田作 水田作 水田作 水田作	
			56	(523)水稲における環境保全型農業の総合組立[H13~H15/国庫助成]	環境保全	<H11-研-21>水稲有機栽培等の地域別可能性 <H12-指-05>依いもち病の無防除栽培が可能となる立地条件と施肥基準 <H14-指-11>温湯浸漬法による水稲種子消毒 <H15-指-09>特別栽培農産物(水稲減農薬栽培)に対応した防除体系の組立て <H15-指-15>平成15年産水稲種子の温湯浸漬処理による発芽への影響	環境保全 環境保全 環境保全 環境保全	
			A-3-3-2	57	(H15-24)環境保全型有機質資源連用効果調査[H15~H22/国庫助成]	土壌作物栄養	<H17-研-06>豚ふん堆肥連用による水稲無化学肥料栽培の影響	土壌作物栄養
			A-4-1-1	58	(46)若手県産米の品質・食味向上要因の評価技術の開発に関する研究[H09~H12/県単研究]	水田作	<H11-指-03>米の品質判定器(RN-500)の特徴と活用法 <H11-指-04>米の成分分析計(AN-800)の特徴と活用法 <H11-研-04>株周による「ひとめぼれ」の乾物重推定 <H12-指-03>水稲主要品種の玄米白度に関する要因	水田作 水田作 銘柄米開発 水田作
				59	(704)米の品質・食味改善診断技術の開発[H13~H15/県単研究]	水田作		
		A-4-1-2		60	(47)水稲有望品種系統の栽培特性[H12~H15/県単研究]	水田作	<H11-普-02>酒造好適米品種「吟ざんが」の栽培法 <H13-普-02>水稲刈り刈品種「いわてっこ」の栽培法	銘柄米開発 やませ利用
		A-4-1-2	61	(58)有望新系統の栽培特性と産米の高品質安定栽培技術の確立[H13~H18/-]	水田作	<H12-普-02>酒造好適米品種「吟ざんが」の栄養診断基準の策定 <H14-普-01>水稲刈り刈品種「もち美人」の栽培法 <H15-普-01>「もち美人」の期待生育量一部改定と栄養診断基準 <H16-普-01>品種耐冷性・耐病性に優れた良質・良食味中生稈水稲「若手68号」 <H17-普-01>水稲品種「どんびしゃり」の期待生育量と栽培法	銘柄米開発 水田作 水田作 水田作	
			62	(59)水稲優良種子生産のための発芽能力検定法の確立[H13~H15/県単研究]	水田作	<H14-研-05>水稲主要品種の浸種温度の発芽への影響 <H15-指-14>平成15年産水稲種子の性状と育苗管理	水田作 水田作	
			63	(H16-08)優良種子生産のための双胚米の発生要因の解明[H16~H18 H16/県単研究]	水田作	<H16-行-05>双胚米の発生実態と発生要因	水稲育種	
			A-4-1-3	64	(48)良質・良食味米生産技術の栽培実証[S58~H14 H13/(県単研究)]	水田作	<H12-普-03>酒造好適米品種「ぎんおとめ」の生育・栄養診断基準と栽培法	営農技術
		A-4-2-1	65	(60)水稲有望新系統の早期栽培特性把握試験[H13~H14 H13/(県単研究)]	水田作	<H13-普-01>品種刈り刈中生もち水稲餅加工適性に優れた「岩南糯19号」	水田作	
			66	(806)県産米の品質・食味トップブランド現地栽培実証(H16から新肥料の実用化へ移行)[H14~H16 H15/民間委託]	水田作			
			67	(49)水稲作況調査と作柄成立要因の解析[S34~H18 H13/(県単研究)]	水田作	<H11-指-01>平成11年における水稲生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析 <H11-指-29>平成11年の夏期高温が農作物に及ぼした影響 <H12-指-02>平成12年における水稲生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析 <H13-指-06>平成13年における水稲生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析	水田作 水田作 水田作 水田作	
			68	(50)水稲優良品種の気象反応試験[S34~H13/(県単研究)]	水田作	<H13-指-06>平成13年における水稲生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析	水田作	

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11~H17)	小課題主査研究室	成果名(H11~H17)	成果主査研究室					
			69	(51) 土壌・施肥管理と水稻の生育反応[S34~H13/(県単研究)]	水田作	<H13-指-06>平成13年における水稻生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析	水田作					
			70	(805){post49} 水稻作況調査と作柄成立要因の解析[H14~H22/県単研究]	水田作	<H12-指-02>平成12年における水稻生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析 <H14-指-02>平成14年における水稻生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析 <H14-指-03>平成14年7月の台風6号による水稻冠水被害の解析(1)被害時の気象と冠水の状況 <H14-指-04>平成14年7月の台風6号による水稻冠水被害の解析(2)冠水被害によって発生した葉枯れの要因 <H14-指-05>平成14年7月の台風6号による水稻冠水被害の解析(3)冠水が収量・品質に及ぼす影響 <H15-指-01>平成15年における水稻生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析 <H15-指-02>平成15年異常気象下の障害不稔発生の解析(早生品種) <H15-指-03>平成15年異常気象下の障害不稔発生の解析(中・晩生品種) <H15-指-05>平成15年度異常気象下の水管理の実態と深水管理の効果 <H15-指-06>平成15年異常気象下の「ひとめぼれ」、「あきたこまち」の玄米品質と刈取時期 <H15-指-07>平成15年異常気象下の「かけはし」、「いわてっこ」の玄米品質と刈取時期 <H16-指-02>平成16年における水稻生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析 <H17-指-02>平成17年における水稻生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析	水田作 水田作 水田作 水田作 水田作 水田作 水田作 水田作 水田作 水田作 水田作 水田作					
			A-4-2-2	71	(51) 土壌・施肥管理と水稻の生育反応[S34~H13/(県単研究)]	水田作	<H13-指-06>平成13年における水稻生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析	水田作				
				72	(52) 低温年における障害不稔発生のモデル化[H01~H11/県単研究]	水田作						
				73	(55) 登熟診断技術の確立[H10~H13/(県単研究)]	水田作	<H13-普-03>「ひとめぼれ」における自然乾燥と機械乾燥の刈り取り適期の違い	水田作				
				74	(802) 籾の加水率に着目した水稻の刈り取り適期診断技術の開発[H14~H16 H15/県単研究]	水田作	<H15-研-02>水稻初熟度別の加水率と光学特性	水田作				
				75	(H16-07) いわて純青米品質・食味向上栄養診断技術の確立[H16~H18/県単研究]	水田作	<H17-研-03>水稻登熟初期の葉色値から玄米加水率を推定	水田作				
			(A-5) 特殊用途米の安定生産技術の確立	A-5-1-1	76	(57) 水稻糯有望新系統の栽培特性[H10~H13/県単研究]	水田作	<H13-普-01>品種別「丸中生もち水稻餅加工適性に優れた「岩南糯19号」	水田作			
					77	(56) 「岩南糯14号」「岩南糯19号」の栽培特性[H10~H12/県単研究]	銘柄米開発					
				A-5-3-2	78	(740) 寒冷地北部における飼料イネ生産給与体系の確立[H13~H17/国庫委託]	水田作	<H13-指-07>ホルホップ サルージ 用イネ栽培における刈取時期の判断指標 <H15-指-46>イネ-ルホップ サルージ の栄養特性 <H16-普-27>ホルホップ サルージ 用イネ栽培における地耐力確保法と収穫体系別の特徴 <H16-指-51>イネ-ルホップ サルージ 調製における添加剤の利用技術 <H17-研-02>堆肥多投連用田における水稻湛水直播栽培の出芽苗立ち	水田作 飼料生産 水田作 飼料生産 水田作			
			(A-6) 水稻優良種子生産技術の確立	A-6-0-0	79	(62) 水稻原種生産[S29~H22/県単採種]	水田作	<H12-指-01>水稻育苗において出芽抑制を引き起こす浸種条件 <H16-指-10>水稻種子生産で実施した林リン酸耐性もみ枯細菌病対策とその効果 <H16-指-11>比重選別機による水稻種子の精選精度向上技術(追補: 塩水選の省略)	水田作 病理昆虫 病理昆虫			
					(B) 畑作物	(B-1) 需要に対応する高品質畑作物品種・系統の選抜	B-1-1-1	80	(80) 麦類の奨励品種決定調査[S29~H18 H13/(県単採種)]	野菜畑作	<H11-行-05>小麦有望系統「東北206号」の生育特性 <H12-普-05>品種小麦製めん適性に優れた「東北206号」	野菜畑作 野菜畑作

研究分野	重点目標	中課題 コード	小課題 (連番)	課題名(小課題のみ) (H11~H17)	小課題 主査研究室	成果名 (H11~H17)	成果 主査研究室
						<H13-研-01>小麦の春播き栽培における一次加工特性	野菜畑作
			81	(888){post80}麦類の奨励品種決定調査[S29/H14~H17 H18/県単採種]	野菜畑作	<H14-普-09>品種小麦製めん適性が高く耐病性に優れる「ゆきちから」 <H14-普-10>品種大麦精麦品質が優れ早生・良質の「アール・スル」	野菜畑作 野菜畑作
			82	(81)大豆の奨励品種決定調査[S29~H18 H13/(県単採種)]	野菜畑作	<H13-普-07>品種大豆緑色の濃い豆腐向け特産大豆「東北141号」	野菜畑作
			83	(875){post81}大豆の奨励品種決定調査[S29/H14~H17 H18/県単採種]	野菜畑作	<H15-指-21>青だいで「青丸くん」の緑色を損なわないロバイン収穫適期 <H15-研-09>極早生だいで「コホシ」の県南部における生育特性 <H16-普-08>品種味噌、納豆、煮豆向けの極早生大豆「コホシ」 <H17-指-16>豆腐向け白目大豆品種「リウホウ」の特性 <H17-指-17>大豆品種「リウホウ」の栽培法	野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作
			84	(82)普通作物等の多収良質品種の育成[S56~H15/-]	やませ利用	<H11-行-05>小麦有望系統「東北206号」の生育特性 <H13-指-17>雑穀類(ひえ・あわ・きび・アヲノカ)の種子貯蔵年限 <H15-普-10>東北地域における「ガクカ」の栽培法	野菜畑作 やませ利用 やませ利用
		B-1-1-2	85	(83)新形質品種の特性を活かした高位安定栽培技術の確立[H11~H13/(国庫委託)]	野菜畑作	<H12-普-05>品種小麦製めん適性に優れる「東北206号」 <H13-普-08>小麦新品種「礼」の期待生育量と栽培法	野菜畑作 野菜畑作
			86	(84)ハトムギ優良品種の選定[H11~H15/令達]	野菜畑作	<H15-普-11>品種はとむぎ「東北3号」	野菜畑作
			87	(H14-04)アマランサスの品種特性評価技術確立[H14~H15/国庫委託]	やませ利用		
			88	(858)高製パン適性小麦品種「ゆきちから」(東北214号)の高品質・安定多収栽培技術[H14~H17/国庫委託]	野菜畑作	<H16-普-06>小麦品種「ゆきちから」の目標生育量と栽培法 <H17-指-12>小麦品種「ゆきちから」の収穫適期 <H17-指-13>小麦穂水分による「ケブコダシ」「ゆきちから」の子実水分推定法	野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作
			89	(863)市場性を考慮した雑穀優良系統の選抜[H14~H16 H15/県単研究]	やませ利用		
			90	(H16-40)いわてオリジナル雑穀品種の開発と生産技術の確立[H16~H21/令達]	やませ利用	<H16-普-09>冷めてもおいしい在来ひえ系統「もじゃっぺ」 <H16-研-07>工の冬期世代促進法 <H17-指-20>水田栽培用「達磨」の本田無化学肥料栽培 <H17-研-08>工の冬期世代促進における出穂特性と適正播種密度の品種間差異 <H17-研-09>黄色アガを利用したアにおけるアノカ防除	やませ利用 水稲育種 やませ利用 水稲育種 営農技術
		B-1-2-1	91	(85)麦類耐寒雪性特性検定試験[S29~H18 H13/(国庫委託)]	野菜畑作	<H13-研-01>小麦の春播き栽培における一次加工特性	野菜畑作
			92	(889){post85}麦類耐寒雪性特性検定試験[S29/H14~H22/国庫委託]	野菜畑作		
			93	(86)大豆立枯性病害抵抗性検定試験[S62~H18 H13/(国庫委託)]	病理昆虫		
			94	(87)ばれいしょウイルス病抵抗性検定試験[S28~H18 H13/(国庫委託)]	病理昆虫		
			95	(834){post87}ばれいしょウイルス病抵抗性検定試験[S28/H14~H18 H14/(国庫委託)]	野菜畑作		
			96	(88)ばれいしょ系統適応性検定試験[S47~H18 H13/(国庫委託)]	野菜畑作		
			97	(835){post88}ばれいしょ系統適応性検定試験[S47/H14~H22/国庫委託]	野菜畑作		
			98	(89)あずき系統適応性検定試験[S40~H18 H13/(国庫委託)]	野菜畑作		
			99	(819){post89}あずき系統適応性検定試験[S40/H14~H22/国庫委託]	野菜畑作		
			100	(90)大豆系統適応性検定試験[S45~H18 H13/(国庫委託)]	野菜畑作		
			101	(876){post90}大豆系統適応性検定試験[S45/H14~H18 H14/(国庫委託)]	やませ利用		
			102	(91)主産国に負けない高い製パン・製めん特性を持った小麦品種の選定と評価[H07~H13/(令達)]	野菜畑作		

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11~H17)	小課題主査研究室	成果名(H11~H17)	成果主査研究室
	(B-2)高品質畑作物の省力・低コスト生産技術の確立	B-2-1-1	103	(877)大豆立枯性病害抵抗性検定試験[H14~H22/国庫委託]	野菜畑作		
			104	(92)大規模機械化栽培に適したダイズ新品種の選定及び栽培実証[H07~H13/(令達)]	野菜畑作		
			105	(95)革新的農業技術・経営実証[H07~H12/令達]	営農技術		
			106	(94)たばこ作低コスト超省力機械化体系現地実証[H10~H12/令達]	やませ利用		
			107	(93)革新的農業技術・経営実証[H11~H13/(令達)]	やませ利用		
		B-2-1-2	108	(96)不耕起・無中耕・無培土栽培を基幹とした大豆の超省力安定栽培技術[H11~H15/-]	野菜畑作	<H13-指-14>大豆不耕起栽培における生育・収量及び栽培特性 <H13-指-15>大豆の晩播密植・狭畦栽培技術 <H14-普-08>だいち不耕起播種機の作業特性 <H15-普-09>だいち不耕起栽培技術と作付体系への導入法 <H15-指-19>大豆不耕起栽培技術の生産性と導入条件	野菜畑作 野菜畑作 生産工学 野菜畑作 農業経営
		B-2-1-3	109	(97)小麦の冬期播種栽培技術の確立[H13~H15/県単研究]	野菜畑作	<H11-指-20>醸造用二条大麦の春まき栽培における品種適応性 <H11-研-08>小麦の春播き栽培における品種特性 <H12-研-04>春化处理した秋播き性小麦の生育反応 <H13-指-16>小麦の冬期播種栽培技術 <H15-普-08>小麦冬期播種栽培技術体系	野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作
			110	(H16-11)冬期播種による小麦の高品質・持続的安定生産技術の確立[H16~H18/県単研究]	野菜畑作	<H16-普-07>冬期播種栽培によりコムギ 萎縮病の発生を抑制できる <H17-研-07>小麦冬期播種栽培の限界播種期	野菜畑作 野菜畑作
		B-2-2-3	111	(H15-36)葉たばこ用新資材の実用化[H15~H17 H16/民間委託]	やませ利用		
		(B-3)自然生態系と調和した持続的安定生産技術の確立	B-3-1-1	112	(866){post99}新資材の実用化[H12/H14~H14/(民間委託)]	やませ利用	
	B-3-2-1		113	(100)畑作物の生育相及び気象反応の解明[S49~H18 H13/(県単研究)]	野菜畑作	<H12-研-05>県南部における平成12年産大豆の子実小粒化要因	野菜畑作
			114	(890){post100}畑作物の生育相及び気象反応の解明[S49/H14~H22/県単研究]	野菜畑作	<H15-研-08>平成14年の異常気象におけるだいちの収穫遅延と品質変動	野菜畑作
			115	(101)気象と作物の生育相解析[S57~H13/(県単研究)]	やませ利用		
	B-3-3-1		116	(102)輪作作物の機械化栽培技術の確立[H09~H12/国庫助成]	野菜畑作	<H11-指-15>野菜畑における地力維持のための大豆の緑肥利用	野菜畑作
	B-3-3-2		117	(481)北上山系地域における新規導入作物を組み入れた高品質機械化輪作技術の実証[H07~H11/国庫助成]	農業経営	<H11-普-13>品種「アラガス」関東2号 <H11-指-19>アラガス、靴、アを組み入れた普通畑作物の大型機械化体系 <H11-指-35>アラガスに発生する害虫と防除対策	やませ利用 営農技術 営農技術
	B-3-3-3		118	(753)大規模普通畑作経営体の育成と地域農業に及ぼす効果[H13~H15 H14/(県単研究)]	営農技術		
	B-3-4-1		119	(104)農地開発地における持続型高収益野菜モデル経営の実証 畑地かんがいを活用した普代農業の組立 [H10~H11/県単研究]	やませ利用		
	(B-4)水田転作物の安定生産技術の確立	B-4-1-2	120	(727)水田大豆の加工適性向上のための高品質安定化技術[H13~H15 H14/(国庫委託)]	野菜畑作		
			121	(H15-42)水田大豆における高品質安定化に向けた施肥技術の確立[H15~H16 H15/民間委託]	野菜畑作	<H16-指-15>大豆品種「双加」の子実クバク含量向上要因	野菜畑作
		B-4-2-1	122	(739)寒冷地における立毛間播種機利用による麦・大豆輪作栽培技術の開発[H13~H17 H16/-]	生産工学	<H15-指-20>立毛間播種栽培により大豆・小麦の2年3作ができる <H15-研-10>畑地帯における大豆・小麦立毛間播種栽培の雑草管理技術	生産工学 営農技術

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11~H17)	小課題主査研究室	成果名(H11~H17)	成果主査研究室			
						<H16-指-13>県中南部水田地帯における大豆・小麦立毛間播種栽培2年3作の技術体系	生産工学			
						<H16-指-14>県北地域における大豆・小麦立毛間播種2年3作栽培技術	営農技術			
						<H16-研-06>立毛間播種により大豆・小麦3年5作栽培をする際の雑草管理の要点	野菜畑作			
						<H16-普-08>品種味噌、納豆、煮豆向けの極早生大豆「沖杵し」	野菜畑作			
						<H17-指-15>除草剤「ナカノ」液剤に対する県内大豆品種の反応特性	野菜畑作			
(B-5)畑作物原種生産等	B-5-0-0		124	(105)畑作物原種および原種生産[S29~H13/県単採種]	野菜畑作					
			125	(891){post105}畑作物原種・原種生産[S29/H14~H22/県単採種]	野菜畑作					
(C)果樹	(C-1)国際競争力のあるりんご等の省力・低コスト・安定生産技術の確立	C-1-1-1	126	(120)新しい性台木利用によるショートサイクル技術の確立[H06~H11/県単研究]	果樹	<H11-指-11>りんごわい化栽培における計画密植栽培の評価	果樹			
			127	(121)21世紀のりんごわい化栽培を担うJM台木の利用技術の開発[H11~H15/国庫助成]	果樹	<H12-普-08>りんごの新しい性台木「JM1」、「JM7」の耐水性 <H13-普-11>品種りんごわい性台木「JM1」 <H13-普-12>りんご新しい性台木「JM1」、「JM7」の利用法 <H13-指-19>りんご「きおう」の樹勢安定による裂果軽減 <H13-指-22>西洋なし「ラ・フランス」の単為結果性と果実肥大 <H14-普-13>りんごわい性台木「JM1」、「JM7」の挿し木繁殖安定技術 <H14-普-14>「JM1」、「JM7」台木の接ぎ木挿しによるりんごわい性苗木の短期育成法 <H15-普-14>りんご新しい性台木「JM1」、「JM7」の利用法(追補)-改植園地における「JM7」の特性- <H15-普-15>りんご台木の挿し木における発根促進剤(インドール酢酸液剤)の利用法 <H15-研-11>りんごわい性台木「JM7」利用時の密植栽培の評価 <H17-普-05>りんご園の早期成園化のためのポット養成苗による大苗移植栽培法(追補)-JM系台木と不織布ポットの利用-	果樹 果樹 果樹 果樹 果樹 果樹 果樹 果樹 果樹 果樹			
			128	(839)りんご新しい性台木の特性解明(旧題:りんご新しい性台木「青台3」の特性解明)[H14~H22/県単研究]	果樹	<H17-研-11>JM7利用樹における樹勢衰弱の発生状況調査	果樹			
			129	(H15-09)おうとう新台木の検索と実用化[H15~H19 H15/県単研究]	果樹					
			130	(H17-09)りんごの樹形改善による薬剤散布低減技術の開発[H17~H21/県単研究]	果樹					
			C-1-1-3	131	(122)転作田を活用したぶどう新品種導入による高品質・安定生産・省力栽培法の確立実証[H10~H12/県単研究]	果樹	<H12-普-09>ぶどう「安芸クイーン」及び「ノールッド」の花振るい防止法-メコトコリド液剤による花振るい防止- <H12-指-12>ぶどう「紅伊豆」の垣根仕立てにおける台木利用法	果樹 果樹		
				132	(123)西洋なしのわい化栽培による省力・低コスト栽培技術の確立[H11~H13/(県単研究)]	果樹				
				133	(708)山ぶどう結実安定技術の確立[H13~H22 H17/県単研究]	果樹	<H17-研-12>マブドウにおける人工授粉が結実に与える影響	果樹		
				134	(709)ぶどう短梢栽培用平棚を利用した大粒種の栽培法の検討[H13~H17 H22/県単研究]	果樹				
				135	(H16-09)クラブアップル等りんご受粉専用品種の選抜と利用法の確立[H16~H22/県単研究]	果樹				
			C-1-1-4	136	(124)果樹園管理の省力機械化栽培法の確立[H11~H13/(民間委託)]	果樹	<H13-研-05>果樹園用局所施肥機(試作機)の機能と特徴	果樹		
			C-1-2-1	137					<H11-普-06>平成12年度雑草防除基準に採用した果樹除草剤	果樹
									<H11-指-09>りんご「ふじ」に対する摘葉剤の効果 <H12-普-06>平成13年度雑草防除基準に採用した果樹除草剤	果樹 果樹

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11~H17)	小課題主査研究室	成果名(H11~H17)	成果主査研究室
						<H13-普-10>平成14年度雑草防除基準に採用した果樹除草剤	果樹
			138	(829)キャンベル・紅伊豆にかわる耐寒性大衆嗜好品種の育成及び選抜[H14~H22/-]	果樹	<H16-普-19>品種ぶどう食味良好な紫赤系品種「サールジ」	果樹
			139	(850)畑作物に対する植調剤等の利用法[H14~H22/民間委託]	果樹	<H14-研-15>成長調節剤を用いた西洋なし「ラ・フランス」の樹上追熟効果の検討 <H15-指-24>りんご「きおう」に対するジ・クルップ液剤の落果防止効果(追補)	果樹 果樹
						<H17-普-08>平成18年度雑草防除基準に採用した果樹除草剤	果樹
			140	(894)良品質・高品質生産を目的としたウイルスフリー樹の作出[H14~H22/令達]	果樹		
		C-1-2-2	141	(126)ぶどうその他果樹に対する植調剤[H01~H12/国庫助成]	果樹	<H12-指-11>ぶどう「安芸クーン」の栽培法-適性樹相と着果量-	果樹
			142	(127)新品種等の安定生産技術の確立[H05~H13/(県単研究)]	果樹	<H11-普-07>りんご「きおう」に対するジ・クルップ液剤の落果防止効果 <H11-指-29>平成11年の夏期高温が農作物に及ぼした影響 <H12-普-07>りんご「きおう」の表面色カチヤートによる収穫適期判断(追補) <H13-指-20>りんご「きおう」の収穫後の表面色の変化	果樹 水田作 果樹 果樹
	(C-2)需要拡大を目指した高品質果実生産技術の開発	C-2-1-1	143	(129)果樹の生育と果実品質の変動要因の解明[H09~H13/(県単研究)]	果樹		
			144	(128)需要拡大のための省力的食味本位りんごの生産・流通技術の確立[H12~H16/-]	果樹	<H11-普-08>簡易な受粉機械による人工受粉の効率化 <H11-指-10>近赤外線利用によるりんご「ふじ」の蜜入りの非破壊判定法 <H14-指-14>葉取らずりんごの流通段階別評価 <H14-指-15>りんごにおける携帯型非破壊品質評価装置の利用法 <H14-研-13>有機酸を対象としたりんごの新摘花剤検索 <H15-指-25>「葉とらずりんご」の樹相診断 <H15-研-12>非破壊選果機利用による「葉とらずりんご」の着色評価 <H16-普-10>「葉とらずりんご」の樹体構成法 <H16-普-11>「葉とらずりんご」の着色管理における玉回し作業の省力効果 <H16-普-14>りんごの新規摘花剤「キ酸加シム水溶剤」 <H16-普-15>りんご「ふじ」に対する新規摘葉剤(キ/カリ系・MEP水和剤) <H16-指-17>「葉取らずふじ」の販売方策 <H16-指-19>冷温高湿貯蔵により蜜入りりんごは2か月間の貯蔵が可能となる <H16-研-09>「葉とらずりんご」における非破壊選果機利用技術	果樹 果樹 農業経営 果樹 果樹 果樹 果樹 果樹 果樹 果樹 農業経営 果樹 果樹
			145	(851)果樹の生育と果実品質変動要因の解明[H14~H22/県単研究]	果樹		
			146	(H15-38)新品種などの安定生産技術の確立[H15~H22/県単研究]	果樹	<H15-指-23>りんご新品種「黄香」の斑点落葉病及び黒星病に対する抵抗性の評価 <H16-普-13>りんご「黄香」の交雑和合性	果樹 果樹
		C-2-1-2	147	(130)新資材、肥料等の実用化試験[H01~H12/民間委託]	果樹		
			148	(H15-14)画像解析によるりんごの生育栄養診断基準の策定[H15~H16/国庫助成]	土壌作物栄養	<H16-指-18>繁茂指数によってわい性台りんご樹の栄養状態が推定できる	土壌作物栄養
			149	(H16-10)果樹園におけるりんご剪定枝等利用技術の確立[H16~H22/県単研究]	果樹		
		C-2-3-2	150	(535)岩手型低コスト貯蔵施設の開発[H12~H12/令達]	保鮮流通技術	<H13-研-10>氷雪を活用した簡易高湿予冷庫の開発【当面非公開】 <H14-指-38>氷雪と真空断熱材を利用した利雪型簡易高湿予冷庫の開発	保鮮流通技術 保鮮流通技術

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11~H17)	小課題主査研究室	成果名(H11~H17)	成果主査研究室			
(C-3)オリジナル果樹品種を効率的に開発するための新育種法の確立と新育種素材の開発	C-3-2-1	151	(131)果樹類の低樹高品種の育成等による省力・軽作業栽培技術の開発[H09~H16/国庫委託]	果樹	<H13-研-03>りんご「ふじ」のｽﾀｲﾌﾟ系統の特性	果樹				
					<H16-研-11>りんごのｽﾀｲﾌﾟにおける成長調整剤及び簡易的せん定手法を用いた栽培管理の省力効果	果樹				
	C-3-3-1	152	(132)先端技術応用による優良品種の開発育成[S57~H13/(令達)]	果樹						
	(C-4)オリジナル高品質果樹品種の開発	C-4-1-1	153	(133)ジョナゴールド、ふじ等に優る中・晩生種の開発[H01~H13/(令達)]	果樹	<H12-指-10>りんご「きたろう」の果実特性	果樹			
						<H13-研-04>りんご育成系統「岩手2-9号」の果実特性	果樹			
		154	(830)ジョナゴールド、ふじ等に優るりんご中・晩生種の開発[H14~H22/国庫委託]	果樹	<H14-普-12>品種りんご9月下旬に成熟する省力的な黄色品種「岩手6号」	果樹				
					<H14-研-12>りんご育成系統「岩手10号」の果実特性	果樹				
					<H16-普-12>品種りんご食味濃厚な黄色品種「サゴール」	果樹				
		C-4-2-1	155	(134)キャンベル・紅伊豆にかわる耐寒性大衆嗜好品種の育成及び選抜[H04~H18 H13/(国庫委託)]	果樹	<H14-研-14>ぶどう育成系統「岩手2号」、「岩手3号」の果実特性	果樹			
						C-4-3-1	156	(135)ラ・フランスに優る西洋なし品種の開発[H01~H18 H13/(令達)]	果樹	
		C-4-3-1	157	(837){post135}ラ・フランスに優る西洋なし品種の開発[H01/H14~H22/令達]	果樹	<H17-普-06>品種西洋なし食味良好な早生品種「オーロ」	果樹			
	C-4-4-1					158	(136)おうとう、もも等の優良品種の選抜[H01~H18 H13/(令達)]	果樹	<H12-行-10>加工用もも「もちづき」の果実特性	果樹
	159	(826){post136}おうとう、もも等の優良品種の選抜[H01/H14~H22/令達]	果樹	<H17-普-07>品種おうとう豊産性で食味良好な品種「紅秀峰」	果樹					
	(D)野菜	(D-1)省力・軽労化・低コスト生産技術の確立	D-1-0-0	160	(H17-39)高品質・高付加価値トマトの生産供給技術確立[H17~H19/令達]	野菜畑作				
			D-1-1-1	161	(150)園芸作物におけるセル成型苗等の機械化生産技術の開発[H09~H13/(県単研究)]	野菜畑作	<H13-指-24>きゅうり定植用成型苗の緊急時短期貯蔵技術	野菜畑作		
<H13-研-06>きゅうり接ぎ木における苗貯蔵による穂木・台木の生育調整技術							野菜畑作			
162							(747)いちご栽培における省力技術の導入による高度生産化[H13~H15/県単研究]	南部園芸		
163							(878)短日処理によるいちご促成栽培適応品種の選抜[H14~H16/県単研究]	南部園芸	<H17-指-28>いちご促成及び促成前進型に適應する品種「とちおとめ」「章姫」の特性	南部園芸
164							(H17-12)イチゴ促成栽培における省力的短日処理技術の開発、実証[H17~H19/県単研究]	南部園芸		
D-1-1-2			165	(151)園芸作物の経営基盤を強固にする省力・低コスト生産技術の開発[H09~H13/(県単研究)]	野菜畑作	<H11-指-13>雨よけトマトの畑苗直接定植における仕立法	野菜畑作			
<H11-研-06>雨よけトマトの畑苗直接定植における生育特性						野菜畑作				
166			(155)加工部門との連携によるだいこん産地の経営改善実証[H09~H12/県単研究]	保鮮流通技術	<H12-指-18>雨よけトマトの低段密植による不耕起連続栽培法	南部園芸				
					<H13-指-26>雨よけトマトの畑苗直接定植における障害果軽減及び収穫期拡大技術	野菜畑作				
					<H13-研-07>畑苗利用を前提とした雨よけトマトの立毛間定植による2作どり栽培	野菜畑作				
167			(154)野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模栽培技術[H09~H13/(国庫助成)]	営農技術	<H11-普-05>キャベツ栽培における乗用型野菜移植機の作業特性	生産工学				
	<H11-指-08>キャベツ及びはくさい栽培におけるフェンボ苗全自動移植機の作業特性	生産工学								
	<H11-指-18>キャベツの種子重量が生育に与える影響	産地育成								
	<H12-指-15>だいこん収穫機の作業特性及び導入基準	生産工学								
	<H12-指-24>だいこんの同時収穫機の作業特性	営農技術								

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11～H17)	小課題主査研究室	成果名(H11～H17)	成果主査研究室
						<H13-普-16>キャベツ刈種運搬車の作業特性と導入基準 <H13-普-17>キャベツの子葉奇形苗の選別除去と差し替えの効果 <H13-指-30>前後作にエパク(ハイト)を導入したキャベツダインの刈種作技術の現地実証 <H13-指-31>ダイン・キャベツ作における機械化体系の省力効果 <H14-研-24>肥効調節型肥料を用いたキャベツの全量基肥畦内局所施肥技術	生産工学 産地育成 産地育成 農業経営 営農技術
			168	(152)沿岸中山間地における園芸省力安定生産モデル経営の実証[H10～H12/県単研究]	南部園芸		
			169	(153)加工部門との連携によるだいこん産地の経営改善実証[H10～H12/県単研究]	南部園芸		
			170	(348)露地野菜・花き等の土壌管理技術の確立[H10～H14/令達]	土壌作物栄養	<H12-指-30>採花年早生りんどうに対する石灰資材施用効果	土壌作物栄養
			171	(563)野菜・花き等機械化技術の開発[H10～H12/国庫助成]	営農技術	<H12-指-23>ほうれんそう調製機の作業特性と省力効果	営農技術
			172	(711)いちご低温カット栽培における高設栽培技術の確立[H13～H15/県単研究]	南部園芸		
			173	(849)果菜類における低コスト・安定生産のための新露地栽培体系の確立[H14～H16/県単研究]	野菜畑作	<H16-指-23>きゅうり露地普通栽培におけるかん注追肥による草勢維持効果 <H16-研-14>トマト簡易雨よけ栽培における局所施肥栽培の特徴	野菜畑作 野菜畑作
			174	(853)寒冷地における夏秋イチゴの低コスト生産・安定供給技術の確立[H14～H16/県単研究]	野菜畑作	<H15-研-17>いちご夏どり栽培における種子系四季成り性品種「F1イラ」の栽培特性	野菜畑作
			175	(H15-01)果菜作専作経営育成のための省力技術の経営実証[H15～H17/-]	農業経営	<H17-指-23>雇用労力活用によるわが作経営の展開方向	農業経営
			176	(H15-10)果菜類の低コスト灌水施肥栽培技術の確立[H15～H17/-]	野菜畑作	<H16-研-13>夏秋トマトにおけるバツブ水耕栽培の適応性 <H17-指-24>無加温ハウスきゅうりの点滴灌水施肥栽培における窒素施用量	野菜畑作 野菜畑作
			177	(H16-14)イチゴの低コスト、環境保全型高設栽培技術の確立[H16～H18/県単研究]	南部園芸	<H17-指-27>肥効調節型肥料を利用した促成いちごの低コスト高設栽培	南部園芸
		D-1-1-3	178	(156)大規模野菜経営に対応した新作業栽培技術の開発[H09～H15/-]	南部園芸	<H11-指-14>カベーマンの品種別特性 <H12-指-16>生食用中玉トマトの品種特性	野菜畑作 野菜畑作
			179	(738)雨よけほうれんそうの大型経営確立による産地拡大[H13～H15/県単研究]	野菜畑作		
			180	(712)トマト養液栽培による周年栽培技術の確立・実証[H13～H15/県単研究]	南部園芸	<H16-指-27>ダツファイト型ガラス温室導入事例の特徴と問題点 <H16-指-28>ダツファイト型ガラス温室におけるトマト養液栽培の地域適応性	南部園芸 南部園芸
			181	(748)東磐井地方における園芸省力安定生産モデル経営の実証[H13～H15/県単研究]	南部園芸		
			182	(816)ネギの産地力強化のための低コスト・長期安定供給技術の確立[H14～H16/-]	野菜畑作	<H14-研-23>県中南部におけるねぎ主要害虫の発生消長と防除対策 <H15-指-32>全自動刈穫機と根葉切り皮むき機利用によるねぎの収穫・調製省力化 <H15-指-33>ねぎの7月穫り作型におけるフェンボット育苗の適応性 <H15-研-19>ねぎの品種特性と適応作型 <H15-研-20>ねぎの予冷・保蔵・流通上の留意点 <H16-指-30>通いコンテナの活用によるねぎの流通改善方策と効果	病理昆虫 生産工学 野菜畑作 野菜畑作 保鮮流通技術 農業経営
			183	(H16-13)高規格施設におけるトマト養液周年栽培技術の確立・実証[H16～H18/県単研究]	南部園芸	<H16-指-27>ダツファイト型ガラス温室導入事例の特徴と問題点 <H16-指-28>ダツファイト型ガラス温室におけるトマト養液栽培の地域適応性	南部園芸 南部園芸
		D-1-1-4	184	(158)稲作地帯における園芸省力安定生産モデル経営の実証[H10～H12/県単研究]	野菜畑作	<H12-普-12>品種きゅうり耐病性・多収性の「夏ばやし」	野菜畑作
			185	(157)園芸作物における養液土耕等の施設に対応した生産技術[H11～H15/県単研究]	野菜畑作	<H14-普-16>雨よけトマトの点滴灌水施肥栽培における施肥量低減 <H14-指-20>いちごの高設栽培における栽培槽の大きさと栽培距離 <H15-普-19>品種大果率がよく良質のいちご促成品種「さちのか」	野菜畑作 南部園芸 南部園芸

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11~H17)	小課題主査研究室	成果名(H11~H17)	成果主査研究室
(D-2)高品質で安全な野菜の安定生産技術の確立		D-1-2-3	186	(H15-37) (夏秋期生産を目指したイチゴの)超促成・越年株型経営モデル作成[H15~H19/国庫委託]	農業経営	<H17-指-27>肥効調節型肥料を利用した促成いちごの低コスト高設栽培 <H16-研-15>いちごの超促成作型における課題と目標収量	南部園芸 農業経営
			187	(159)新肥料の肥効試験[H09~H16 H13/(民間委託)]	野菜畑作	<H13-指-26>雨よけトマトの幼苗直接定植における障害果軽減及び収穫期拡大技術	野菜畑作
			188	(160)新肥料の肥効検定他[H09~H15 H13/(民間委託)]	南部園芸		
			189	(161)新肥料の肥効試験[H11~H16 H13/(民間委託)]	野菜畑作		
			190	(871)新肥料の肥効試験[H14~H16 H15/民間委託]	野菜畑作		
			191	(H15-41)除草剤等実用化試験[H15~H16/民間委託]	野菜畑作		
		D-2-1-1	192	(163)ニューなばな「はるの輝」の前進作型の開発[H07~H14/(令達)]	野菜畑作	<H11-指-16>なばな「はるの輝」の簡易低温処理法	南部園芸
			193	(164)地域適応性に優れた品種の選定[H09~H16 H13/(県単研究)]	産地育成	<H11-普-11>品種イトコソ「味来390」	産地育成
						<H11-指-17>春まきダイコン品種の播種早限の推定	産地育成
						<H12-普-18>品種だいこん6月播種に適し高品質な「貴宮」	産地育成
						<H13-普-15>品種ほうれんそう春播き・秋播き栽培に適する「イトコソ」	産地育成
						<H13-指-29>キャベツ品種「夏さやか」の県南部における導入作期	野菜畑作
			194	(880){post164}地域適応性に優れた品種の選定[H09/H14~H16/-]	産地育成	<H14-普-21>収量が多く春・初夏播きに適するほうれんそう品種「リウ」	産地育成
						<H15-普-21>極晩抽性で萎ちょう病に強い6~7月播きほうれんそう品種「晩抽銀河21」	産地育成
						<H15-普-23>5月播種に適し品質の良いだいこん品種「R桜坂」	産地育成
			195	(162)市場性の高い岩手銘柄えだまめ品種の育成[H10~H12/令達]	野菜畑作	<H11-普-09>品種えだまめ「滝系C8」	野菜畑作
						<H11-普-10>品種えだまめ「滝系C11」	野菜畑作
						<H12-普-13>食味えだまめ品種「滝系C8」の長期継続出荷技術	野菜畑作
						<H13-研-11>さといも組織培養由来株および芋の特性(1年目培養苗定植)	応用生物学
			196	(744)水田を活用した持続的作付体系及び優良種苗の安定確保によるサトイモ産地強化の実証[H13~H15/県単研究]	野菜畑作	<H15-研-21>さといも「培養苗」「培養いも」の特性とその経年推移	応用生物学
						<H15-研-22>さといも「培養苗」「培養いも(1年目)」の定植方法	応用生物学
<H15-研-24>さといも安定生産のための石灰窒素の施用効果	野菜畑作						
<H15-指-29>ピーマンPMMoV抵抗性品種「京鈴」「さらら」の特性と導入上の注意事項	野菜畑作						
<H16-指-24>きゅうり露地普通栽培用ブルムス台木の特性	野菜畑作						
<H16-指-25>きゅうり無加温ハウス栽培における果色と光沢の優れた品種の特性	野菜畑作						
197	(848)果菜類における新形質品種の特性評価と利用技術の確立[H14~H17/-]	野菜畑作	<H16-指-29>露地栽培に適するピーマンPMMoV抵抗性(L3)品種「みおぎ」の特性	野菜畑作			
			<H17-指-25>ピーマンPMMoV抵抗性(L3)品種「京ひかり」の特性と適応作型	野菜畑作			
			<H16-研-16>いちごの一季成り性品種を用いた夏どり栽培における苗養成技術	野菜畑作			
			<H17-指-26>いちご短日処理育苗による無加温ハウス秋春二期どり栽培	野菜畑作			
			<H17-指-31>寒締めほうれんそうの作期判定と生育調節技術	産地育成			
D-2-1-2	199	(165)野菜の優良栄養繁殖系品種の育成[H10~H15/令達]	野菜畑作	<H15-研-23>さといも在来種「二子いも」の系統別特性	野菜畑作		
D-2-1-3	200	(825)ウリ科作物中のダイオキシン類の吸収移行に及ぼす栽培管理方法等の影響解析[H14~H16 H14/(県単研究)]	環境保全				
	201	(H15-46)寒締め野菜の高品質化シナリオの策定と生産支援システムの開発[H15~H17/国庫委託]	産地育成				

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11~H17)	小課題主査研究室	成果名(H11~H17)	成果主査研究室		
			202	(H16-41)地域ブランド化のためのナガイモ栽培技術の確立[H16~H18 H17/県単研究]	営農技術				
			203	(H16-43)寒締めホウレンソウの高品質安定生産技術の確立[H16~H18 H16/令達]	産地育成				
			204	(H17-44){postH16-43-1000}寒締めホウレンソウ栄養成分評価法の確立[H16/H17~H18/令達]	保鮮流通技術				
		D-2-2-1		205	(509)交差抵抗性誘導菌の利用技術[H08~H12/県単研究]	環境保全	<H12-指-19>フェノール系菌苗移植栽培と非病原性バクテリア菌の組み合わせによるおくら萎凋病防除技術	環境保全	
				206	(828)カラシナによるほうれんそう萎凋病軽減技術の開発[H14~H17/県単研究]	産地育成			
		D-2-2-2		207	(166)キャベツの5~6月種り作型の確立[H10~H12/県単研究]	野菜畑作	<H11-普-12>キャベツの早春まき6月どり栽培技術 <H11-指-12>キャベツの5-6月どり越冬栽培技術	野菜畑作 野菜畑作	
				208	(167)稲作地帯における土地利用型水田営農システムの開発[H10~H12/県単研究]	野菜畑作			
				209	(168)転作田への高収益作物の導入促進のための野菜の栽培実証[H10~H12/県単研究]	野菜畑作			
				210	(169)大区画圃場整備地区における園芸・水稲複合型集落営農モデルの実証[H10~H12/県単研究]	野菜畑作	<H11-行-11>農業労働力推計フォーム <H12-指-17>ブレイブ冷蔵庫利用による種用さといもの安定貯蔵技術	農業経営 野菜畑作	
		(D-3)地域環境資源等を活用した特徴的野菜生産技術の確立		D-3-0-0	211	(H17-40)早期秋冷気象を活かしたアスパラガス促成栽培技術の確立[H17~H19/国庫委託]	野菜畑作		
				D-3-1-1	212	(170)藤崎地区における灌漑による野菜や花きを取り入れたモデル経営の実証[H10~H12/県単研究]	南部園芸		
				D-3-1-2	213	(171)北部沿岸農地開発地域における大規模野菜作経営の実証[H13~H15/県単研究]	やませ利用		
				D-3-2-2	214	(H15-33)高冷地レタスの高位安定生産技術の確立[H15~H19/県単研究]	産地育成	<H16-指-34>レタス腐敗性病害の発生実態と気象要因	営農技術
<H17-指-32>高冷地レタス夏秋どり作型用主要品種の特性	産地育成								
D-3-3-2	215			(541)栽培条件と農産物加工適性との関係の解明[H09~H12/令達]	保鮮流通技術	<H12-指-21>漬物用芭蕉菜の辛み成分含量の変動	保鮮流通技術		
		216	(173)調理用トマトの安定生産技術[H11~H13/(県単研究)]			産地育成	<H11-研-07>調理用トマトの品種と作型における収量の特徴 <H12-指-25>支柱栽培による調理用トマトの作業軽劣化技術	産地育成 産地育成	
(D-4)野菜原種生産等	D-4-0-0	217	(174)えだたまめ等オリジナル品種優良種苗の維持・増殖[H08~H22/令達]	野菜畑作	<H12-行-12>えだたまめ採種における安定生産技術	野菜畑作			
(E)花き	(E-1)花きオリジナル品種の開発	E-1-1-2	218	(884)突然変異等を利用した新形質りんどうの特性評価[H14~H21/県単研究]	花き	<H17-研-18>A4菌によりわい化させたりんどう「ボラ/ホワイト」の特性評価	花き		
			E-1-1-3	219	(190)地域遺伝資源の高度活用技術の開発[H09~H11/国庫助成]	花き	<H11-研-10>りんどう切り花用品種「ボラ/ブルー」の組織培養による苗条を利用した良質苗の生産技術 <H12-普-19>シベリヤ利用によるりんどうの株養成期間短縮技術	花き 花き	
		E-1-2-1	220	(840)りんどうF1品種の親株維持・増殖技術の確立[H14~H22/県単研究]	花き				
						E-1-2-2	221	(191)りんどうの品種育成[S49~H22/令達]	花き
		E-1-3-1	222	(192)スターチス類の品種育成[H11~H15/令達]	花き	<H15-研-29>スターチス/シアター育成系統の特性	花き		
						223	(831)スターチス有望育成系統の栽培管理技術の確立[H14~H18 H17/県単研究]	花き	<H16-普-25>品種淡紫「ソノスターチス」 <H17-指-43>スターチス/シアターにおける肥効調節型肥料の効果
		E-1-4-1	224	(194)ニュータイプ小ぎくの品種育成[H01~H18 H13/(令達)]	花き	<H12-普-20>品種夏秋ぎく系小ぎく「CM1」(黄色ブレイク)	花き		
						<H12-普-21>品種夏秋ぎく系小ぎく「CM3」(白色ブレイク)	花き		
						<H12-普-22>品種夏秋ぎく系小ぎく「CM7」(桃色ブレイク)	花き		

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11~H17)	小課題主査研究室	成果名(H11~H17)	成果主査研究室			
(E-2)気象条件を活用した新商材の開発及び新生産技術の確立		E-1-5-1	225	(832){post194}ニュータイプ小ぎくの品種育成[H01/H14~H22/令達]	花き	<H12-普-23>品種秋ぎく系小ぎく「CM8」(黄色ﾌﾞﾚｰ咲き)	花き			
						<H13-普-20>品種夏秋ぎく系小ぎく「CM6」(白桃色ﾌﾞﾚｰ咲き)	花き			
						<H14-普-22>品種夏秋ぎく系小ぎく「CM5」(黄色ﾌﾞﾚｰ咲き)	花き			
						<H14-普-23>品種秋ぎく系小ぎく「CM10」(白色ﾌﾞﾚｰ咲き)	花き			
						<H14-普-24>品種夏秋ぎく系小ぎく「CM12」(赤紫色ﾌﾞﾚｰ咲き)	花き			
						<H14-普-25>品種夏秋ぎく系小ぎく「CM15」(白色ﾌﾞﾚｰ咲き)	花き			
						<H15-普-26>品種夏秋ぎく系小ぎく「CM17」(橙色ﾌﾞﾚｰﾀｲﾌﾟ)	花き			
						<H15-普-27>品種夏秋ぎく系小ぎく「CM20」(赤色ﾌﾞﾚｰﾀｲﾌﾟ)	花き			
						<H16-普-23>品種夏秋ぎく系小ぎく「CM18」(白色ﾌﾞﾚｰﾀｲﾌﾟ)	花き			
						<H17-普-09>品種秋ぎく系小ぎく「CM21」(黄色ﾌﾞﾚｰﾀｲﾌﾟ)	花き			
		E-2-1-1	227	(H16-44)県北地域における小ぎく「アイマムシリーズ」の安定生産技術の確立[H16~H18/県単研究]	産地育成	<H17-普-09>品種秋ぎく系小ぎく「CM21」(黄色ﾌﾞﾚｰﾀｲﾌﾟ)	花き			
						<H17-普-10>品種秋ぎく系小ぎく「CM28」(赤紫色ﾌﾞﾚｰﾀｲﾌﾟ)	花き			
		E-2-1-3	229	(196)寒冷地における枝物花木類の栽培技術体系の確立[H12~H16 H15/国庫助成]	花き	<H15-指-38>枝物花木の寒冷地における栽培適応性	花き			
						<H15-指-39>枝物花木の仕立法(ｽﾃｰｸﾘｰ、ｼﾝｸﾞﾘｶｶﾞｽ)	花き			
		E-2-1-4	230	(H16-12)寒冷地に適した土地利用型枝物花木類の生産技術の確立[H16~H22/県単研究]	花き	<H15-研-28>ｼﾝｸﾞﾘｶｶﾞｽの当年枝利用挿し木苗生産	花き			
		E-2-1-5	231	(197)寒冷地型鉢花・花壇苗物生産技術の確立[H10~H14/(県単研究)]	花き					
						232	(845)りんどう切り花用品種の鉢物化技術の確立[H14~H16 H15/県単研究]	花き		
									233	(H15-12)寒冷地型鉢花・花壇苗物生産技術の確立[H15~H19/県単研究]
						234	(H15-34)花壇苗及び鉢花の高収益栽培技術の確立[H15~H17/県単研究]	産地育成		
		E-2-2-1	237	(200)寒冷地施設利用花き生産のスリ・シズン化に向けた、高品質安定生産技術の確立[H09~H11/国庫助成]	花き	<H11-研-12>ﾌﾞﾚｰﾃｲﾝｸﾞによるﾘﾝｸﾞ外系ゆりの品質向上技術-処理球における上根の発達と花芽の分化発達-	花き			
						<H12-指-27>ﾘﾝｸﾞ外系ゆりﾌﾞﾚｰﾃｲﾝｸﾞ 処理球の二度切り栽培特性 <H12-指-28>ﾄﾚｰｷｯﾌﾟの春出し作型における播種期	花き			
		E-2-2-1	238	(201)地帯別気象特性を生かした花き生産の長期化技術[H09~H13/(県単研究)]	産地育成	<H12-指-29>光反射ﾌﾙｰﾄﾞによるﾄﾚｰｷｯﾌﾟを以ての抑病効果	花き			
						239	(710)太陽光発電を利用した栽培技術の確立[H13~H17/県単研究]	南部園芸	<H17-研-33>南部沿岸地域における太陽光発電ｼｽﾃﾑの発電特性	南部園芸
		E-2-2-1	240	(820)アネモネの年内穫り作型における高品質栽培法の確立[H14~H16/県単研究]	南部園芸	<H17-研-22>ｱﾅﾓﾈ「F1 ｷﾗｷﾗ」の播種時期等が年内採花本数に及ぼす効果	南部園芸			
241	(H16-15)アネモネのコンテナ栽培技術の確立[H16~H18/県単研究]					南部園芸				

研究分野	重点目標	中課題 コード	小課題 (連番)	課題名(小課題のみ) (H11～H17)	小課題 主査研究室	成果名 (H11～H17)	成果 主査研究室			
(E-3)需要を拡大する多用途向け高品質花きの安定生産技術の確立			242	(H16-45)中山間地域における有望宿根草の高品質安定栽培法の確立[H16～H18 H16/県単研究]	産地育成	<H17-研-23>アラカミ・モリスの長期継続出荷技術	産地育成			
			243	(H17-13)スターチス・シヌアータの直まき等による品質向上技術の確立[H17～H21/県単研究]	南部園芸					
		E-2-2-2	244	(344)新肥料の実用化[H11～H14 H13/(民間委託)]	花き					
			245	(202)農薬、新資材等の実用化試験[H12～H13/(民間委託)]	花き					
		E-2-2-3	246	(203)施設の高度利用技術による花き周年生産技術[H09～H13/(県単研究)]	南部園芸	<H13-指-39>ラクパの抑制作型における短日処理の効果	南部園芸			
		E-2-2-5	247	(484)県北中山間地域における花き品目導入による農業経営の確立実証(一戸町小友地区)[H09～H14/(県単研究)]	産地育成	<H12-指-32>ガーデン用素材としての中輪系シクラメンの栽培法	産地育成			
						<H12-研-17>秋だしバジルの品種組み合わせによる作期拡大の可能性	産地育成			
		E-2-3-1	248	(204)沖繩系小ぎくの長期安定出荷技術[H11～H13/(令達)]	花き	<H11-指-22>沖繩系秋ぎくタイプ小ぎくの作型	花き			
						<H11-研-11>沖繩育成小ぎく「そよ風」の栽培特性	花き			
						<H13-研-14>沖繩系小ぎく「そよ風」に対するエリ処理効果	花き			
		E-2-3-2	249	(205)沖繩養成洋ラン鉢物の年内出荷体系の確立[H11～H13/(令達)]	花き					
		E-3-1-1	250	(208)りんどうの高品質安定生産技術の開発[H06～H13/(県単研究)]	花き	<H11-普-14>栄養系鉢物りんどうの品質向上のための挿し穂調整法	花き			
					251	(206)カジュアルフラワーの消費動向と流通販売方策[H11～H13/(県単研究)]	農業経営	<H12-研-11>花き小売店におけるフレーぎくの選好度	農業経営	
					252	(207)カジュアルフラワーの栽培安定化技術の確立[H12～H14 H13/(県単研究)]	花き			
					253	(844)りんどう栄養系品種の栽培技術の確立[H14～H16/県単研究]	花き	<H16-研-22>栄養系切り花りんどうの鉢物化技術	花き	
								<H16-研-23>鉢物りんどう「あおこりん」「ももこりん」の1年苗栽培技術	花き	
					254	(H15-15)りんどうの養分吸収特性の解明[H15～H17/国庫助成]	土壌作物栄養	<H17-指-39>りんどうの露地栽培における養分吸収の実態と窒素施肥法	土壌作物栄養	
					E-3-1-3	255	(344)新肥料の実用化[H11～H14 H13/(民間委託)]	花き		
								256	(822)アレンジメントアスターの高品質安定生産の確立[H14～H16/県単研究]	南部園芸
					E-3-1-4	257	(371)花き類の新奇病害虫の発生生態把握及び防除技術の開発[H09～H13 H12/県単研究]	病害虫	<H12-研-16>りんどうこぶ症の発生特徴	病害虫
									<H14-指-25>育苗中のりんどう苗を加害するカバノコバノコ類の防除対策	病理昆虫
					E-3-2-1	258	(841)りんどうこぶ症の発生実態と原因の解明[H14～H18/県単研究]	花き	<H16-指-38>りんどうこぶ症は栄養繁殖により伝達する	応用生物学
									<H16-研-20>りんどうこぶ症株茎部の組織学的特徴	応用生物学
			<H16-研-21>りんどうこぶ症株のこぶ組織内成分の解析	応用生物学						
			<H17-指-38>りんどうこぶ症は栄養繁殖により伝達する(追補)-挿し木繁殖によるりんどうこぶ症の伝達性-	花き						
		E-3-2-1	259	(210)主要切花品目の開花調節機能の解明[S58～H13/(県単研究)]	花き	<H13-指-35>鉢花りんどう「こりん」の鉢上げ直前の摘心による省力化	花き			
	<H13-研-16>鉢花りんどう「こりん」の親株加温時期等による開花調節技術				花き					
E-3-2-3	260	(843)りんどうの生育・生態調査[H14～H18 H22/県単研究]	花き							
			261	(212)きく類の長期出荷技術の開発[H09～H13/(県単研究)]	花き	<H11-指-21>ゆきぎくの不耕起による年2回出し作型	花き			
						<H13-研-15>夏秋ぎく系小ぎくの親株加温による作期の前進	花き			
262	(211)りんどうの高品質促成栽培技術の確立[H10～H14/(県単研究)]	花き								
263	(865)小ぎくの作期拡大技術の確立[H14～H22/県単研究]	花き	<H16-普-24>小ぎく「アイムリス」に対するI処理による開花調節効果	花き						

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11~H17)	小課題主査研究室	成果名(H11~H17)	成果主査研究室				
						<H16-指-39>小ぎく「アイムア-リー」及び「アイムモイ」の定植前摘心栽培技術	花き				
						<H17-研-21>小ぎく「アイム」シリーズに対する電照処理による開花調節効果	花き				
				264	(H15-11)りんどうの高品質促成栽培技術の確立/りんどうコンテナ栽培技術の確立 [H15~H19/県単研究]	花き					
				E-3-3-2	265	(533)MA包装資材等の利用による農産物の低コスト貯蔵・流通技術の開発 [H09~H12/県単研究]	保鮮流通技術	<H12-普-11>りんご早生品種「きおう」の高鮮度短期貯蔵技術	保鮮流通技術		
				E-4-1-1	266	(213)りんどうのセル成型育苗の管理指標の策定 [H07~H13/(県単研究)]	花き				
				E-5-1-1	267	(427)花き専作経営成立条件と経営方式 [H09~H11/県単研究]	農業経営	<H12-研-13>花き専作経営の取り組み品目と類型別経営実態	農業経営		
				E-6-0-0	268	(746)沿岸中山間地域における花き周年生産モデルの確立 [H13~H15/県単研究]	花き				
					269	(214)りんどう優良系統の維持増殖 [S49~H17 H22/令達]	花き				
							270	(H15-49)りんどう生産拡大緊急対策事業 [H15~H19/令達]	花き		
(F)酪農	(F-1)胚移植等先端技術を活用した高能力牛群の造成と能力を発揮させる飼養管理技術の開発	F-1-1-1	271	(230)高泌乳・高蛋白牛群に適応した飼養管理技術の確立 [H10~H16/県単研究]	家畜飼養	<H16-研-32>泌乳牛におけるリン・好中給与量の調整による飼料中CP含量の低減効果	家畜飼養				
			F-1-2-1	272	(721)発育効果及び生涯生産性を高める乳用雌育成牛の飼養管理技術の確立(旧題:集約放牧を組み入れた高能力牛の育成期飼養管理技術の確立) [H13~H17/県単研究]	家畜飼養	<H14-指-31>乳用育成牛(育成中期)の「レアルイグ」草地における集約放牧による発育効果 <H14-指-33>初乳および子牛血清中免疫グロブリン濃度の検討による初乳の必要給与量について <H17-普-11>発育効果および生涯生産性を高める乳用育成牛の集約放牧のソリューション	家畜飼養 家畜飼養 家畜飼養			
				F-1-2-2	273	(231)高能力牛群に適応した飼養管理技術の確立 [H04~H12/県単研究]	家畜飼養	<H12-普-25>乳牛の分娩前における飼料の段階的増量給与による周産期病予防	家畜飼養		
					274	(846)ロボット多回搾乳が乳用牛の繁殖機能に及ぼす影響の解明と繁殖管理技術の確立 [H14~H16 H15/県単研究]	家畜飼養	<H14-研-34>多回搾乳牛と「ラ」搾乳牛における分娩後の繁殖機能に関する「ラム」の比較結果 <H15-指-49>搾乳ロボットによる多回搾乳が生産性に及ぼす影響	家畜飼養 家畜飼養		
			F-1-2-3	275	(232)時間制限集約放牧を組み入れた高能力牛群飼養管理技術の確立 [H10~H14/(県単研究)]	家畜飼養	<H14-指-32>集約放牧を組み入れた飼養管理技術による高位乳生産ならびに周産期病予防	家畜飼養			
			F-2-1-2	276	(H15-32)通気性被覆シートによる堆肥化技術の確立 [H15~H16/県単研究]	飼料生産	<H15-行-11>土壌固着材を利用したシート利用簡易堆肥処理施設	飼料生産			
				F-2-2-1	277	(233)完全自動(ロボット)搾乳機等を応用した超省力管理技術の確立 [H09~H13/(県単研究)]	家畜飼養	<H16-指-54>シートを利用したたい肥化技術 <H11-指-42>搾乳ロボットの運用実績 <H12-指-37>酪農経営への搾乳ロボットの導入条件 <H13-普-22>自動搾乳システムによる省力管理技術と生産性	飼料生産 家畜飼養 農業経営 家畜飼養		
			F-2-2-2		278	(H15-30)哺乳ロボットを応用した省力管理技術の確立 [H15~H17/県単研究]	家畜飼養	<H16-指-48>自動哺乳装置を用いた乳用新生雌子牛の発育効果	家畜飼養		
			F-3-1-1		279	(879)地域資源活用による乳牛の生涯生産性向上に向けた飼養技術の確立 [H14~H18 H16/国庫助成]	飼料生産	<H15-指-50>乳用雌育成牛の集約放牧による発育効果	家畜飼養		
				(F-2)低コスト・省力な管理施設の開発と利用技術の確立							
	(F-3)自然環境(生態系)と調和した飼養管理技術の確立と乳牛への強健性付与										

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ) (H11~H17)	小課題 主査研究室	成果名 (H11~H17)	成果 主査研究室			
		F-3-2-1	280	(H16-31) 乳牛の泌乳効率を向上させるためのストレス緩和・管理技術の確立 [H16~H18/県単研究]	家畜飼養	<H15-研-35> スダングラスを用いた TMR 給与が産乳成績に及ぼす影響	家畜飼養			
						<H16-指-49> 乳用雌育成前期牛の集約放牧による発育効果	家畜飼養			
						<H16-指-50> 血中アミノ酸による乳牛の周産期疾病予察	家畜飼養			
						<H16-研-34> スダングラス・麦二毛作体系の経営評価	農業経営			
						<H17-普-15> スダングラス・スダングラス型刈草の品種特性と栽培管理	飼料生産			
						<H17-指-55> スダングラス・スダングラス型刈草の肥培管理	飼料生産			
F-3-2-2	281	(H17-17) 栄養管理による泌乳牛の尿中窒素及びカリウム排泄量低減技術の確立 [H17~H20/県単研究]	家畜飼養	<H17-研-25> 泌乳牛における飼料中の CP 及びカリウム含量低減による尿量削減効果	家畜飼養					
				<H13-研-19> 搾乳ミルカー(ティートップ)の離脱方法の違いが乳腺細胞に及ぼす影響	家畜飼養					
F-3-2-2	282	(722) ロボット搾乳とパーラー搾乳が乳腺細胞に及ぼす影響と乳房炎発生との関係 [H13~H15/県単研究]	家畜飼養	<H16-研-33> 搾乳前刺激の増幅による搾乳時間の短縮化	家畜飼養					
				<H13-研-19> 搾乳ミルカー(ティートップ)の離脱方法の違いが乳腺細胞に及ぼす影響	家畜飼養					
(G)肉畜	(G-1)肉量・肉質を兼ね備えた高能力牛の作出と牛群整備	G-1-1-1	283	(234) 黒毛和種産肉能力検定(直接法) [S62~H22/令達]	種山畜産	<H13-行-06> 黒毛和種産肉能力検定(直接法)成績	種山畜産			
						<H14-行-09> 黒毛和種産肉能力検定(直接法)成績	種山畜産			
						<H15-行-05> 黒毛和種産肉能力検定(直接法)成績	種山畜産			
						<H16-行-08> 黒毛和種産肉能力検定(直接法)成績	種山畜産			
						<H16-行-12> 黒毛和種産肉能力検定に係る選抜指数式の改正	種山畜産			
						<H17-行-05> 黒毛和種産肉能力検定(直接法)成績	種山畜産			
						284	(235) 黒毛和種産肉能力検定(間接法・現場後代検定) [H01~H22/令達]	種山畜産	<H11-普-28> 県有優良種雄牛「福利」・「糸美德」の作出	種山畜産
									<H11-行-17> 黒毛和種産肉能力検定(間接法)成績	種山畜産
									<H12-行-14> 黒毛和種産肉能力検定(間接法)成績	種山畜産
									<H13-普-21> 黒毛和種優良種雄牛「糸晴清」・「信菊徳」の作出	種山畜産
			<H13-普-23> 県有優良種雄牛「北孝福」の作出	種山畜産						
			<H13-行-07> 黒毛和種産肉能力検定(間接法)成績	種山畜産						
			<H14-普-26> 肉量・肉質に優れた県産黒毛和種種雄牛「菊重福」・「第3原茂」の作出	種山畜産						
			<H14-指-34> 尿道結石症の陰嚢前方切開による治療法	家畜工学						
			<H14-行-10> 黒毛和種産肉能力検定(間接法)成績	種山畜産						
			<H15-普-28> 黒毛和種県産種雄牛「金菊徳」の作出(現場後代検定法)	種山畜産						
			<H15-普-29> 黒毛和種種雄牛「糸安菊」・「北勝次郎」の作出(産肉能力検定(間接法))	種山畜産						
			<H15-普-30> 肉量肉質に優れた県産黒毛和種種雄牛「平茂夏」の作出	種山畜産						
			<H15-行-06> 黒毛和種産肉能力検定(間接法)成績	種山畜産						
			<H15-行-07> 黒毛和種産肉能力検定(現場後代検定法)成績	種山畜産						
<H15-研-31> 黒毛和種間接検定における遺伝的趨勢	種山畜産									
<H16-普-26> 黒毛和種県産種雄牛「菊茂勝」の作出(現場後代検定法)	種山畜産									
<H16-行-09> 黒毛和種産肉能力検定(間接法)成績	種山畜産									
<H16-行-10> 黒毛和種産肉能力検定(現場後代検定法)成績	種山畜産									
<H17-普-12> 黒毛和種県産種雄牛「房平茂」・「平福国1」・「来待招福」の作出(間接法)	種山畜産									
<H17-普-13> 黒毛和種県産種雄牛「菊福秀」の作出(現場後代検定法)	種山畜産									

研究分野	重点目標	中課題 コード	小課題 (連番)	課題名(小課題のみ) (H11~H17)	小課題 主査研究室	成果名 (H11~H17)	成果 主査研究室
						<H17-行-06>黒毛和種産肉能力検定(間接法)成績 <H17-行-07>黒毛和種産肉能力検定(現場後代検定法)成績	種山畜産 種山畜産
		G-1-1-2	285	(236)日本短角種産肉能力検定(直接法)[S45~H22/令達]	家畜育種	<H11-指-37>日本短角種産肉能力検定(直接法)成績 <H12-指-38>日本短角種産肉能力検定(直接法)成績 <H13-指-44>日本短角種産肉能力検定(直接法)成績 <H14-行-11>日本短角種産肉能力検定(直接法)成績 <H15-行-13>日本短角種産肉能力検定(直接法)成績 <H15-行-15>日本短角種基礎雌牛群の育種学的評価 <H16-行-13>日本短角種産肉能力検定(直接法)成績 <H17-行-08>日本短角種産肉能力検定(直接法)成績	家畜育種 家畜育種 家畜育種 家畜育種 家畜育種 家畜育種 家畜育種 家畜育種
			286	(237)日本短角種産肉能力検定(現場検定法)[S48~H22/令達]	家畜育種	<H11-指-38>日本短角種産肉能力検定(間接法)成績 <H12-指-39>日本短角種産肉能力検定(間接法)成績 <H13-指-45>日本短角種産肉能力検定(間接法)成績 <H14-普-27>発育・肉質に優れた日本短角種優良種雄牛「勝富」の作出 <H14-指-29>日本短角種の育種価評価 <H14-指-30>日本短角種における早期妊娠鑑定と子宮内薬液注入による受胎率改善 <H14-行-12>日本短角種産肉能力検定(間接法)成績 <H15-行-14>日本短角種産肉能力検定(間接法)成績 <H16-行-14>日本短角種産肉能力検定(間接法)成績 <H17-普-14>肉質・歩留に優れた日本短角種種雄牛「大野 00013」の作出 <H17-行-09>日本短角種産肉能力検定(間接法)成績	家畜育種 家畜育種 家畜育種 家畜育種 家畜育種 家畜育種 家畜育種 家畜育種 家畜育種 家畜育種
		G-1-1-4	287	(238)県有種雄牛の能力調査[H09~H13/(県単研究)]	種山畜産	<H11-指-46>県有種雄牛産子の市場上場時成績 <H12-指-43>県有種雄牛の産子枝肉成績及び育種価推定 <H13-指-42>黒毛和種県有種雄牛の子牛市場成績 <H13-指-43>県有種雄牛の産肉能力と交配パターン	種山畜産 種山畜産 種山畜産 種山畜産
			288	(857)県有種雄牛の利用及び能力調査[H14~H22/県単研究]	種山畜産	<H14-指-28>黒毛和種の地域別枝肉成績 <H15-指-41>黒毛和種種雄牛別枝肉成績 <H15-行-08>黒毛和種の県有種雄牛における子牛市場成績 <H16-指-44>黒毛和種種雄牛別枝肉成績 <H16-行-11>黒毛和種の県有種雄牛における子牛市場成績 <H17-指-49>県有種雄牛「系安菊」「金菊徳」「菊安舞鶴」の母系統別子牛市場成績 <H17-指-50>黒毛和種の県有種雄牛における子牛市場成績 <H17-指-51>黒毛和種種雄牛別枝肉成績	種山畜産 種山畜産 種山畜産 種山畜産 種山畜産 種山畜産 種山畜産
		G-1-1-5	289	(239)精液の希釈方法を中心とした高位凍結処理技術の確立[H09~H12/県単研究]	種山畜産	<H11-研-29>精液の希釈濃度が凍結融解後精子の運動性に及ぼす影響	種山畜産
		G-1-2-3	290	(241)分割胚由来一卵性双子を用いた優良種畜作出システムの確立[H09~H13/(県単研究)]	家畜育種		
			291	(859)黒毛和種における分割胚移植技術を活用した高能力種雄牛の作出[H14~H22/県単研究]	種山畜産	<H16-研-29>黒毛和種の分割胚由来による双子の初期発育 <H17-研-28>「夏安福2」の一卵性双子の枝肉成績と推定育種価	種山畜産 種山畜産

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11~H17)	小課題主査研究室	成果名(H11~H17)	成果主査研究室	
(G-2)恵まれた土地資源を活用した効率的な子牛生産システムの確立		G-2-1-1	292	(882)超早期母子分離と放牧を取り入れた黒毛和種飼養方式の確立[H14~H16 H15/県単研究]	外山畜産			
			G-2-1-2	293	(242)北上山地における公共放牧地の高度利用による黒毛和種肥育素牛の放牧管理技術の確立[H11~H15/-]	外山畜産	<H12-指-41>黒毛和種親子放牧における子牛の発育向上対策	外山畜産
							<H13-普-29>品種レリアライグラス極早生品種「カボウ」	外山畜産
							<H13-指-49>パドックの泥濘化改善技術	外山畜産
							<H13-指-53>既存草地における黒毛和種集約放牧のための草地管理	外山畜産
							<H14-行-07>黒毛和種放牧子牛に対する県内肥育農家の意識	農業経営
							<H14-研-32>黒毛和種放牧子牛の発育に及ぼす要因について	外山畜産
							<H15-指-42>公共牧場の高度活用による黒毛和種肥育素牛の生産(1)集約放牧による黒毛和種親子放牧子牛の市場評価向上	外山畜産
							<H15-指-43>公共牧場の高度活用による黒毛和種肥育素牛の生産(2)放牧地における後期生産性を高めるための追肥時期の検討	外山畜産
							<H15-指-44>公共牧場の高度活用による黒毛和種肥育素牛の生産(3)放牧育成素牛の肥育特性の解明	家畜育種
			<H15-研-32>粗砕片殻の施用が土壌PH及び牧草に及ぼす影響	外山畜産				
			G-2-1-3	294	(H15-45)日本短角種DM牛の特性解明と系統造成[H15~H19/国庫委託]	外山畜産		
			G-2-1-5	295	(243)胚移植技術を取り入れた効率的な繁殖経営の実証[H09~H13/(県単研究)]	外山畜産	<H13-指-48>日本短角種繁殖経営における黒毛和種胚移植技術の導入効果	外山畜産
			G-2-1-8	296	(245)川井村青松牧野における褐毛和種親子放牧の子牛育成技術の開発[H10~H12/県単研究]	外山畜産	<H12-指-42>褐毛和種放牧子牛の発育特性と別飼方法	外山畜産
							297	(H16-36)中山間地域の草地資源の高度利用による黒毛和種集団繁殖・育成管理技術の確立[H16~H18/県単研究]
<H16-研-28>寒冷寒作は黒毛和種子牛の生後2週間の免疫機能を低下させる	外山畜産							
<H16-研-31>放牧牛におけるOvsynch法へのhCGの応用効果	外山畜産							
				<H17-研-26>hCGを用いたOVSYNCH変法の授精適期	外山畜産			
				<H17-研-27>黒毛和種人工哺育子牛における群飼移行時のストレス反応	外山畜産			
(G-3)地域資源を活用した良食味肥育技術体系の確立		G-3-2-2	298	(247)黒毛和種肥育素牛の早期能力判定技術の開発[H08~H13/(県単研究)]	家畜育種	<H11-指-39>黒毛和種黒母牛「恒築」産子の産肉能力	家畜育種	
						<H12-研-23>日本短角種牛肉の新たな脂肪交雑評価法	家畜育種	
						<H13-研-20>黒毛和種肥育牛の超音波測定による早期能力判定技術	家畜育種	
			299	(246)「いわて短角牛」適正出荷のための肥育技術の確立[H13~H14/(県単研究)]	家畜育種	<H13-行-08>玄米の多量給与が日本短角種去勢牛の産肉性に及ぼす影響	家畜育種	
						<H15-研-36>「いわて短角牛」適正出荷のための肥育技術の確立	家畜育種	
						<H16-指-46>トロンカールジ多給肥育による良質短角牛肉の生産	家畜育種	
G-3-2-3	300	(248)ビタミンA制限による肥育技術の確立[H10~H15/令達]	家畜育種	<H14-指-26>黒毛和種の若齢肥育におけるビタミンAコントロールを用いた効率的肥育技術	家畜育種			
				<H14-指-34>尿道結石症の陰囊前方切開による治療法	家畜工学			
(G-4)系統豚を活用した岩手型養豚システムの確立		G-4-1-2	301	(249)高能力、高品質、斉一性の高いランドレース種の系統造成[H05~H13/(令達)]	家畜育種	<H11-指-41>新ランドレース系統豚F1母豚の繁殖能力	家畜育種	
						<H12-普-24>産肉性と強健性に優れた新ランドレース系統豚の造成	家畜育種	
		G-4-1-5	302	(854)環境・安全に配慮した岩手型豚肉生産技術の確立[H14~H17/県単研究]	家畜育種	<H14-指-35>仔豚を利用したF1母豚及び三元交雑豚の組み合わせ検定	家畜育種	
						<H15-研-37>未利用資源を利用したサイクル飼料による豚肉生産コストの低減	家畜育種	

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11~H17)	小課題主査研究室	成果名(H11~H17)	成果主査研究室	
	(G-5)地域特産化を目指した高品質卵肉用鶏飼養システムの確立	G-4-2-2	303	(H16-29)地域資源を活用した特産豚及び特産鶏の飼養技術の確立[H16~H19/県単研究]	家畜育種	<H16-行-15>岩手県における刈刈飼料に対する養豚農家等の意向	家畜育種	
						<H16-研-35>どんぐり給与と放牧が豚の肉質に及ぼす影響	家畜育種	
						<H16-研-36>刈刈飼料及びせんべいくずを利用した特産鶏肉生産のCO2低減	家畜育種	
						<H17-指-53>豚へのそばくず給与により飼料費の低減が可能でその肉質も良好である	家畜育種	
		G-5-1-1	304	(250)岩手地鶏、軍鶏の効率の活用による高品質鶏の作出[H08~H12/県単研究]	家畜育種	<H12-研-22>「岩手地鶏」を活用した高品質鶏肉生産のための基礎鶏の作出	家畜育種	
						(833)ニワトリ始原生殖細胞(PGCs)の利用に関する研究[H14~H15/県単研究]	家畜育種	
						(H16-30)ニワトリ始原生殖細胞の凍結保存に関する研究[H16~H17/県単研究]	家畜育種	<H17-研-29>生殖系対応鶏の作出
G-5-1-2	307	(720)岩手独自の交雑種鶏を活用した組み合わせ検定[H13~H15/県単研究]	家畜育種	<H15-普-35>岩手地鶏を活用した特産肉用鶏の開発	家畜育種			
(H)草地・飼料作物	(H-1)地域適応性に優れた粗飼料の草種・品種の選定	H-1-1-1	308	(252)とうもろこし奨励品種決定基本調査[S54~H13/令達]	飼料生産	<H11-普-23>平成12年度雑草防除基準に採用した飼料用とうもろこし除草剤「ハルカ」のメルク水溶液	飼料生産	
						<H11-普-24>品種飼料用とうもろこし極早生品種「ニューデ」190日(LG2290)」	飼料生産	
						<H11-普-25>品種飼料用とうもろこし極早生品種「ニューデ」195日(DK405)」	飼料生産	
						<H11-普-26>品種飼料用とうもろこし早生品種「ゴールドデ」DK474)」	飼料生産	
						<H11-普-27>品種飼料用とうもろこし晩生品種「32K61(ハ イア 122日)」	飼料生産	
						<H11-指-43>飼料用とうもろこし推奨品種の改廃と早晩性配置	飼料生産	
						<H11-研-28>飼料用とうもろこし市販品種の特性比較	飼料生産	
						<H12-普-26>品種飼料用とうもろこし中生品種「35G86(ハ イア 108日)」	飼料生産	
						<H13-普-24>品種飼料用とうもろこし早生品種「KD520)」	飼料生産	
						<H13-普-25>品種飼料用とうもろこし晩生品種「ハ イア 118日(33G26)」	飼料生産	
						<H14-普-28>品種乾物収量性に優れた飼料用とうもろこし早生品種「36B08(ハ イア 106日)」	飼料生産	
						<H14-普-29>品種乾物収量性(雌穂)に優れた飼料用とうもろこし中生品種「33J24(ハ イア 112日)」	飼料生産	
						<H16-普-28>品種乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ早生品種「LG3457(ニューデ)100日)」	飼料生産	
		<H17-普-19>品種乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ極早生品種「KD417)」	飼料生産					
<H17-普-20>品種乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ極早生品種「おおぞら)」	飼料生産							
<H17-普-21>品種乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ早生品種「TX201(ダイヤ)110)」	飼料生産							
H-1-1-2	310	(254)とうもろこし系統適応性検定試験[S55~H22/国庫委託]	飼料生産	<H11-指-43>飼料用とうもろこし推奨品種の改廃と早晩性配置	飼料生産			
H-1-1-2	311	(725)ソルガム市販品種の特性比較[H13~H15/令達]	飼料生産	<H15-普-33>品種乾物収量性、耐倒伏性に優れたソルガム中生品種「FS5(ゴールドソルガム)」	飼料生産			
				<H15-普-34>品種高消化性で耐倒伏性に優れたソルガム極晩生品種「東山交22号(秋立)」	飼料生産			
				(H16-33)高消化性ソルガム品種特性比較試験[H16~H18/令達]	飼料生産			
H-1-1-2	313	(H17-18)発酵TMR飼料の調製並びに乳牛への給与と技術の確立[H17~H19/県単研究]	家畜飼養					
H-1-2-1	314	(255)採草用牧草の品種選定試験[H11~H13/令達]	飼料生産	<H13-普-26>品種「チャート」極早生品種「アキドリ」	飼料生産			
				<H13-普-27>品種「フェ」中生品種「秋刈」	飼料生産			

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11~H17)	小課題主査研究室	成果名(H11~H17)	成果主査研究室		
	(H-2)牧草・飼料作物の高度利用技術の確立	H-2-1-1	315	(726)採草用牧草の播種基準の策定[H13~H17/県単研究]	飼料生産	<H16-指-53>採草用牧草の草種の混播適正(中標高地) <H17-指-54>採草用草地の草種の混播適性(高標高地)	飼料生産 飼料生産		
			316	(256)北上山地における公共草地の高度利用のための貯蔵粗飼料生産・供給システムの確立[H09~H13/(国庫助成)]	飼料生産	<H12-普-27>簡易牧草追播機利用による簡易草地更新法 <H13-普-28>品種モン-晩生品種「秋ユウ」 <H13-指-50>草種・品種の早晩性を利用した収穫適期幅の拡大	飼料生産 外山畜産 飼料生産		
			H-2-2-1	317	(257)糞尿施用とうもろこし畑の簡易診断技術の確立[H10~H14/(県単研究)]	飼料生産	<H14-研-35>家畜の未熟堆肥を連年多量施用したとうもろこし畑における土壌及び作物成分の推移	飼料生産	
				318	(H16-34)転作田における牧草導入時期の検討[H16~H18/令達]	飼料生産			
				319	(H16-35)不耕起栽培トウモロコシを導入した寒冷地向け飼料作物周年作付体系の確立(旧題:トウモロコシの不耕起・簡易耕起栽培法の確立)[H16~H22/県単研究]	飼料生産	<H17-普-18>平成18年度雑草防除基準に採用した飼料用トウモロコシ用除草剤	飼料生産	
			H-2-2-2	320	(258)ローラップ体系における飼料作物の部分耕起輪作体系[H10~H12/令達]	飼料生産	<H12-普-28>刈割のローラップ作業体系による収穫調整技術	飼料生産	
				321	(743)ソルガムラップサイレーズ調整技術[H13~H15/令達]	飼料生産	<H15-指-45>中型ローラップ体系による収穫作業に適した刈割の品種・栽培方式の選択	飼料生産	
				322	(861)細断型ローラベラによる飼料作物の収穫調整技術[H14~H15/国庫委託]	飼料生産	<H15-普-31>細断型ローラベラによる飼料用とうもろこしの省力的収穫調整技術(1)作業機の基本性能及び省力的作業 <H15-普-32>細断型ローラベラによる飼料用とうもろこしの省力的収穫調整技術(2)細断型ローラベラの閉鎖時の収量及び発酵品質の検討	飼料生産 飼料生産	
			H-2-3-1	323	(259)牧草の気象感応試験[S41~H18 H13/(県単研究)]	飼料生産			
				324	(892)牧草の気象感応試験[H14~H22/県単研究]	飼料生産	<H17-普-16>品種モン-早生品種「秋イソ」 <H17-普-17>品種オードグラス晩生品種「ハツカ」	飼料生産 飼料生産	
		H-2-4-0	325	(724)被覆植物を活用した飼料畑の雑草抑制技術の確立[H13~H15/県単研究]	飼料生産	<H15-研-33>被覆植物を活用した雑草制御技術	飼料生産		
		(H-3)地域飼料資源の活用	H-3-1-1	326	(260)シバムギの生態特性の解明[H08~H12/県単研究]	飼料生産	<H12-指-40>刈割の飼料価値	飼料生産	
				327	(H16-37)牧草地における粗砕力穀の土壌改良資材としての利用技術の確立[H16~H18/県単研究]	外山畜産			
				328	(H16-38)減化学肥料化を目指した牧草地における発酵鶏糞ベレットの施肥基準の策定[H16~H18/県単研究]	外山畜産			
		(H-4)中山間地域における粗飼料の安定生産・利用技術の確立	H-4-1-2	329	(261)堆肥・液肥等の特性解明と有効利用技術の確立[H09~H11/県単研究]	外山畜産	<H11-指-45>牧草地における炭化鶏糞の利用性	外山畜産	
			H-4-1-3	330	(H16-55)狭小草地における子牛の放牧育成技術の開発[H16~H18/国庫委託]	外山畜産			
			H-4-2-1	331	(262)広葉樹林帯を活用した肉用牛放牧における水土保全機能の解明[H11~H15/県単研究]	外山畜産	<H15-行-09>放牧地の適正な林地配置による水土保全機能	外山畜産	
		(H-5)安全粗飼料確保のための粗飼料分析法の確立	H-5-1-1	332	(263)粗飼料の硝酸態窒素簡易測定法の確立[H12~H13/(県単研究)]	飼料生産	<H13-指-51>粗飼料の硝酸態窒素簡易測定法	飼料生産	
		(I)作物バイオテクノロジー	(I-1)遺伝子組換えによる優良品種や品種母本の作出及び育成	I-1-1-4	333	(280)りんごの有望品種及び有望台木の再分化技術の確立[H12~H14/県単研究]	応用生物学	<H12-研-06>りんご「きおう」の再分化系	応用生物学
					334	(801){post281}遺伝子導入稲の耐病性評価[H09/H14~H16 H15/県単研究]	応用生物学		
					335	(282)耐病性関連遺伝子導入りんごの耐病性評価[H09~H16 H13/(県単研究)]	応用生物学	<H11-指-32>褐斑病に対するりんご品種の耐病性 <H11-研-23>りんご品種「王林」の斑点落葉病に対する耐病性	応用生物学 応用生物学
					336	(809){post282}耐病性関連遺伝子導入りんごの耐病性評価[H09/H14~H16 H15/県単研究]	応用生物学	<H14-研-11>生育期後半におけるりんご品種の斑点落葉病の抵抗力の低下 <H15-研-13> -対遺伝子導入りんごの耐病性評価	応用生物学 応用生物学

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11~H17)	小課題主査研究室	成果名(H11~H17)	成果主査研究室	
	(1-2)地域遺伝資源を利活用したオリジナル品目・品種の開発及び育成	I-2-1-1	337	(283)bar 遺伝子導入りんごの薬剤耐性評価[H09~H11/県単研究]	応用生物学	<H11-研-24>耐病性関連遺伝子(チカセ、グルカセ)導入りんごの特性評価	応用生物学	
			338	(812)りんごの組織培養による種間雑種等の作出法[H14~H18/県単研究]	応用生物学	<H16-研-19>りんごの胚の発育過程	応用生物学	
			339	(H15-06)玄米、白米などを材料としたDNAマーカー利用による水稲品種鑑別[H15~H16/県単研究]	応用生物学	<H16-行-06>岩手県水稲混種における混入米のDNA鑑定技術 <H16-研-04>イマイカクワイトカによる品種間多型のデータベース化	応用生物学	
		I-2-1-2	340	(284)りんご採種用親系統の維持・増殖技術の確立[H09~H13/(県単研究)]	応用生物学	<H11-研-13>組織培養によるりんご採種用親系統「矢巾系」の維持・増殖法 <H12-研-14>りんご採種用親系統の培養による維持法 <H12-研-15>りんご採種用親系統の葉片培養による増殖法 <H13-指-36>葉片培養によるりんご採種用親系統(北海道系、えぞ早生系、矢巾系、磐梯系)の増殖法および順化技術 <H13-研-17>液体振とう培養によるりんご採種用親系統(吾妻系、松尾系)の増殖法および順化技術	応用生物学	
			341	(810)りんごF1優良個体の大量増殖技術開発[H14~H18/県単研究]	応用生物学			
			342	(814)えぞりんごの組織培養における維持・増殖システムの確立[H14~H18/県単研究]	応用生物学	<H14-研-29>越冬芽利用によるえぞりんごの増殖法 <H15-指-35>えぞりんごの葉片培養由来増殖個体は交配親として利用できる <H17-指-36>えぞりんごの葉片培養由来増殖個体は交配親として利用できる(追補)増殖個体を用いた後代の均一性	応用生物学	
			343	(286)スター・チス・シヌア・タの低コスト培養システムの確立[H10~H13/(県単研究)]	応用生物学	<H12-指-26>スター・シヌアに発生するウイルス病 <H13-指-38>スター・シヌアの培養による増殖法および順化技術	応用生物学	
		I-2-2-2	344	(813){post286}スターチスの低コスト培養システムの確立[H10/H14~H16/県単研究]	応用生物学	<H16-指-40>スターチスの高増殖培養法	応用生物学	
		(1-3)農業革新技術開発を支援促進するための生物工学的手法の確立	I-3-1-1	345	(811)りんごの突然変異体の作出法[H14~H18/県単研究]	応用生物学		
				346	(H15-08)りんご有望台木の再分化技術[H15~H17 H16/県単研究]	応用生物学	<H16-研-08>JM 台木の葉片培養による再分化効率の向上	応用生物学
	347			(H16-04)いもち病真性抵抗性遺伝子に関連したDNAマーカーの探索とその実用化[H16~H18/県単研究]	応用生物学	<H16-研-03>いもち病真性抵抗性遺伝子Piaに連鎖したDNAマーカーの検出	応用生物学	
	348			(H17-02)新規の穂いもち病菌場抵抗性遺伝子の探索[H17~H21/県単研究]	応用生物学			
	I-3-1-2		349	(H16-05)「二子いも」高付加価値生産に向けた培養苗生産技術開発[H16~H18 H17/県単研究]	応用生物学			
	I-3-1-3		350	(H17-05)革新技術による病原検出診断手法の開発と実用化[H17~H21/県単研究]	応用生物学	<H17-研-34>植物病原検出のためのLAMP法用プライマーの作出(CYVV、INSV)	応用生物学	
	I-3-2-1		351	(288)DNAマーカー利用による稲優良形質の探索及び選抜法の確立[H09~H14/(県単研究)]	応用生物学	<H11-研-05>稲いもち病真性抵抗性遺伝子Pikに連鎖するDNAマーカーの作出 <H14-研-07>DNAマーカー利用による水稲のDNA解析法の効率化 <H14-研-08>稲いもち病真性抵抗性遺伝子Piiに連鎖するDNAマーカーの作出	応用生物学	
			352	(289)ピーマン病原ウイルスの検出・診断技術の利用[H10~H13/(県単研究)]	応用生物学	<H13-指-27>ピーマン病原ウイルスCMV・PMoV・TSWVの簡易迅速診断	応用生物学	
	I-3-2-3		353	(290)なす科作物青枯病菌の検出・診断技術の利用[H10~H13/(県単研究)]	応用生物学	<H12-指-14>TPI法によるトト、トマ等の青枯病の診断	応用生物学	
			354	(818)各種病原の検出・診断技術[H14~H16/県単研究]	応用生物学	<H15-指-36>かえそ病原ウイルスTSWVの現地における簡易迅速診断 <H15-研-27>かえそ病原ウイルスTSWVのDAS-ELISAによる検定法	応用生物学	

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11~H17)	小課題主査研究室	成果名(H11~H17)	成果主査研究室		
		I-3-2-4	355	(H17-03)DNA マーカーを利用したりんご黒星病抵抗性検定[H17~H18/県単研究]	応用生物工学	<H17-研-10>DNA マーカーを利用したりんご黒星病抵抗性遺伝子(Vf)を有する個体の選抜	応用生物工学		
			356	(H17-04)リンゴ根頭がんしゅ病菌の簡易検出技術の実用化[H17~H19/県単研究]	応用生物工学				
			357	(292)りんごのウィルスフリー化技術の確立[H09~H16 H13/(県単研究)]	応用生物工学	<H11-行-14>栄養繁殖系りんごのウィルスフリー化及び選抜	応用生物工学		
			358	(815){post292}りんごのウィルスフリー化技術の確立[H09/H14~H16/県単研究]	応用生物工学				
			359	(294)りんごのウィルスフリー樹の作出及び検定法の確立[H09~H16 H13/(県単研究)]	応用生物工学				
			360	(808){post294}りんごのウィルスフリー樹の作出及び検定法の確立[H09/H14~H16/県単研究]	応用生物工学				
			361	(293)小ぎくのウィルスフリー化技術の確立[H12~H16/県単研究]	応用生物工学	<H13-研-13>きくのウィルス保毒実態と TSWV の局在事例 <H15-指-36>おそ病病原ウィルス TSWV の現地における簡易迅速診断	応用生物工学		
(J)家畜バイオテクノロジー	(J-1)家畜改良速度を飛躍的に向上させるための胚移植技術の確立	J-1-1-1	362	(300)受精卵移植技術実用化確立試験[H09~H13/(県単研究)]	家畜工学	<H13-指-46>卵胚安定確保のための脂肪酸添加剤製剤投与効果	家畜工学		
			363	(H17-19)正常胚安定生産技術の確立[H17~H19/県単研究]	家畜工学				
			364	(H17-20)ガラス化保存受精卵の直接移植に向けた検討(旧題:OPS を用いた牛胚の超急速ガラス化保存技術の確立)[H17~H19/令達]	家畜工学				
		J-1-1-2	365	(864)受胎率向上のための受精卵の凍結・融解方法の比較検討[H14~H16/令達]	家畜工学	<H14-指-27>0.1M H10-ア添加 1.8M 工用グリコールを耐凍剤とした凍結胚の生存性 <H16-指-42>直接移植のための卵胚の凍結・融解方法	家畜工学		
			366	(824)ウシ胚移植を活用した効率的双子生産技術の確立[H14~H16/県単研究]	家畜工学	<H15-指-48>黒毛和種多生子の個体識別と判定	家畜工学		
		J-1-2-4	367	(301)過剰排卵処理法と経膈採卵の組み合わせによる胚生産の検討[H11~H13/(令達)]	家畜工学	<H11-研-26>過剰排卵処理法と経膈採卵を組み合わせさせた胚生産 <H12-研-24>経膈採卵した未成熟卵子の輸送方法	家畜工学		
			368	(302)雌雄別別技術を利用した乳用牛群改良技術の確立[H11~H15/県単研究]	家畜工学	<H13-指-47>男性判別胚のガラス化保存法 <H15-研-34>OpenPulledStraw を用いた牛胚の超急速ガラス化保存	家畜工学		
		(J-2)優良種畜の大量確保を目指したクローン牛の生産技術の開発	J-2-1-0	369	(303)核移植技術による優良種畜の大量生産技術の開発[H10~H15/国庫助成]	家畜工学	<H12-研-25>核移植再構築胚における体外培養系の比較 <H13-研-21>卵の羊水浮遊細胞をドナーとした核移植成績 <H14-研-31>卵の核移植再構築胚における染色体数	家畜工学	
					370	(H16-32)核移植技術を応用した種雄牛短期造成技術の確立[H16~H20/県単研究]	家畜工学	<H16-研-26>NIC法により採取した牛胚由来栄養膜細胞の生存性 <H17-行-04>種雄牛のクローン牛と全兄弟および半兄弟の相似性比較成績 <H17-研-31>牛胚由来栄養膜細胞の継続培養技術	家畜工学
					371	(304)肉用牛における経済形質とDNA マーカーとの連鎖解析[H07~H22/令達]	家畜工学	<H11-研-27>DNA マーカーによる肉筋肥大(Double-muscling)原因遺伝子の判定 <H14-行-08>DNA マーカーによる個体識別法の牛肉への応用 <H14-研-33>日本短角種における肉筋肥大(Double-muscling)原因遺伝子型と産肉性との関連 <H15-指-47>黒毛和種における遺伝性内水頭症原因領域の解明 <H16-研-27>黒毛和種の乳頭異常原因染色体の解明 <H17-行-11>乳頭異常牛の大規模家系解析による原因染色体の検出	家畜工学

研究分野	重点目標	中課題 コード	小課題 (連番)	課題名(小課題のみ) (H11~H17)	小課題 主査研究室	成果名 (H11~H17)	成果 主査研究室		
			372	(H15-44)日本短角種をモデルとした全個体認証システムの構築と利用技術の開発 [H15~H19 H17/国庫委託]	家畜育種	<H15-指-48>黒毛和種多生子の個体識別と判定 <H15-行-12>日本短角種に適したDNA 個体識別R-カセットの構築 <H17-行-10>リアルタイムPCR法による日本短角種の省力・低コスト個体識別方法の確立	家畜工学 家畜工学 家畜工学		
(K)環境 保全	(K-1)化学肥料 や農薬などの化学 合成資材等による 環境負荷軽減技術 の確立	K-1-1-1	373	(310)施肥窒素溶脱抑制技術の確立 [H03~H14/(国庫助成)]	環境保全	<H14-研-26>か' 欠' 牛ふんたい肥を施用すると露地野菜畑(非アゾノ黒ボク土壌)で化学肥料単用よりも窒素溶脱を軽減できる	環境保全		
			374	(H15-19)畑作地帯における硝酸性窒素等の環境動態解明と負荷軽減技術の評価 [H15~H19/令達]	環境保全				
			375	(H15-22)水稲減農薬栽培地域の水系における農薬動態の解明 [H15~H17/国庫委託]	環境保全	<H17-研-32>水田用農薬の河川への流出特性	環境保全		
		K-1-2-1	376	(312)農薬残留安全追跡調査 [H10~H13/(国庫助成)]	環境保全	<H14-指-10>岩手県の防除体系における米の農薬残留	環境保全		
			377	(313)農薬安全使用等啓発事業 [H12~H14/(国庫助成)]	環境保全	<H11-行-15>県内主要農産物の農薬残留実態	環境保全		
			378	(887)農薬残留対策調査(作物残留) [H14~H14/(民間委託)]	環境保全				
			379	(H15-20)減農薬栽培農産物における農薬残留評価手法の開発 [H15~H17/民間委託]	環境保全	<H16-指-57>ム/アッセ化による簡易農薬残留分析の活用法 <H17-指-59>ム/アッセ化による簡易農薬残留分析の活用法(追補)	環境保全 環境保全		
		K-1-2-2	380	(314)土壌汚染防止対策技術の確立 [S62~H13/(令達)]	環境保全	<H13-行-15>土壌汚染防止対策によるか' ミム濃度の低下実態(追補)	環境保全		
			381	(H17-11)ポリ乳酸系生分解性プラスチックを利用した野菜生産技術の開発と利用技術 [H17~H19/県単研究]	野菜畑作				
		K-1-2-3	382	(315)農薬水質影響調査 [H10~H15/-]	環境保全	<H11-研-20>水稲種子消毒廃液処理における農薬成分の動態 <H12-指-06>葉いもち予防剤の育苗箱施用による河川への薬剤成分流出の低減化 <H13-指-55>育苗箱施用剤(殺虫成分)の田面水濃度 <H14-指-09>農薬廃液処理装置による水稲種子消毒剤の廃液処理対策と導入条件 <H15-研-01>育苗箱施用殺菌剤および初中期一発除草剤がアザノコノメ 幼虫羽化率への影響が小さい	環境保全 環境保全 環境保全 環境保全 環境保全		
					383	(749)農薬残留対策調査(水系残留) [H13~H13/(国庫委託)]	環境保全		
					K-1-3-1	384	(316)環境にやさしいマルチ資材等利用技術 [H10~H13/(県単研究)]	やませ利用	<H13-普-19>生分解性プラスチックの特性と選択の目安
		385	(H14-05)葉たばこ栽培における還元型マルチ資材処理システムの検証 [H14~H16/令達]	やませ利用		<H17-指-60>生分解性マルチ資材の分解特性和分解促進のための鋤込法	やませ利用		
		(K-2)家畜糞尿 の利用を促進する 低コスト処理技術 と利用システムの 確立	K-2-1-1	386	(H16-39)カキ殻充填水路と人工湿地を併用したパドック排水の簡易浄化処理技術の開発 [H16~H18 H17/県単研究]	外山畜産	<H16-研-30>耕殻充填水路と人工湿地利用によるパドック排水の汚濁物質除去効果	外山畜産	
						K-2-1-2	387	(317)家畜排泄物脱臭装置による臭気低減技術の確立 [H08~H11/県単研究]	飼料生産
388	(318)ロックウォール脱臭装置の高機能化とドレインの環境保全的循環技術 [H12~H14/(国庫委託)]		飼料生産	<H14-指-36>リックール脱臭装置排水のオチャドグラスに対する液肥施用効果	飼料生産				
K-2-1-4	389		(321)有機質資材等の施用管理技術の確立 [H09~H13/(令達)]	営農技術	<H12-指-08>家畜ふん堆肥の秋施用効果	営農技術			
				390	(320)環境保全型有機質資源施用基準設定調査 [H10~H14/(国庫助成)]	土壌作物栄養	<H13-指-59>県内水田土壌の15年間の有機物・施肥管理と化学性の変化 <H13-指-60>県内畑地土壌の15年間の有機物・施肥管理と化学性の変化 <H14-指-06>平成14年7月の台風6号による水稲冠水被害の解析(4)冠水被害地帯に流入した土壌の特徴 <H15-指-11>牛ふん堆肥・稲わらの連用による水田土壌養分の土壌型別蓄積傾向 <H15-指-26>黒ボク土畑土壌における各種堆肥の酸性化防止効果	土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養	

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11～H17)	小課題主査研究室	成果名(H11～H17)	成果主査研究室								
			391	(H15-31)自給飼料をベースとした安全安心畜産物生産システムの確立[H15～H17/県単研究]	飼料生産	<H16-指-46>トロンカールジ 多給肥育による良質短角牛肉の生産	家畜育種								
						<H16-指-52>改良ホルタを取り入れた細断型ホルター体系の作業能率の向上	飼料生産								
						<H17-指-52>豆腐粕カールジを活用した日本短角種のトロンカールジ 多給肥育による良質な枝肉生産技術	家畜育種								
						<H17-指-56>細断型ホルターへの導入条件と評価	農業経営								
			K-2-2-1	392	(322)副資材(オガクズ)を活用した良質堆肥生産技術の確立[H09～H11/県単研究]	飼料生産									
										393	(323)県内における各種堆肥化システムの稼働実績と適応性の解明[H12～H13/(県単研究)]	飼料生産	<H13-指-52>酪農経営における攪拌型堆肥化施設の導入指針	飼料生産	
															394
			K-2-2-3	395	(H17-21)バイオガスプラント由来消化液の利用技術の確立[H17～H19/今達]	飼料生産									
										K-2-3-2	396	(723)戻し堆肥等の敷き料利用システムの確立[H13～H14/(県単研究)]	家畜育種	<H16-指-45>肉用牛肥育における戻し堆肥の敷き料利用性と堆肥化特性	家畜育種
			K-3-2-1	398	(327)寒冷地におけるケナフの栽培特性の解明[H12～H13/(県単研究)]	環境保全		<H14-行-14>岩手県の農業分野における窒素収支の特徴	環境保全						
			K-3-2-3	399	(872)水田の機能を活用した生物多様性保全技術の確立[H14～H16/県単研究]	環境保全		<H15-指-51>マルチプレッシャーを用いた農作物残渣の堆肥化と利用技術	土壌作物栄養						
			L-1-1-1	400	(H15-13)水田における要素反応試験[H15～H19 H16/県単研究]	土壌作物栄養		<H15-行-16>岩手県の畑作物における化学合成資材投入の実態	環境保全						
			L-1-1-1	401	(H17-14)マイクロ波処理による土壌可給態窒素の簡易推定法の確立[H17～H18/国庫助成]	土壌作物栄養		<H15-行-17>岩手県の野菜(葉菜・根菜類)における化学合成資材投入の実態	環境保全						
			L-1-1-2	402	(343)水稲の生育予測、栄養診断に基づく対応技術の確立[S47～H15/-]	水田作		<H15-行-18>岩手県の野菜(果菜類)における化学合成資材投入の実態	環境保全						
L-1-1-2	402	(343)水稲の生育予測、栄養診断に基づく対応技術の確立[S47～H15/-]	水田作		<H15-行-19>岩手県の果樹(りんご)における化学合成資材投入の実態	環境保全									
L-1-1-2	402	(343)水稲の生育予測、栄養診断に基づく対応技術の確立[S47～H15/-]	水田作		<H15-研-05>県内堆肥センター産堆肥を用いた水稲50%減化学肥料栽培の可能性	土壌作物栄養									
L-1-1-2	402	(343)水稲の生育予測、栄養診断に基づく対応技術の確立[S47～H15/-]	水田作		<H15-研-15>有機と慣行栽培圃場の土壌微生物性・化学性	環境保全									
L-1-1-2	402	(343)水稲の生育予測、栄養診断に基づく対応技術の確立[S47～H15/-]	水田作		<H16-指-07>窒素濃度の高い堆肥を用いた水稲50%減化学肥料栽培技術	土壌作物栄養									
L-1-1-2	402	(343)水稲の生育予測、栄養診断に基づく対応技術の確立[S47～H15/-]	水田作		<H16-指-35>窒素濃度の高い堆肥を用いたキャベツ、スイートコーン50%減化学肥料栽培技術	土壌作物栄養									
L-1-1-2	402	(343)水稲の生育予測、栄養診断に基づく対応技術の確立[S47～H15/-]	水田作		<H17-指-09>県北地域の水稲栽培における発酵豚ふん・鶏ふんの利用法	営農技術									
L-1-1-2	402	(343)水稲の生育予測、栄養診断に基づく対応技術の確立[S47～H15/-]	水田作		<H13-行-05>岩手県におけるケナの生育特性	環境保全									
L-1-1-2	402	(343)水稲の生育予測、栄養診断に基づく対応技術の確立[S47～H15/-]	水田作		<H16-研-39>県内水田・水路における水生生物相の特徴	環境保全									
(L)土壌作物栄養	(L-1)高品質、低コスト生産のための肥培管理技術の確立	L-1-1-1	400	(H15-13)水田における要素反応試験[H15～H19 H16/県単研究]	土壌作物栄養										
								L-1-1-2	402	(343)水稲の生育予測、栄養診断に基づく対応技術の確立[S47～H15/-]	水田作	<H15-普-02>「いわてっこ」の期待生育量と栽培法(一部改定)	営農技術		
L-1-1-2	402	(343)水稲の生育予測、栄養診断に基づく対応技術の確立[S47～H15/-]	水田作		<H15-普-03>「いわてっこ」の生育栄養診断基準	営農技術									

研究分野	重点目標	中課題 コード	小課題 (連番)	課題名(小課題のみ) (H11~H17)	小課題 主査研究室	成果名 (H11~H17)	成果 主査研究室
			403	(341)りんごの生育予測、栄養診断技術の確立[H09~H14/(国庫助成)]	土壌作物栄養	<H14-研-16>画像解析によるわし性台りんご樹の栄養診断法	土壌作物栄養
			404	(342)野菜、花き、畑作物の生育予測、栄養診断技術の確立[H11~H15/県単研究]	土壌作物栄養	<H11-指-30>小型反射式光度計による硝酸態窒素の簡易測定 <H15-研-16>夏秋どり露地きゅうり栽培における栄養診断部立	土壌作物栄養 土壌作物栄養
		L-1-1-3	405	(856)県内主要葉菜類の内部品質向上栽培技術の確立[H14~H17/-]	土壌作物栄養	<H16-指-31>0.4M硫酸抽出による雨よけほつれんそう土壌の窒素肥沃度簡易推定法 <H16-指-32>窒素肥沃度に応じた適正施肥で雨よけほつれんそうの体内硝酸イオン濃度が低減できる <H16-指-33>品種の選定と適正施肥によってキャベツの体内硝酸イオン濃度が低減できる <H16-研-17>レタスの体内硝酸イオン濃度の実態 <H17-指-30>0.4M硫酸抽出法による雨よけほつれんそう土壌の窒素肥沃度簡易推定法(追補) <H17-指-33>小型反射式光度計及び示差屈折計を用いたキャベツ体内成分の簡易測定法	土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養 保鮮流通技術
		L-1-2-0	406	(H16-22)新肥料の実用化[H16~H22/民間委託]	土壌作物栄養	<H16-研-18>硫酸カルシウム施用によるキャベツ心腐れ症状(加シム欠乏)の軽減効果 <H17-指-03>有機質肥料を使用した水稻育苗培土の実用性 <H17-指-34>畦立て同時条攪拌施用機によりキャベツの化学肥料を低減できる	産地育成 水田作 営農技術
		L-1-2-1	407	(345)新肥料の実用化[H12~H15/民間委託]	土壌作物栄養	<H14-普-05>発酵鶏糞主体の有機配合肥料による水稻減化学肥料栽培に対応した施肥法 <H15-研-06>水稻栽培における秋一発施肥法 <H16-研-18>硫酸カルシウム施用によるキャベツ心腐れ症状(加シム欠乏)の軽減効果	土壌作物栄養 営農技術 産地育成
			408	(868)新肥料の肥効検定他[H13~H15/-]	南部園芸		
			409	(870)水田における鶏糞の安全利用技術の確立[H13~H15 H14/民間委託]	営農技術		
		L-1-2-2	410	(346)土壌・施肥管理と水稻の生育反応[S44~H12/県単研究]	銘柄米開発		
		L-1-2-3	411	(347)肥効調節型肥料の導入技術の確立[H10~H14/(令達)]	土壌作物栄養	<H12-研-08>ピーマにおける肥効調節型肥料を利用した減肥技術 <H12-研-09>初期溶出抑制明肥効調節型肥料を利用したピーマの局所施肥技術 <H13-普-13>基肥一回無追肥によるピーマの減肥栽培	土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養
	(L-2)持続的 高生産方式の ための 土壌環境管理 技術及び土壌 環境資源の有 効利用技術の 確立	L-2-1-0	412	(H15-47)スキャナー利用による土壌全炭素・全窒素の簡易推定法の確立[H15~H16/令達]	土壌作物栄養	<H15-研-38>フットスキャ利用による土壌全炭素含量の簡易推定法 <H16-指-58>フットスキャを用いた土壌中全炭素・全窒素含量推定キットの開発	土壌作物栄養 土壌作物栄養
			413	(H16-23)県内水田の養分供給特性評価法の開発[H16~H18/国庫助成]	土壌作物栄養	<H17-指-11>リ酸緩衝液抽出法を用いた水田土壌におけるケイ酸施用法	土壌作物栄養
		L-2-1-2	414	(348)露地野菜・花き等の土壌管理技術の確立[H10~H14/(国庫助成)]	土壌作物栄養	<H12-指-30>採花年早生りんどうに対する石灰質資材施用効果	土壌作物栄養
		L-2-1-3	415	(325)水田地力富化の実態と適正施肥量指針策定[H07~H14/(令達)]	環境保全	<H11-指-27>堆きゅう肥利用に関する耕種農家の意向と流通促進方策	農業経営
			416	(350)施設野菜栽培土壌の塩類集積予防対策と土壌管理技術の確立[H05~H14/国庫助成]	土壌作物栄養	<H14-研-27>非イオン質黒クワ士における雨よけほつれんそうでのカク牛ふんたい肥の効果	土壌作物栄養
			417	(H15-21)県産農産物のカドミウム吸収抑制対策[H15~H17/国庫助成]	環境保全	<H16-研-05>生育期の茎葉カドミウム吸収量は玄米濃度と相関が高い <H17-指-06>県内水田における湛水管理による玄米カドミウム濃度低減効果 <H17-研-16>野菜類のカドミウム吸収特性	環境保全 環境保全 環境保全
		L-2-2-1	418	(328)連作障害発生要因の解明[H09~H13/(県単研究)]	環境保全	<H11-研-25>カネガカセチュウのりんご苗木に及ぼす影響	環境保全
			419	(862)作付け体系及び土壌管理と土壌生態系の関係の解明[H14~H18 H15/県単研究]	環境保全		
		L-2-2-2	420	(352)開発農地の土壌管理技術の確立[H09~H13/(県単研究)]	営農技術		

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11~H17)	小課題主査研究室	成果名(H11~H17)	成果主査研究室		
		L-2-2-3	421	(324)良質堆肥の有効利用技術の確立[H09~H14/-]	土壌作物栄養	<H12-指-44>平成12年度県内家畜ふんたい肥の成分特性 <H12-行-19>円形堆肥化装置の牛ふん尿堆肥化特性と導入条件 <H12-研-28>平成12年度県内家畜ふんたい肥の外観評価 <H13-指-57>家畜ふん堆肥の品質は外観やECにより簡易に評価できる <H13-指-58>家畜ふん堆肥の特性評価システム <H14-指-37>県内家畜ふん堆肥の成分特性の変化	土壌作物栄養 飼料生産 土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養		
		L-2-2-4	422	(319)家畜糞尿施用による水質汚染防止技術の確立[H09~H13/(令達)]	土壌作物栄養				
		L-2-3-1	423	(353)土壤中可給態窒素の簡易評価法の確立[H09~H13/(県単研究)]	土壌作物栄養	<H13-研-24>1日て出来る地力窒素の簡易評価法 <H14-指-12>SDS抽出法による土壌可給態窒素量の簡易測定法	土壌作物栄養 土壌作物栄養		
			424	(873)水田蓄積養分利用による減肥技術[H14~H15/国庫助成]	土壌作物栄養	<H15-指-10>リ酸緩衝液抽出法による可給態リ酸測定法 <H15-指-12>春先の降水量からの乾土効果発現予測	土壌作物栄養 土壌作物栄養		
		L-2-3-2	425	(356)水田土壌における蓄積養分の有効利用法[H08~H12/国庫助成]	営農技術	<H11-普-18>土壌蓄積リ酸を活用した水稲のリ酸施肥基準 <H11-研-18>水稲初期育成に対するリ酸施肥の効果	土壌作物栄養 土壌作物栄養		
			426	(355)土壌蓄積養分の有効利用法[H09~H13/(県単研究)]	土壌作物栄養	<H13-指-09>土壌中加40mg以上で水稲無加栽培ができる	土壌作物栄養		
			427	(357)畑土壌における土壌中可給態窒素含量と作物生育との関係解明[H09~H13/(県単研究)]	土壌作物栄養				
		(L-3)土壌・作物栄養情報の高度化に対応した土壌及び作物栄養管理技術の確立	L-3-1-1	428	(359)リモートセンシング技術等による生育栄養診断技術の開発[H08~H11/国庫助成]	土壌作物栄養	<H11-研-19>近接リモセンシングによる水稲の生育予測	土壌作物栄養	
			429	(358)生産環境情報利用技術の開発[H11~H12/国庫助成]	土壌作物栄養				
			L-3-2-2	430	(H15-23)土壌機能実態モニタリング調査[H15~H22/国庫助成]	土壌作物栄養			
		(M)病害虫制御	(M-1)病害虫制御技術開発を支援するための病害虫発生生態の解明	M-1-0-0	431	(H17-27)キュウリホモブシス根腐病解決による露地夏秋キュウリ安定生産技術の確立[H17~H19/国庫委託]	病理昆虫		
				M-1-1-1	432	(375)ダイコン白斑病の防除技術[H09~H11/県単研究]	病害虫		
					433	(370)りんごのカメムシ類の発生生態と防除法[H09~H13/(国庫助成)]	病理昆虫		
	434			(371)花き類の新奇病害虫の発生生態把握及び防除技術の開発[H09~H13/(県単研究)]	病理昆虫	<H12-研-16>りんどうこぶ症の発生特徴 <H14-指-25>育苗中のりんどう苗を加害するカメムシ類の防除対策	病害虫 病理昆虫		
	435			(372)新奇侵入病害虫の診断法と発生生態の解明[H09~H17/国庫助成]	病理昆虫	<H12-指-31>杉炭化病の発生実態と対策 <H12-研-07>JM7 台木に発生したリンドウ根頭がんしゅ病の病徴と診断法 <H16-指-26>キュウリホモブシス根腐病に対する耐病性台木と薬剤による総合防除効果 <H16-指-37>加比クソくん蒸剤の新剤型「F0-剤」のかん水チューブを用いた簡便な処理方法 <H16-指-41>イバフェンスネグティブウイルス(INSV)による鉢物リンドウの新ウイルス病「えそ斑紋病」の発生 <H17-指-40>イバフェンスネグティブウイルス(INSV)によるリンドウえそ斑紋病の発生生態と防除対策 <H17-指-41>リンドウ炭疽病の発生生態と防除対策 <H17-指-44>施設花きにおけるイバフェンスネグティブウイルス(INSV)の多発環境	病害虫 病害虫 病理昆虫 病理昆虫 病理昆虫 病理昆虫 病理昆虫 病理昆虫 病理昆虫		
	436			(373)斑点米カメムシの発生生態解明と防除法の確立[H12~H14/(国庫助成)]	病理昆虫	<H13-指-13>アサギカメムシの越冬世代は耕起により減少する	病理昆虫		

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11~H17)	小課題主査研究室	成果名(H11~H17)	成果主査研究室		
		M-1-1-2	437	(716)中山間地域特産物及び花き類の新奇病害虫の生態把握及び防除技術の開発[H13~H15/県単研究]	営農技術	<H16-普-20>メカにおけるワグリアの加害生態と防除方法	営農技術		
			438	(H15-27)りんどう葉枯れ症状の原因解明と防除法[H15~H17/県単研究]	病理昆虫	<H15-普-25>ワグリア黒斑病の発生生態と防除対策 <H17-指-42>ワグリア黒斑病の発生特徴と防除対策	病理昆虫 病理昆虫		
			439	(377)フザリウム病の発生生態の解明[H08~H11/国庫助成]	病害虫	<H11-指-31>夏穫りほうれんそうにおける萎ちょう症状の産地別発生要因	病害虫		
			440	(379)トマト黄化えそウイルス防除技術の開発[H10~H12/国庫助成]	病害虫	<H11-指-34>カキヤンザミの発生調査法 <H12-指-20>ビーマ黄化えそ病の発生特徴と伝染源	病害虫 病害虫		
			441	(731)なす科野菜における青枯病総合防除技術の確立[H13~H15/国庫助成]	病理昆虫	<H14-指-19>トマト青枯病は初発株を除去すると被害拡大を回避できる	病理昆虫		
			442	(733)リンゴ根頭がんしゅ病の発生生態と診断技術[H13~H15/県単研究]	病理昆虫	<H14-指-16>りんご苗木に発生した根頭がんしゅ病の発生原因と防除対策	病理昆虫		
			443	(734)キク矮化ウイルスの遺伝子診断法の確立[H13~H14/(県単研究)]	病理昆虫	<H13-指-34>ハイリダ化ノシ法によるウイルスの検出	病理昆虫		
			444	(H15-26)りんごカメムシ類の発生生態と効率的防除法の確立[H15~H17/国庫助成]	病理昆虫				
			M-1-1-3	445	(380)イネばか苗病菌[S53~H12/国庫助成]	病害虫			
				446	(381)りんご斑点落葉病菌[H05~H12/国庫助成]	病害虫			
		447		(382)薬剤耐性菌検定[H12~H15/国庫助成]	病理昆虫	<H13-指-10>キノコ酸耐性酵母枯細菌の発生と防除対策	病理昆虫		
		448		(893)薬剤抵抗性発現害虫の実態と対策[H13~H15/国庫助成]	病理昆虫				
		M-1-2-1	449	(384)園芸作物(りんどう)病害虫発生予察[H02~H09/-]	病害虫				
			450	(387)水稲病害虫発生予察支援システムの確立[H08~H11/国庫助成]	病害虫				
			451	(H09-03)【植物防疫事業研究】[H09~H22/国庫助成]	病理昆虫	<H17-研-20>ワグリアの寄生性天敵	病理昆虫		
			452	(735)リンゴ炭そ病の発生予察技術の開発[H13~H15/国庫助成]	病理昆虫	<H13-指-21>りんご幼果に発生した炭そ病の発生特徴と伝染源	病理昆虫		
		M-1-2-2	453	(389)野菜花き病害虫の発生・防除時期予測システムの開発と実証[H10~H14/(国庫助成)]	病理昆虫	<H13-指-37>りんどう黒斑病の発生生態と防除時期 <H14-研-30>りんどうの新病害"黒斑病"の発生状況	病理昆虫 病理昆虫		
			454	(388)イネいもち病の省力的予察法の確立及び広域実証[H12~H15 H14/(国庫助成)]	病理昆虫				
			455	(752)害虫発生予察支援システムの開発[H13~H17 H15/県単研究]	営農技術	<H13-指-32>岩手県におけるワグリアの発生生態	営農技術		
		(M-2)持続性の高い農業生産の展開を目指した病害虫制御技術の確立	M-2-1-1	456	(392)あずきウイルス病抵抗性検定試験[S53~H17 H14/国庫委託]	病理昆虫			
				457	(393)トウモロコシすす紋病抵抗性検定試験[S33~H13/(国庫委託)]	病理昆虫			
				458	(394)ソルガムすす紋病抵抗性検定試験[S37~H13/(国庫委託)]	病理昆虫			
				459	(H16-24)岩手オリジナル品種のいもち病圃場抵抗性を利用した防除体系の確立[H16~H18/国庫助成]	病理昆虫			
				M-2-1-2	460	(395)水稲病害虫の防除要否判定技術の確立[H08~H11]	病害虫		
					461	(396)灰色かび病、葉かび病等の温湿度コントロールによる制御技術[H09~H11/国庫助成]	病害虫	<H11-普-20>簡易湿度コントロール装置によるワグリアの湿度制御と灰色かび病防除効果	病害虫
					462	(H15-25)斑点米カメムシ類の総合的防除技術の組み立て[H15~H16/県単研究]	病理昆虫	<H16-指-12>発生環境(水田雑草、割れ物の多少)に応じた斑点米防止対策 <H17-指-08>発生環境(水田雑草、割れ物の多少)に応じた斑点米防止対策(追補)発生生態からみたワグリアの重点防除時期	病理昆虫 病理昆虫
				M-2-1-3	463	(398)東北北部中山間畑作地帯におけるキャベツの環境保全型栽培技術の確立[H10~H14/(国庫助成)]	営農技術	<H12-普-17>キャベツ根こぶ病に対するおとり作物としてのエビノク(イオウ)の効果と利用法 <H13-研-09>キャベツ産地における根こぶ病菌密度-発病曲線(DRC) <H14-普-19>交信攪乱剤利用によるキャベツのワグリア防除	営農技術 営農技術 営農技術

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11~H17)	小課題主査研究室	成果名(H11~H17)	成果主査研究室
	(M-3)高品質・省力・低コスト安定生産のための病害虫防除技術の確立	M-3-1-1	464	(399)水稲主要病害虫の省力防除技術の確立[H06~H11/国庫助成]	病害虫	<H14-研-25>菌密度-発病度曲線(DRC)を利用したキャベツ根こぶ病防除要否の判定法	営農技術
			465	(401)野菜病害虫の体系防除技術の確立と実証[H05~H12/国庫助成]	病害虫	<H12-指-07>いもち病防除を対象とした育苗箱施用剤の持続効果	病害虫
			466	(400)リンゴ病害虫の省農薬防除体系の確立[H10~H12/国庫助成]	病害虫	<H12-普-15>ストロベリー系殺菌剤耐性生菌と病菌の発生と対策	病害虫
			467	(838)リンゴ紫紋羽病の発生実態と新たな防除法の開発[H14~H16 H15/県単研究]	病理昆虫	<H12-指-13>りんご各種殺菌剤に対するボリジエン脂肪酸エステル系展着剤の添加効果	病害虫
			468	(H15-29)内分泌攪乱作用が懸念される農薬を使用しない病害虫防除技術の確立[H15~H17/-]	病理昆虫	<H12-指-13>りんご各種殺菌剤に対するボリジエン脂肪酸エステル系展着剤の添加効果	病害虫
		M-3-1-2	469	(402)新農薬の効果検定と防除基準作成[H09~H22/-]	病理昆虫	<H15-普-16>フロアジラム水和剤によるリンゴ紫紋羽病の防除	病理昆虫
			<H11-普-19>平成12年度病害虫防除基準に採用した主な殺虫剤、殺菌剤	病害虫			
			<H11-指-33>アサギムシによる斑点米被害と水田内ヒメと関係	病害虫			
			<H12-普-16>生物農薬「非病原性」の「アガホー」製剤の特性と使用上の留意点	病害虫			
			<H12-普-29>平成13年度病害虫防除基準に採用した主な殺虫剤、殺菌剤	病害虫			
			<H13-普-06>生物農薬「シュート」EAS CAB-02水和剤の特性と使用上の留意点	病理昆虫			
			<H13-普-14>トビシロシロ粉剤の土壌混和によるリンゴ枯病の防除法	病理昆虫			
			<H13-普-31>平成14年度病害虫防除基準に採用した主な殺虫剤、殺菌剤	病理昆虫			
			<H13-指-11>加ブ「ミ」粒剤の播種時施用法によるいもち病防除体系	病理昆虫			
			<H13-指-12>水稲初期害虫を一齐防除した翌年は防除の必要はない	病理昆虫			
			<H13-指-28>施設「マ」における近紫外線フィルムによる害虫密度抑制効果	病理昆虫			
			<H13-指-33>畑わさびの新害虫「シロ」の生態と防除対策	病理昆虫			
			<H14-普-06>生物農薬「シュート」EAS CAB-02水和剤の特性と使用上の留意点(追補)	病理昆虫			
			<H14-普-07>イ「シ」水和剤による水稲種子の大量消毒法	病理昆虫			
			<H14-普-15>落花期-6月下旬におけるリンゴ褐斑病の防除	病理昆虫			
			<H14-普-30>平成15年度病害虫防除基準に採用した主な殺虫剤、殺菌剤	病理昆虫			
<H14-研-22>メ「ク」腐敗病に対する数種薬剤の防除効果	病理昆虫						
<H15-普-06>生物農薬「シロ」EAS CAB-02水和剤の特性と使用上の留意点	病理昆虫						
<H15-普-36>平成16年度病害虫防除基準に採用した主な殺虫剤、殺菌剤	病理昆虫						
<H15-指-08>平成15年におけるいもち被害と玄米収量の関係	病理昆虫						
<H16-普-03>生物農薬「シュート」EAS CAB-02水和剤の特性と使用上の留意点(追補)	病理昆虫						
<H16-普-04>生物農薬「シロ」EAS CAB-02水和剤の特性と使用上の留意点(追補)	病理昆虫						
<H16-普-05>箱施用剤の新剤型「顆粒水和剤」のいもち防除効果と使用上の留意点	病理昆虫						
<H16-普-29>平成17年度病害虫防除基準に採用した主な殺虫剤、殺菌剤	病理昆虫						
<H16-指-08>生物農薬「シロ」EAS CAB-02水和剤(粉状タイプ)の特性と使用上の留意点	病理昆虫						
<H16-行-16>農薬使用基準「エックス」(Ai.Noh)の開発	病理昆虫						
<H17-普-22>平成18年度病害虫防除基準に採用した主な殺虫剤、殺菌剤	病理昆虫						

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11~H17)	小課題主査研究室	成果名(H11~H17)	成果主査研究室							
		M-3-1-3	470	(842)りんどうの萎縮症状の原因解明[H14~H16 H15/県単研究]	病理昆虫									
			471	(H15-28)地域特産物における新防除資材の実用化[H15~H18 H19/-]	病理昆虫	<H15-指-22>赤アうどんこ病の新奇発生と防除対策	病理昆虫							
			472	(506)昆虫寄生糸状菌を利用した害虫防除技術の確立[H08~H12/県単研究]	病害虫									
			M-3-2-1	473	(H08-01)フェロモンを利用した害虫防除技術の確立[H08~H12/国庫助成]	病害虫								
				474	(715)病害虫総合防除技術の開発[H13~H15/国庫助成]	病理昆虫	<H15-普-05>数年一度の地域一斉防除で水稻初期害虫を防除できる	病理昆虫						
			475	(730)きゅうりにおける総合的病害防除技術の確立[H13~H15/国庫助成]	病理昆虫	<H13-指-25>病勢進展からみたくゅうり推奨品種「夏ばやし」のべと病うどんこ病耐病性	病理昆虫							
						<H14-指-17>キュウリべと病急増初期のジストロフィ水和剤散布は発病増加を抑制できる	病理昆虫							
						<H14-指-18>キュウリうどんこ病の増加は炭酸水素塩剤散布により抑制できる	病理昆虫							
						<H14-研-17>露地きゅうり病害の総合防除	病理昆虫							
						<H14-研-19>弱毒ウイルス接種苗の利用によるキュウリバク病の防除効果	病理昆虫							
						<H15-指-28>耕種的対策と薬剤防除によるキュウリ炭そ病の病勢進展阻止効果	病理昆虫							
						<H15-研-14>りんごにおける病害虫防除回数削減プログラム	病理昆虫							
			476	(741)複合交信攪乱剤利用りんご園における散布回数削減病害虫防除体系の確立と実証[H13~H15/県単研究]	病理昆虫									
			477	(H16-25)りんごにおける病害虫総合防除技術の開発[H16~H18 H19/国庫助成]	病理昆虫	<H16-普-17>リンゴ炭疽病に対する幼果期防除の有効性	病理昆虫							
<H16-普-18>マイマキカボガビ剤を利用したモジカガビ防除方法と使用上の留意点	病理昆虫													
<H16-指-20>りんご着果痕を伝染源とする炭疽病の発生生態	病理昆虫													
478	(H16-26)施設ピーマンにおける病害虫総合防除技術の実証[H16~H18/国庫助成]	病理昆虫												
479	(H16-27)露地きゅうりにおける病害虫総合防除技術の現地実証[H16~H18/国庫助成]	病理昆虫												
(N)農業農村構造と経営管理	(N-1)農業・農村構造の動きに合わせたシステムの解明と方向性の提示	N-1-1-0	480	(420)地域農業計画診断システムの開発に関する研究[H09~H13/(県単研究)]	農業経営	<H11-普-17>農業経営設計システム「クボ」博士	農業経営							
						<H13-研-23>市況情報分析システム	農業経営							
						N-1-2-1	481	(421)畑地かんがい地域における野菜・花きを組み入れた高収益モデル実証[H10~H12/県単研究]	農業経営	<H11-指-27>堆きゅう肥利用に関する耕種農家の意向と流通促進方策	農業経営			
										<H12-指-09>水稻における岩手町大規模養豚団地産養豚豚ふんの利用法	営農技術			
										<H12-指-22>キャベツ及びスイートコーンにおける岩手町大規模養豚団地産養豚豚ふんの利用法	営農技術			
						N-1-2-2	482	(729)県南部沿岸地域の小規模農業地域における地域農業再編モデルの策定[H13~H15/県単研究]	農業経営					
						N-1-2-3	483	(422)作業外部化による畜産生産方式の解明[H09~H11/県単研究]	農業経営					
										484	(H16-03)大規模酪農経営体(メガファーム)の成立条件の解明[H16~H18/県単研究]	農業経営	<H16-指-47>酪農における農業生産法人の経営管理の実態と課題	農業経営
													<H17-研-24>ミルク離脱早期化による泌乳速度改善	家畜飼養
						485	(H17-01)和牛繁殖を基幹とする経営体の成立条件の解明[H17~H19/県単研究]	農業経営	<H17-指-48>規模拡大に向けた和牛繁殖経営の実態と課題	農業経営				
						N-1-3-1	486	(423)大区画ほ場整備地区における園芸(サトイモ)・水稻複合型集落営農モデルの実証[H10~H12/県単研究]	農業経営					
						N-2-1-1	487	(424)企業的経営体の展開条件と支援方策[H09~H11/県単研究]	農業経営	<H11-研-17>水田作経営体の経営展開の実態	農業経営			
										488	(425)大規模水田営農モデルの策定[H10~H12/県単研究]	農業経営		
										489	(700)主業型農家の経営発展過程分析による育成支援方策の解明[H13~H15/県単研究]	農業経営	<H13-行-10>主業型農家経営実態調査(1)主業型農家における経営管理の実施状況	農業経営

研究分野	重点目標	中課題 コード	小課題 (連番)	課題名(小課題のみ) (H11～H17)	小課題 主査研究室	成果名 (H11～H17)	成果 主査研究室
						<H13-行-11>主業型農家経営実態調査(2)主業型農家における農業情報入手先及び必要とする情報	農業経営
						<H13-行-12>主業型農家経営実態調査(3)経営者としての考え方及び将来の経営意向	農業経営
						<H14-行-06>野菜作経営を対象とした労力支援事業の取り組み状況	農業経営
						<H14-研-01>大型水田作法人経営の機械作業を効率的に行つポイント	農業経営
						<H14-研-02>水田作を主とする農業生産法人の経営発展に伴う組織形成	農業経営
						<H15-指-18>県北部を中心とした葉たばこ農家の経営発展と支援方策	農業経営
						<H15-指-27>野菜作経営における雇用労力活用のポイントと効果	農業経営
						<H15-指-40>主業型農家の経営変遷から捉えた酪農経営支援方策	農業経営
						<H11-行-13>新規参入就農者の就農動機	農業経営
						<H12-行-16>青年農業者の就農要因及び支援方策	農業経営
	N-2-2-1	490	(426)新規就農青年の経営発展と支援方策[H11～H13/(県単研究)]	農業経営			
(N-4)開発技術の評価と定着方策の提示	N-4-2-2	491	(H17-43){postH16-43-3000}寒締め栽培を取り入れたホウレンソウ周年栽培経営成立条件の解明[H16/H17～H18 H17/県単研究]	農業経営			
(N-5)県産農畜産物の販売戦略の構築	N-5-1-0	492	(428)農産物の市場動向分析[H13～H22 H17/県単研究]	農業経営	<H11-行-08>需要拡大に向けた「ブレイク」切り花りんどうの草姿と販売戦略 <H11-行-09>首都圏と盛岡市におけるりんごの嗜好度について <H11-行-10>日本短角牛肉に関する県内外食産業・精肉店の意向 <H11-行-12>なばな「はるの輝」の購買決定要素 <H11-研-16>ピツ系切り花りんどうの需要動向分析 <H12-行-11>推進野菜品目の需要動向 <H12-研-12>アルゴ・マトファ利用の花の用途と形態 <H13-指-41>花壇苗の市場「タ」から見た需要動向 <H13-研-18>切り花の市場別・品目別有利販売特異日の検索	農業経営	農業経営 農業経営 農業経営 農業経営 農業経営 農業経営 農業経営 農業経営 農業経営
	N-5-2-1	493	(701)担い手の販売能力高度化に対応した産地の成立条件の解明[H13～H15/県単研究]	農業経営	<H13-行-13>流通構造の変化に対応した他県野菜産地の動き	農業経営	
	N-5-2-2	494	(429)広域合併農協の農産物販売方策[H10～H11/県単研究]	農業経営			
	N-5-3-1	495	(483)地域資源を活用した高付加価値農産物の生産・流通システムの確立[H11～H15/-]	農業経営	<H11-指-23>県北地域における「グランド」が「ブ」の有望品目とその特性 <H11-指-24>土地利用型花木(ツバキ、ハナノ)の栽培方法と出荷時期 <H11-指-28>農産物直売所に対する利用客の購買行動と意識 <H11-行-07>農産物直売所を対象とした有機農産物等の取り組み実態と消費者の意識 <H13-普-09>ひえの無農薬水田移植栽培技術 <H13-指-18>あわにおけるアマガの加害生態 <H13-指-40>中山間地域に適した宿根草・花木の特性 <H13-研-02>ひえ、あわ、きびの「でんぶん」特性 <H13-研-22>特産品開発にあたっての試食による評価測定 <H14-普-11>ひえの乾燥・調製技術 <H14-指-23>県北地域における「マ」の冬期安定生産技術 <H14-指-24>中山間地域の生産に適する宿根草・花木の実需者「ズ」 <H14-行-13>特産品づくりの「ポイント」	産地育成 産地育成 農業経営 農業経営 やませ利用 営農技術 産地育成 保鮮流通技術 農業経営 営農技術 産地育成 農業経営 農業経営	

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11~H17)	小課題主査研究室	成果名(H11~H17)	成果主査研究室
						<H14-研-09>雑穀に関する技術開発等の視点 <H14-研-10>ひえ、あわ、きびの精白による成分の変動 <H14-研-28>枝物・花木の実需者の仕入特性 <H15-普-13>白干しひえの粒形を残したイトル粥の製造技術 <H15-普-22>簡易被覆による刈刈の早出し継続出荷技術 <H15-指-34>大消費地に向けた刈刈の出荷荷姿の提示 <H15-指-37>中山間地域に適した宿根草・枝物の品目別収益性 <H15-研-25>Web上での宿根草枝物花木流通支援システムの導入条件 <H15-研-39>テキストマイニングとキーワードマッピングによる消費者評価分析の商品開発への適用	農業経営 新鮮流通技術 農業経営 新鮮流通技術 産地育成 農業経営 産地育成 農業経営 農業経営
		N-5-3-3	496	(H15-03)食品産業との連携等による農産物加工品の商品化条件の解明[H15~H16/県単研究]	農業経営		
	(N-6)産地マーケティング手法の開発	N-6-1-2	497	(483)地域資源を活用した高付加価値農産物の生産・流通システムの確立[H11~H15/国庫助成]	農業経営	<H11-指-23>東北地域における「ラウンド加工」プラウの有望品目とその特性 <H11-指-24>土地利用型花木(ツルナ、ミバウ)の栽培方法と出荷時期 <H11-指-28>農産物直売所に対する利用客の購買行動と意識 <H11-行-07>農産物直売所を対象とした有機農産物等の取り組み実態と消費者の意識 <H13-普-09>ひえの無農薬水田移植栽培技術 <H13-指-18>あわにおけるアノミカの加害生態 <H13-指-40>中山間地域に適した宿根草・花木の特性 <H13-研-02>ひえ、あわ、きびのでんぷん特性 <H13-研-22>特産品開発にあたっての試食による評価測定 <H14-普-11>ひえの乾燥・調製技術 <H14-指-23>東北地域におけるマツタケの冬期安定生産技術 <H14-指-24>中山間地域の生産に適する宿根草・花木の実需者ニーズ <H14-行-13>特産品づくりのキーワード <H14-研-09>雑穀に関する技術開発等の視点 <H14-研-10>ひえ、あわ、きびの精白による成分の変動 <H14-研-28>枝物・花木の実需者の仕入特性 <H15-普-13>白干しひえの粒形を残したイトル粥の製造技術 <H15-普-22>簡易被覆による刈刈の早出し継続出荷技術 <H15-指-34>大消費地に向けた刈刈の出荷荷姿の提示 <H15-指-37>中山間地域に適した宿根草・枝物の品目別収益性 <H15-研-25>Web上での宿根草枝物花木流通支援システムの導入条件 <H15-研-39>テキストマイニングとキーワードマッピングによる消費者評価分析の商品開発への適用	産地育成 産地育成 農業経営 農業経営 やませ利用 営農技術 産地育成 新鮮流通技術 農業経営 営農技術 産地育成 農業経営 農業経営 新鮮流通技術 農業経営 産地育成 農業経営 農業経営 農業経営
		N-6-3-1	498	(H15-02)産地直売施設における情報活用法の解明[H15~H16 H15/県単研究]	農業経営	<H15-普-37>産地直売施設における生産流通支援システムの導入効果	農業経営
(0)生産システム	(0-1)省力化・軽労化・安全化のための革新的生産システムの確立	0-1-1-1	499	(440)大区画(ほ場)営農に対応した低コスト・省力技術体系の確立[H09~H13/(県単研究)]	生産工学	<H11-指-02>岩手県の農業用水の水温実態	水田作
						<H11-指-05>大区画圃場における流入専用肥料施用法-液肥-(追補)	生産工学

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11～H17)	小課題主査研究室	成果名(H11～H17)	成果主査研究室				
	(0-2)機械化等革新技術導入による省力機械化技術の確立	0-1-2-1	500	(441)労働強度・機械作業安全性の解析と改善技術の確立[H09～H13/(単単研究)]	生産工学	<H11-行-03>レーザ均平機を用いた均平作業能力	生産工学				
						<H12-行-09>ほ場均平度自動測定システムの開発・改良	生産工学				
						<H13-普-30>農業機械・作業技術関連成果・文献等検索システム	生産工学				
						<H13-指-01>水稲湛水直播における無人刈り取りの作業性能	生産工学				
						<H12-研-27>農作業に適した作業負担評価方法の開発	生産工学				
		0-2-1-1	501	(442)新側条施肥体系の確立[H11～H14 H13/(民間委託)]	生産工学	<H13-指-54>農作業改善のための労働負担測定評価方法マニュアル	生産工学				
						<H13-行-14>農作業事故事例データベースと事故防止対策	生産工学				
		0-2-1-2	502	(706)県北部を対象とした水稲低コスト生産システムの開発[H13～H15 H14/(単単研究)]	営農技術						
						503	(817)水稲育苗ハウスを利用した野菜・花きの簡易な水耕栽培技術の確立[H14～H16 H15/(単単研究)]	生産工学			
		0-2-1-3	504	(836)ホウレンソウの機械収穫に適した品種の選定[H14～H17/国庫委託]	営農技術	<H17-研-13>機械収穫に適したほうれんそうの形質	営農技術				
						<H17-研-14>ほうれんそう種子特性と生育の関連	営農技術				
						<H17-研-15>ほうれんそう収穫時の草丈分布の特徴と一斉収穫の可能性	営農技術				
		0-2-1-3	505	(H17-06)畑作物における効果的機械的株間除草方式の開発改良[H17～H20/単単研究]	生産工学	<H17-指-21>畑地用回転カウ型株間除草機の特性と除草効果	生産工学				
						506	(H17-08)土壌硬化剤「マグホワイト」の寒冷地における利用技術の開発[H17～H20/単単研究]	生産工学			
		0-2-2-1	507	(444)寒冷地・大区画ほ場でのロングマット水耕育苗技術と移植・栽培技術の開発[H12～H14/(国庫助成)]	生産工学	<H12-行-07>水稲ロングマット水耕育苗法	生産工学				
<H13-指-03>もみがら成型マットでの育苗方法と成型機の導入条件	生産工学										
(P)農村整備	(P-1)農村の生産・生活基盤の合理的な整備方式の確立	P-1-1-1	508	(H15-07)農作業事故防止のための基盤整備手法[H15～H17/単単研究]	生産工学	<H17-行-12>進入路の現状と農作業安全に配慮した設計上の留意点	生産工学				
						P-1-3-2	509	(471)ほ場整備地区における多面的効果測定法の開発[H10～H12/単単研究]	農業経営	<H12-行-01>圃場整備地区における水路・法面などの維持管理の状況と課題	農業経営
			<H12-研-01>圃場整備事業地区にみられる組織営農の評価と課題	農業経営							
	(P-2)高生産性ほ場の効率的な管理技術の確立	P-2-1-1	510	(H15-51)水田除草機性能確認試験[H15～H15/民間委託]	生産工学						
						P-2-1-2	511	(461)泥炭土層における地耐力向上技術の確立[H09～H11/令達]	生産工学	<H11-行-02>泥炭水田への客土による作業性向上効果	生産工学
										512	(732)傾斜地畑の土壌流出防止工法の確立[H13～H15/令達]
		513	(H16-58)ほ場整備直後の明きょ掘削効果[H16～H18/令達]	生産工学							
		P-2-2-1	514	(463)ほ場条件に対応した水管理システムの確立[H09～H14 H13/(令達)]	生産工学	<H13-指-05>水田における暗渠排水の最適被覆材の評価	生産工学				
						<H13-行-01>大区画ほ場等整備技術の検証結果と活用方法	生産工学				
		515	(895)輪換畑ほ場における暗渠排水管を利用した地下かんがい及び排水技術の確立[H14～H16/令達]	生産工学	<H16-研-37>暗渠と明渠を組み合わせた簡易な水田ほ場地下水制御方法	生産工学					
		P-2-2-2	516	(465)北東北重粘土地帯における暗渠排水技術の確立[H12～H14/(国庫助成)]	生産工学	<H14-指-08>ドレイル-工法による暗渠排水技術	生産工学				
		P-2-3-1	517	(466)大規模・大区画ほ場における生産管理のシステム化[H09～H13/(令達)]	生産工学	<H13-指-02>畦畔被覆材の施工比較	生産工学				
	<H13-行-01>大区画ほ場等整備技術の検証結果と活用方法					生産工学					
	(P-3)本県の風土条件に適した農村整備手法の確立	P-3-1-1	518	(800)環境に配慮した農村整備手法の確立[H14～H16/単単研究]	生産工学						

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11～H17)	小課題主査研究室	成果名(H11～H17)	成果主査研究室	
			519	(852)寒冷地におけるグラウンドカバープランツの動力吹付緑化工法の実証[H14～H17/令達]	生産工学	<H16-行-07>グラウンドカバープランツの動力吹付緑化工法の評価	生産工学	
			520	(H17-07)農業農村整備事業における水路に生息する生物の保全手法と評価[H17～H21/令達]	生産工学	<H17-指-47>グラウンドカバープランツとしてのイマジナリイの法面被覆効果	生産工学	
(Q)水田農業	(Q-1)水田における畑作物の安定生産技術の確立	Q-1-1-1	521	(H17-10)水田における小麦・大豆の湿害回避技術の確立実証[H17～H19/県単研究]	野菜畑作	<H17-指-18>水田大豆の湿害を回避する小畦立て播種栽培-播種機の改良点と大豆生育に対する効果- <H17-指-22>水田転換畑の排水対策加- <H17-指-29>えだまめハーベスタの特性と導入の目安	野菜畑作 生産工学 生産工学	
			522	(467)転作畑の機械化-貫作業体系の実証[H10～H11/県単研究]	生産工学	<H11-指-07>転作田での弾丸暗渠と明渠の組合せによる営農排水効果	生産工学	
			523	(468)大規模水田地帯における転作営農の確立[H10～H11/県単研究]	農業経営	<H11-指-26>水田における大規模大豆団地形成のための取り組み <H11-研-09>県南部における大規模水田輪作の技術的課題	農業経営 野菜畑作	
		Q-1-1-2	524	(H16-01)水田農業改革における集团的営農システムの実践条件の解明[H16～H17/県単研究]	農業経営	<H16-指-01>水田作を中心とした集落型法人の課題と展開方向	農業経営	
(R)地域活性化	(R-1)付加価値の高い農業生産方式の提示	R-1-3-1	525	(470)中山間地域活性化戦略の確立に関する研究[H11～H13/(県単研究)]	農業経営	<H12-研-26>直売所におけるレジスタ-POSデータの販売管理への活用方法	農業経営	
			R-2-2-2	526	(702)中山間地域等直接支払制度の活用方策の解明[H13～H15 H14/県単研究]	農業経営	<H14-行-01>中山間地域等直接支払制度による集落類型別の活動の特徴	農業経営
				527	(472)都市との交流による地域活性化方策の解明[H09～H11/県単研究]	農業経営		
				528	(473)都市との交流による地域活性化方策の解明[H09～H12/県単研究]	農業経営	<H12-行-15>グリーンツーリズム情報検索システム	農業経営
(S)やませ利用と中山間地域対策	(S-1)地域特性を發揮した農業生産システムの開発	S-1-1-2	529	(482)畑地かんがい地帯における野菜・花き等を組み入れた高収益モデル実証[H13～H15/県単研究]	営農技術	<H11-行-16>県北地域における異常高温による露地野菜への影響と畑地かんがいの効果 <H15-普-24>なかいも栽培における岩手町大規模養豚団地産発酵豚ぶんの利用法	営農技術 営農技術	
			530	(171)大規模畑作における輪作を基本とした園芸作物の普及型安定生産技術体系の確立[H13～H15/県単研究]	やませ利用			
		S-1-1-3	531	(484)県北中山間地域における花き品目導入による農業経営の確立実証(一戸町小友地区)[H09～H14/県単研究]	産地育成	<H12-指-32>ガーデン用素材としての中輪系シクラメの栽培法 <H12-研-17>秋だしパツの品種組み合わせによる作期拡大の可能性	産地育成 産地育成	
	S-2-2-1	532	(713)雨よけほうれんそう大型経営体育成のための技術確立[H13～H15/県単研究]	産地育成	<H14-普-20>ほうれんそう計量・包装機の作業特性と省力効果 <H15-指-31>ほうれんそうの調製機適応性判定指標 <H15-研-18>遮光がほうれんそうの生育に及ぼす影響	営農技術 産地育成		
		533	(717)ほうれんそう収穫機械の開発改良[H13～H14/民間委託]	営農技術				
(T)生物機能活用	(T-1)繭・繭糸素材の新需要の創出及び市場産品の開発	T-1-1-1	534	(491)座繰り糸・つむぎ糸等の生産・加工技術[H10～H12/令達]	蚕桑技術	<H11-普-16>家蚕繭層を利用したつむぎ糸の製造方法 <H12-指-33>座繰り糸・つむぎ糸による製品製作	蚕桑技術 蚕桑技術	
			535	(496)地域適応性糸品種選抜と栽培法確立[H06～H11/令達]	蚕桑技術			
			536	(493)人工飼料を導入した多回育による高品質安定化[H10～H12/令達]	蚕桑技術			
			537	(492)需要動向を見極めた繭・糸・桑の生産技術開発[H13～H14 H13/(県単研究)]	病理昆虫	<H11-普-15>安価で使いやすい天蚕採卵容器	蚕桑技術	
		T-1-1-2						

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11~H17)	小課題主査研究室	成果名(H11~H17)	成果主査研究室						
						<H11-研-15>数種三眠蚕品種と四眠蚕品種「日202号」の交雑種製造と交雑種の飼育技術	蚕桑技術						
						<H12-指-34>交雑三眠蚕を利用した細繊維繭糸素材の生産技術	蚕桑技術						
						<H12-研-18>極細繊維三眠蚕「OK39」の性状	蚕桑技術						
						<H12-研-19>三眠蚕品種と四眠蚕品種「日202号」の交雑種・色繭の色素退色防止法	蚕桑技術						
						<H13-指-56>繭生産者が容易に自家採卵できる細繊維白繭三眠蚕の作出	病理昆虫						
		T-1-1-3	538	(499)天蚕の優良系統育成[H01~H17/H14/(令達)]	病理昆虫	<H12-指-35>採卵用天蚕に見られる天蚕微粒子病病原検出数の最近の推移	蚕桑技術						
		(T-2)蚕等の多面的機能の有効利用技術の確立	T-2-1-1	539	(500)蚕による農業・生体活性物質のモニタリング手法の開発[S57~H12/国庫助成]	蚕桑技術							
								<H11-研-14>数種昆虫における人工飼育の可能性	蚕桑技術				
								<H12-研-20>ポリ袋を利用した簡易な1-3歳無菌飼育法	蚕桑技術				
								<H15-普-18>天敵と物理的防除法を活用したビーマシ虫防除方法	病理昆虫				
								<H12-研-21>デワリ初回の挿し木による増殖法	蚕桑技術				
								<H13-研-08>施設 [®] -マにおけるヒメカミシ類の発消長	病理昆虫				
								<H14-研-21>施設 [®] -マにおけるヒメカミシ製剤の放飼時期の目安	病理昆虫				
								T-3-1-1	543	(503)寄生蜂による園芸作物の鱗翅目害虫の防除技術の確立[H08~H12/県単研究]	病害虫		
<H12-普-10>複合交信攪乱剤を利用したりんご主要害虫防除	病害虫												
T-3-1-2	545	(505)フェロモンを利用した害虫防除技術の確立[H08~H12/国庫助成]	病害虫	<H12-普-14>りんご栽培なばなのコガ防除における性フェロモンの使用回数削減(追補)	環境保全								
						T-3-1-3	546	(507)有用拮抗微生物の探索と評価[H05~H13/国庫助成]	環境保全				
						547	(508)作物生育促進性根圏微生物の利用技術の開発[H05~H13/県単研究]	環境保全					
(U)有機農業技術	(U-1)有機農産物等の生産技術の開発	U-1-1-1											
						549	(326)合理的施肥のための新肥料の開発[H11~H13/(民間委託)]	土壌作物栄養					
		U-1-2-2						<H12-研-10>メダカ無農薬栽培における病害虫の発生(6-7月種刈)	営農技術				
								551	(714)キャベツにおける無農薬・無化学肥料栽培技術[H13~H15/令達]	環境保全	<H15-普-20>早春まきまたは防虫ネットの利用でキャベツの殺虫剤散布を省略できる	環境保全	
		U-1-2-3						<H14-研-20>露地きゅうり栽培におけるべと病およびうどんこ病に対する酸性電解水の防除効果	環境保全				
								553	(703)水稲作における民間農法の経営的特長の把握[H13~H13/(県単研究)]	農業経営	<H13-行-09>水稲作における民間農法等の経営的特徴	農業経営	
								554	(H15-48)酸性電解水による野菜の病害に対する抑除効果の実証(post521)(国庫課題名:電解水によるキュウリ等の病害に対する抑除効果の実証)[H15~H16/国庫委託]	環境保全	<H16-研-12>酸性電解水の露地きゅうりのうどんこ病を対象とした使用法	環境保全	
		U-1-3-2											
								555	(524)野菜における環境保全型農業の総合組立[H10~H11/令達]	環境保全	<H11-研-22>ほうれんそうの無農薬・無化学肥料栽培における生育等への影響	環境保全	
								556	(523)水稲における環境保全型農業の総合組立[H13~H15/国庫助成]	環境保全	<H11-研-21>水稲有機栽培等の地域別可能性 <H12-指-05>いもち病の無防除栽培が可能となる立地条件と施肥基準 <H14-指-11>温湯浸漬法による水稲種子消毒 <H15-指-09>特別栽培農産物(水稲減農薬栽培)に対応した防除体系の組立て <H15-指-15>平成15年産水稲種子の温湯浸漬処理による発芽への影響	環境保全	

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ)(H11~H17)	小課題主査研究室	成果名(H11~H17)	成果主査研究室			
(V)保鮮流通	(V-1)県産農畜産物の多面的評価技術の確立	V-1-1-1	557	(530)各種農産物の品質評価指標の解明[H11~H15/-]	保鮮流通技術	<H13-研-12>トマトとピーマンの美味しさと理化学的な関係	保鮮流通技術			
						<H14-指-21>雨よけほうれんそう生体中硝酸含量の小型反射式光度計を用いた分析法				
			558	(H17-15)消費地における県産野菜の内部品質評価[H17~H17/県単研究]		<H17-指-35>県産野菜の特徴と評価	保鮮流通技術			
			559	(H17-16)りんどうの鮮度保持(花もち性向上)技術の確立[H17~H19/県単研究]	保鮮流通技術	<H17-研-19>りんどうの花持ち性向上のための各種資材の効果	保鮮流通技術			
		V-1-2-2	560	(532)岩手特産物の作型・栽培環境の違いによる栄養成分含量変動の解明[H09~H12/-]	保鮮流通技術	<H13-指-23>木の実や柿の葉「ビタミンCが豊富で抗酸化活性が高い」	保鮮流通技術			
			561	(531)農産物の各種栄養成分含量と土壌環境条件との関係の解明[H10~H14/(国庫助成)]	保鮮流通技術	<H14-指-22>思い切った減肥でほうれんそう中の硝酸含量を減少させる	保鮮流通技術			
		V-1-3-2	562	(H15-17)雑穀系統の機能性・食味関連形質の評価[H15~H16/県単研究]	保鮮流通技術	<H17-指-19>在来工系統「達磨」及び「もじやっぺ」の炊飯米への混合割合	保鮮流通技術			
		(V-2)県産農産物の高鮮度貯蔵・輸送技術の確立	V-2-1-1	563	(745)枝豆新品種の鮮度保持技術の確立[H13~H15/令達]	保鮮流通技術	<H14-普-18>MA包装でえだまめ品種「ちゃげ丸」の食味の良さが保たれる	保鮮流通技術		
							<H15-指-30>黒大豆えだまめ「ちゃげ丸」の収穫適期			
	V-2-1-2		564	(874)西洋なし早期出荷のための予冷・追熟技術の開発[H14~H16/県単研究]	保鮮流通技術	<H16-指-21>西洋ナシ「アラ」の追熟法(追補)	保鮮流通技術			
			565	(H17-41)県産園芸品目の輸出対応鮮度保持技術の確立[H17~H18/令達]	保鮮流通技術	<H17-研-19>りんどうの花持ち性向上のための各種資材の効果	保鮮流通技術			
	V-2-2-1		566	(534)農産物の低温代謝生理の把握と好適予冷貯蔵条件の解明[H07~H11/県単研究]	保鮮流通技術	<H11-普-22>ゆり切り花の貯蔵技術	保鮮流通技術			
			567	(533)MA包装資材等の利用による農産物の低コスト貯蔵・流通技術の開発[H09/H06~H11/県単研究]	保鮮流通技術	<H12-普-11>りんご早生品種「きおう」の高鮮度短期貯蔵技術	保鮮流通技術			
			568	(H15-18)ヤーコンの長期貯蔵条件の解明[H15~H16 H15/令達]	保鮮流通技術					
	V-2-3-1		569	(883)通いコンテナ利用における高鮮度保持技術の確立[H14~H16/県単研究]	保鮮流通技術	<H16-指-36>通いコンテナ利用による青果物輸送の特徴	保鮮流通技術			
	V-2-3-2		570	(536)真空予冷施設等を高度に活用した高鮮度流通技術の開発[H11~H13/(県単研究)]	保鮮流通技術	<H13-普-18>キャベツ/レタスにおける夏季高温期の真空予冷庫設定条件	保鮮流通技術			
		571	(H14-02)トマト・ピーマンの一晚予冷技術の開発[H14~H15/令達]	保鮮流通技術	<H14-普-17>トマトの翌日出荷のための予冷方法 <H15-普-17>トマトの翌日出荷のための予冷方法(追補)	保鮮流通技術 保鮮流通技術				
	(W)農産物加工・地域特産品開発	(W-1)県産農畜産物の高付加価値化を目指した加工技術の開発	W-1-1-0	572	(H16-21)水田作物の地産地消型加工技術の開発[H16~H19 H17/県単研究]	保鮮流通技術	<H17-普-04>「青丸くん」の緑色を残した豆乳の製造条件	保鮮流通技術		
W-1-1-1				573	(H15-16)県産小麦の地域別製パン適性の評価手法確立[H15~H16/令達]		保鮮流通技術		<H17-指-14>県内産小麦(ナグコト)の子実中グルテン含有率の実態と土壌・栽培条件との関係	保鮮流通技術
				574	(H16-57)冷害被害米の新用途開発[H16~H18/国庫委託]		保鮮流通技術			
W-1-2-1			575	(542)生リンゴジュースの製造基礎技術の開発[H11~H11/令達]	保鮮流通技術					
			576	(543)玄米外皮層を原料としたパン製造技術の開発[H12~H12/令達]	保鮮流通技術					
			577	(H15-43)果実を丸ごと使った健康志向食品の開発[H15~H16/県単研究]	保鮮流通技術	<H16-普-16>榨汁機を利用し搾汁率を高めたリンゴジュースの製造法	保鮮流通技術			
W-1-2-2			578	(544)地域特産物を利用した加工食品の開発[H13~H13/(令達)]	保鮮流通技術	<H11-指-36>販売用農産物加工品の「丸」作成方法 <H14-指-13>たいいず脳化菓子は二段階脳化法で品質が良くなる	保鮮流通技術 保鮮流通技術			
			579	(881)地域特産物加工品による沢ごとオリジナル商品の開発[H14~H16/県単研究]	保鮮流通技術	<H15-普-12>はとむぎを原料とする「バースト」状食品の製造方法 <H16-指-16>はとむぎ新品種「はとゆたか」を原料とした「バースト」食品の特性 <H16-指-22>「小枝柿」の炭酸ガス脱炭技術および渋戻り抑制技術	保鮮流通技術 保鮮流通技術 保鮮流通技術			
			580	(896)餅加工品の硬化抑制技術の開発[H14~H14/(令達)]	保鮮流通技術	<H15-普-04>温湯処理により杵搗き生餅の製造時間が短縮できる	保鮮流通技術			
			581	(H17-42)機能性成分を含むミルクジャム製造法の開発[H17~H18/令達]	保鮮流通技術					

研究分野	重点目標	中課題コード	小課題(連番)	課題名(小課題のみ) (H11～H17)	小課題 主査研究室	成果名 (H11～H17)	成果 主査研究室
	(W-2)地域特産物加工品の長期流通システムの確立	W-2-1-0	582	(547)浅漬等農産物加工品の低コスト・高品質貯蔵技術の開発[H09～H12/県単研究]	保鮮流通技術		
			583	(546)農産物加工品の品質評価法の確立[H11～H14 H13/(令達)]	保鮮流通技術	<H12-行-17>ふるさと食品の品質(1)県産果実飲料	保鮮流通技術
			584	(886)農産物加工品の品質評価法の確立[H13～H14/(令達)]	保鮮流通技術		
	(W-3)加工指導業務等	W-3-0-0	585	(548)加工工房指導業務[H09～H22/県単公園]	保鮮流通技術	<H17-指-62>農業ふれあい公園加工工房を利用して開発された県産農産物加工品の評価	保鮮流通技術
(X)情報利用	(X-1)農業環境情報の収集・解析技術の開発	X-1-1-1	586	(561)メッシュ気象情報を活用した作物栽培管理技術[H09～H13/県単研究]	営農技術		
			587	(885)農業気象情報の管理と活用技術の開発[H14～H16/県単研究]	環境保全		
			588	(855)気象情報を活用した麦収穫適期判定システムの開発[H14～H16 H15/県単研究]	営農技術	<H15-研-07>日射量、雨量、気温による小麦の子実水分変動予測法	営農技術
		X-1-2-2	589	(H16-42)フィールドサーバーの実用化技術の開発[H16～H18 H17/県単研究]	営農技術		
	(X-2)情報処理技術を活用した生産管理技術の開発	X-2-3-1	590	(751)生産及び流通経済環境の変化に対応した農業経営設計システムの開発[H13～H15/国庫委託]	農業経営	<H15-研-40>ホムレツ上で利用可能な営農指標作成システム	農業経営
	(X-3)農業・農村情報システムの開発	X-3-1-2	591	(H16-02)経営環境の変化に対応したネットワーク利用型農業経営設計システムの開発[H16～H18/県単研究]	農業経営	<H16-指-56>主要作物の生産技術体系及び収支データ	農業経営
<H17-指-58>生産技術体系の策定						農業経営	
	X-3-2-2	592	(325)水田地力富化の実態と適正施肥量指針策定[H07～H14/(令達)]	環境保全	<H11-指-27>堆きゅう肥利用に関する耕種農家の意向と流通促進方策	農業経営	
(Y)食の安全・安心	(Y-1)化学物質等のリスク管理を考慮した農産物生産技術の開発	Y-1-0-0	593	(H16-17) 2 .産地の安全安心を支える基盤技術の開発[H16～H19/県単研究]	土壌作物栄養	<H17-指-61>重量測定による家畜ふん堆肥の窒素肥効の簡易推定法	土壌作物栄養
	(Y-2)環境負荷低減型地域営農システムの確立	Y-2-0-0	594	(H16-16) 1 .産地評価向上手法の開発[H16～H20 H18/県単研究]	環境保全	<H16-研-38>里地・里山の生き物データベースの作成	環境保全
						<H17-指-10>ワットネット掛け利用による稲体の窒素栄養状態の簡易推定法	土壌作物栄養
			595	(H16-18) 3 .安全安心な水稻栽培技術の総合実証[H16～H20/令達]	環境保全	<H17-指-07>割れ初率の高い水稻種子の温湯浸漬処理による発芽率への影響	環境保全
						<H17-研-30>発酵鶏糞レット施用牧草地の収量及び硝酸態窒素推移	外山畜産
(Y-3)生鮮野菜の品質自主管理技術の開発	Y-3-0-0	598	(H16-20) 5 .野菜の品質自主管理技術の開発[H17～H20/国庫助成]	保鮮流通技術			